

使いこなす本

B3FH-5251-01

ハート編

FMV-DESKPOWER Pliché

model 40X, model 40

パソコンの各部は
こうなっている

基本的な機能を使おう

オプション機器を活用しよう!

BIOSセットアップ

技術情報

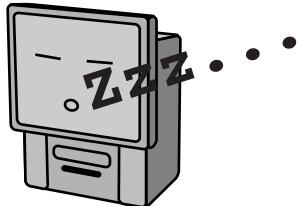
索引



FUJITSU

こんなことがやりたい！

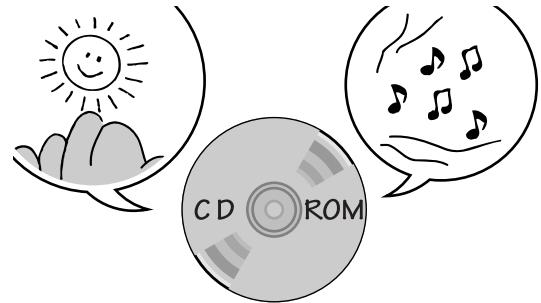
スタンバイ（省電力）機能で
節電したい！



ちょっと休憩...そんなときはスタンバイ
(省電力)機能で電力消費を抑えましょう。

→ P.15

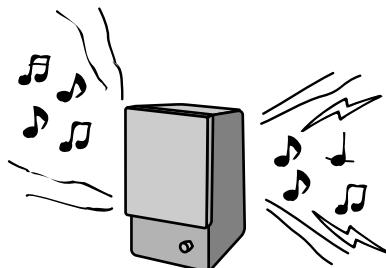
CD-ROM や音楽 CD を使いたい！



パソコンで CD-ROM や音楽 CD の映像や
音声を楽しむことが出来ます。

→ P.20

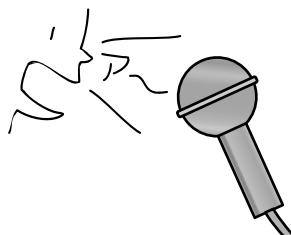
スピーカーで音を聞きたい！



音が大きすぎる、あるいは小さくて聞こえ
ない...そんなときはスピーカーの音量を調
節しましょう。

→ P.23

マイクを使って録音したい！

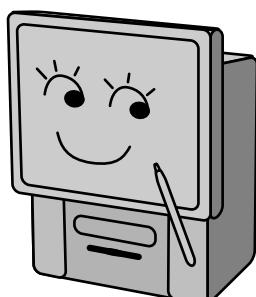


自分の声をいろいろなアプリケーションで
使いたい...そんなときはマイクを使って録
音し、保存しましょう。

添付のマイクをお使いください。

→ P.27

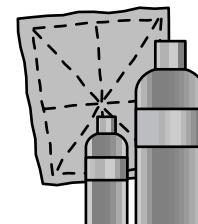
タッチパネルでらくらく！



ペンでタッチパネルに触れるだけ...簡単に
操作ができます。

→ P.32

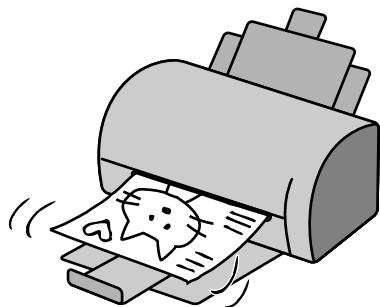
なんだか汚れてきちゃった...
お手入れの方法が知りたい！



パソコンを毎日使っていると、だんだん汚
れてしまいますよね...まめにお手入れをし
ましょう。

→ P.38

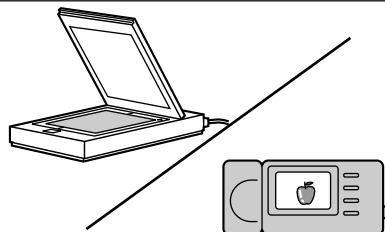
パソコンで作ったものを印刷したい！



年賀状、カード、企画書…作ったものを印刷したいときは、プリンタを接続します。

☞ P.46

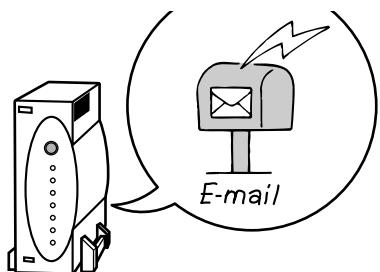
お気に入りのイラストや写真を取りみたい！



お気に入りのイラストや写真を取り込んで、オリジナルの画像を作りたい…そんなときはスキャナやデジタルカメラを接続します。

☞ P.50

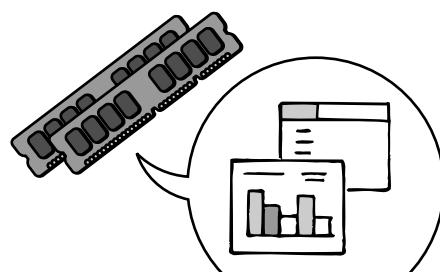
ISDN回線を使いたい！



ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい…そんなときはターミナルアダプタを接続します。

☞ P.53

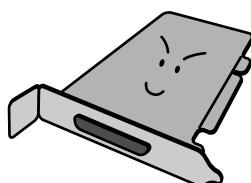
パソコンの処理をもっと快適にしたい！



たくさんのアプリケーションを同時に使いたい、「メモリ容量の不足」のメッセージがよく出る…そんなときはメモリを増設します。

☞ P.57

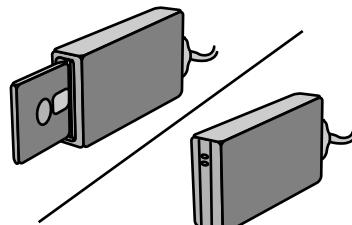
パソコンでもっといろいろやってみたい！



ビデオの編集をしたり、PCカードを使えるようにしたり…拡張カードを取り付けると、さまざまなことができるようになります。

☞ P.63

もっとたくさんのデータを保存したい！



あれもこれもとておきたい…MOドライブやハードディスクを増設すると、大容量のデータを保存できます。

☞ P.69, ☞ P.74

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本パソコンおよびその他のオプション機器を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

⚠️ 警告	⚠️ 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

記号の例とその意味	
	で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。
	で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左図の場合は一般的な強制事項）が示されています。

画面例および入力例について

- 表記されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が若干異なる場合があります。
- お客様に入力していただく文字列（コマンドライン）などは、入力例の文字上にアミ をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。
`dir c:`
この場合は、「dir」と入力したあと、 （空白キー）を1回押し、続けて「c:」と入力してください。
- 特に指示がない場合、クリック、ダブルクリックの操作は、マウス、ペンのどちらで操作しても構いません。

イラストについて

- 本来接続されているケーブル等を省略している場合があります。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 重要	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 アドバイス	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
 便利	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
 次へ	手順が分かれる場合などに、次に進む箇所を示しています。
 参考	参照先を記述しています。
 マニュアル	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
 CD-ROM	CD-ROMを表しています。
 フロッピーディスク	フロッピーディスクを表しています。
 用語	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system	Windows 98
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Microsoft® Outlook™ Express	Outlook Express
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
情報処理機器の省エネルギー化推進に関する法律	省エネ法

機種名の表記について

次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
FMV-DESKPOWER Pliché model 40X, model 40	本パソコン
FMV-DESKPOWER Pliché model 40X	model 40X
FMV-DESKPOWER Pliché model 40	model 40

こんなことがやりたい！
本書の表記について

第 1 章 パソコンの各部はこうなっている

1. 各部の名称と働き	2
パソコン本体前面	2
パソコン本体背面	4
キーボード	6
マウス	9

第 2 章 基本的な機能を使おう

1. 電源を入れる / 電源を切る	12
電源を入れてパソコンを使おう	12
今日はおしまい。電源を切るには？	13
2. スタンバイ（省電力）機能を使う	15
スタンバイ（省電力）機能とは？	15
電源の管理	16
3. フロッピーディスクを使う	17
使えるフロッピーディスクは？	17
気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき	18
フロッピーディスクをセットする / 取り出す	18
フロッピーディスクのデータを守るには	19
4. CD-ROM を使う	20
使える CD は？	20
気をつけてください～ CD を使うとき	20
CD をセットする / 取り出す	21
5. スピーカー / ヘッドホンを使う	23
音量を調節する	23
ヘッドホンを使う	25
6. マイクを使う	27
気をつけてください～マイクを使うとき	27
マイクで録音しよう	27
7. スクロールボタンを使う	30
スライドして使う	30
押して使う	31
8. タッチパネルを使う	32
タッチパネルの使いかた	32
タッチパネルの補正	33
9. 画面の解像度や発色数を変える	35
表示できる解像度と発色数	35
解像度や発色数を変更する	36

第3章 オプション機器を活用しよう！

10. お手入れのしかた	38
パソコン本体 / タッチパネル / キーボードのお手入れ	38
マウスのお手入れ	38
フロッピーディスクドライブのお手入れ	40
1. オプション機器を取り付ける前に	42
取り付けられるオプション機器	42
オプション機器の接続にあたって	44
2. つないで活用！！	46
文書や画面を印刷したい！ ~ プリンタを接続する ~	46
お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！	
~ スキャナ / デジタルカメラを使う ~	50
ISDN 回線に接続したい！	
~ ターミナルアダプタを接続する ~	53
つないでらくらく！ ~ USB 機器を接続する ~	54
3. パワーーアップするために ~ 本体カバーを取り外す ~ ...	55
本体カバーを取り外す	55
本体カバーを取り付ける	56
4. メモリを増やす	57
メモリを増やすとは？	57
取り付けられるメモリ	58
メモリを取り付ける	59
5. 拡張カードを増設する	63
拡張カードとは？	63
お使いになれる拡張カード	64
拡張カードを取り付ける	66
6. MO ドライブを増設する	69
MO とは？	69
コラム 終端抵抗 (ターミネータ) とは	71
外付け MO ドライブを取り付ける	71
7. その他のオプション機器を使う	74
ハードディスクを増設する	74
CRT ディスプレイを使う	81

第4章 BIOS セットアップ

1. BIOS セットアップとは	84
2. BIOS セットアップの操作のしかた	85
BIOS セットアップを起動する	85
設定を変更する	86
変更内容を取り消す	87
BIOS セットアップを終了する	88

3. ご購入時の設定に戻す	90
4. BIOS セットアップメニューの詳細	92
System Information	92
Product Information	94
Date and Time	95
Boot Options	96
Disk Drives	98
Peripherals	100
Video	103
PnP/PCI	104
Power Management	105
Exit Setup Utility	108
5. BIOS が表示するメッセージ一覧	110
メッセージが表示されたときは	110
メッセージ一覧	110

第 5 章 技術情報

1. 仕様一覧	114
パソコン本体	114
液晶ディスプレイ	115
タッチパネル	115
サウンド機能	115
スピーカー	115
FAX / ボイスモデムカード	116
IRQ (割り込み要求) 一覧	117
コラム IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request) とは	117
コネクタのピン配列と信号名	119
本体のコネクタ / ジャックで使用できるケーブル	123
2. コアの取り付け	124
3. ドライバのインストール	125
インストールのときに気をつけること	125
ディスプレイドライバをインストールする	126
サウンドドライバをインストールする	131
タッチパネルドライバをインストールする	136
4. その他の注意事項	138
液晶ディスプレイの特性	138
液晶ディスプレイの廃棄	138
赤外線通信ポートをお使いになるとの注意	138
モデムについて	139
かんたんメールボタンについて	141
スタンバイ時の注意	141
画面表示について	141

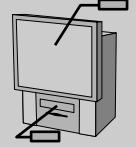
カラーイメージスキャナ (RapidScan) RS-100 についての注意 ..	141
外部 MIDI 使用時の注意 ..	142
電源の切断について ..	142
ACPI について ..	142
 索引 ..	149

第1章

パソコンの各部はこうなっている

パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1. 各部の名称と働き 2



1

各部の名称と働き

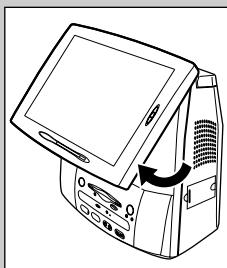
ここでは、パソコン本体前面、背面、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面

アドバイス

タッチパネルの角度は調節できます

タッチパネルの下部を引き出すと、角度が調節できます。

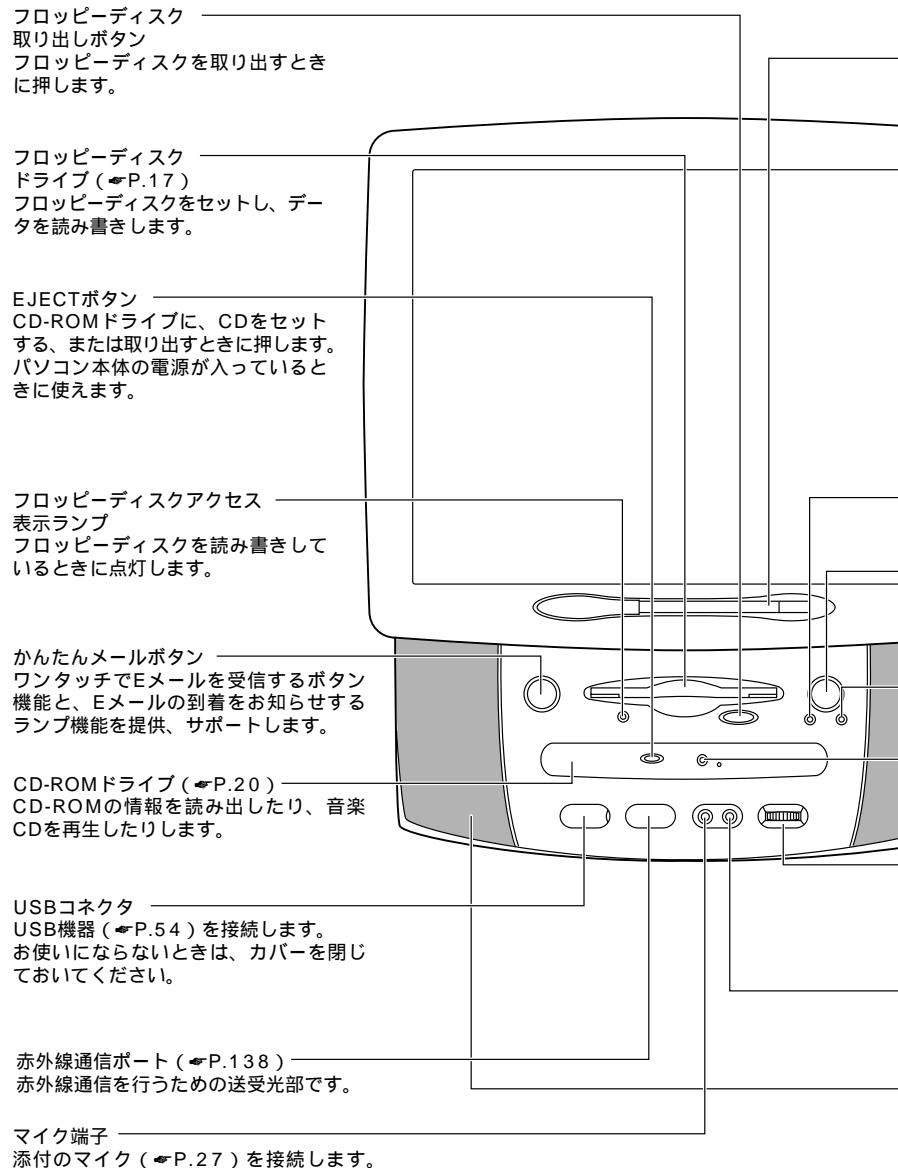


用語

USB(ユースピー)

Universal Serial Bus という規格の略称です。主に USB 規格に対応している機器には、次のものがあります。

- ・マウス
- ・キーボード
- ・プリンタ
- ・ターミナルアダプタ
- ・スピーカー
- ・デジタルカメラ
- ・スキャナ



ペン（☞P.32）
画面に文字や絵を書くときやタッチ操作をするときに使います。
マウスに代わって、クリック、ダブルクリックができます。
右クリック、ドラッグ、ポイントなどの操作はマウスをお使いください。

ライトネスボリューム
液晶ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。
上にスライドさせると明るくなり、下にスライドさせると暗くなります。

タッチパネル（☞P.32）
パソコンの画面を表示する液晶ディスプレイです。
タッチ操作するときに使います。

ハードディスクアクセス表示ランプ
ハードディスクを読み書きしているときに点灯します。

電源スイッチ（☞P.12）
パソコン本体の電源を入れるとき、スタンバイにするとき、
またはスタンバイから復帰させるときに押します。

電源ランプ
パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

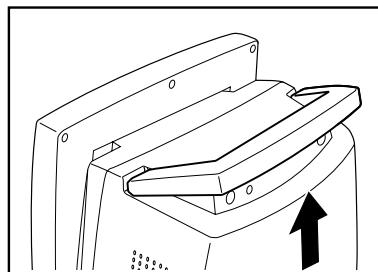
BUSYランプ
CD-ROMから情報を読み込んでいるときや、音楽CDを
再生しているときに点灯します。

音量ボリューム（☞P.23）
スピーカー、ヘッドホンの音量を調節します。

ヘッドホン端子
市販のヘッドホン（☞P.25）を接続します。

スピーカー（☞P.23）
本パソコンの音声を出力します。

パソコン本体背面



取っ手
持ち運ぶとき、引き上げて使えます。

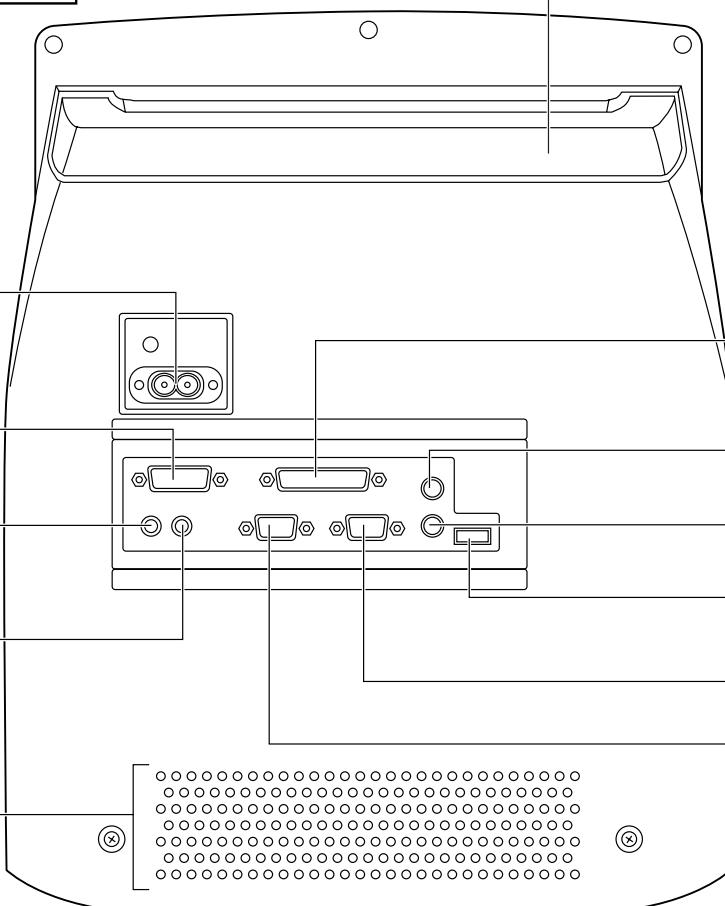
インレット
電源ケーブルを接続します。

MIDI/JOYSTICK端子
MIDIケーブルやジョイステイクを接続します。

LINE OUT端子
オーディオ機器などの音声入力端子に接続します。

LINE IN端子
オーディオ機器などの音声出力端子に接続します。

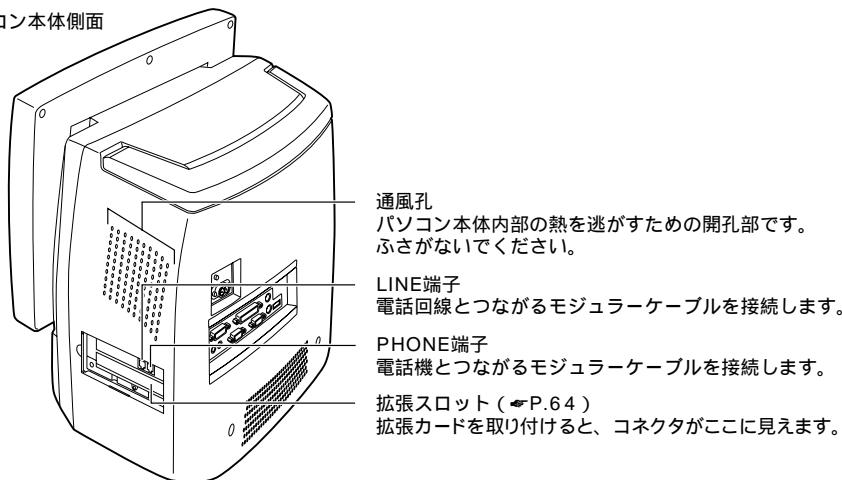
通風孔
パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。
ふさがないでください。



注意

パソコン本体を持ち運ぶときは、必ず取っ手を持つようにしてください。
取っ手以外の部分を持つと、落下してけがの原因となることがあります。また、
故障の原因となることがあります。

パソコン本体側面

**パラレルコネクタ**

プリンタ（☞P.46）やスキャナ（☞P.50）などのケーブルを接続します。
パラレルポートともいいます。

マウスコネクタ

別売りのPS/2マウスを接続します。通常は使いません。

キーボードコネクタ

別売りのPS/2キーボードを接続します。通常は使いません。

USBコネクタ

USB機器（☞P.54）を接続します。本体前面のものと同じ規格です。
添付のキーボード（☞P.6）を接続します。

ディスプレイコネクタ

別売りのCRTディスプレイ（☞P.81）のケーブルを接続します。

シリアルコネクタ（COM1）

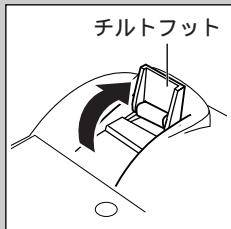
デジタルカメラ（☞P.50）、ターミナルアダプタ（☞P.53）などのRS-232C規格に対応した機器のケーブル（D-SUB9ピン）を接続します。
シリアルポートともいいます。

キー ボード

アドバイス

キー ボードに角度をつけて置くには

キー ボード底面にあるチルトフットを起こすと、キー ボードに角度をつけて置くことができます。使いやすいようをお選びください。



他社製のUSBハブではお使いになれません

添付のキー ボードは、本パソコンのUSBコネクタに接続してお使いください。

添付のキー ボードは、本パソコンのUSBコネクタに接続してお使いください。

キー ボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるためのものです。

本パソコンのキー ボードはワンタッチボタン付キー ボードです。

本体背面のUSBコネクタ(☞P.5)に接続します(☞『取扱説明書』)。

使用するアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーを押したときの一般的な動作を説明しています。

チルトフット

マウスポート(裏面)――

添付のマウスを接続します(☞『取扱説明書』)。

添付のマウス以外は接続しないでください。

ワンタッチボタン(☞P.8)――

音楽CDの操作や音量調節、Eメールソフトの起動を直接行えるボタンです。

パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

F(ファンクション)キー――

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

Esc(エスケープ)キー――

作業を取り消すときに使います。

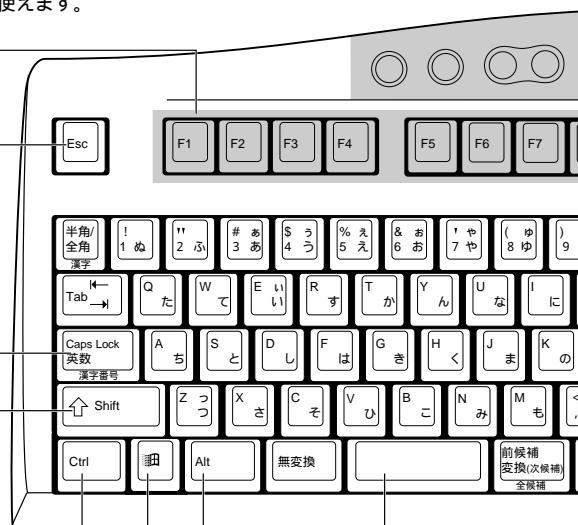
Caps Lock(キャップスロック)キー――

英数キー

アルファベットを入力するときに、**Shift**を押しながらこのキーを押すと、大文字 / 小文字入力が切り替わります。

Shift(シフト)キー――

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。



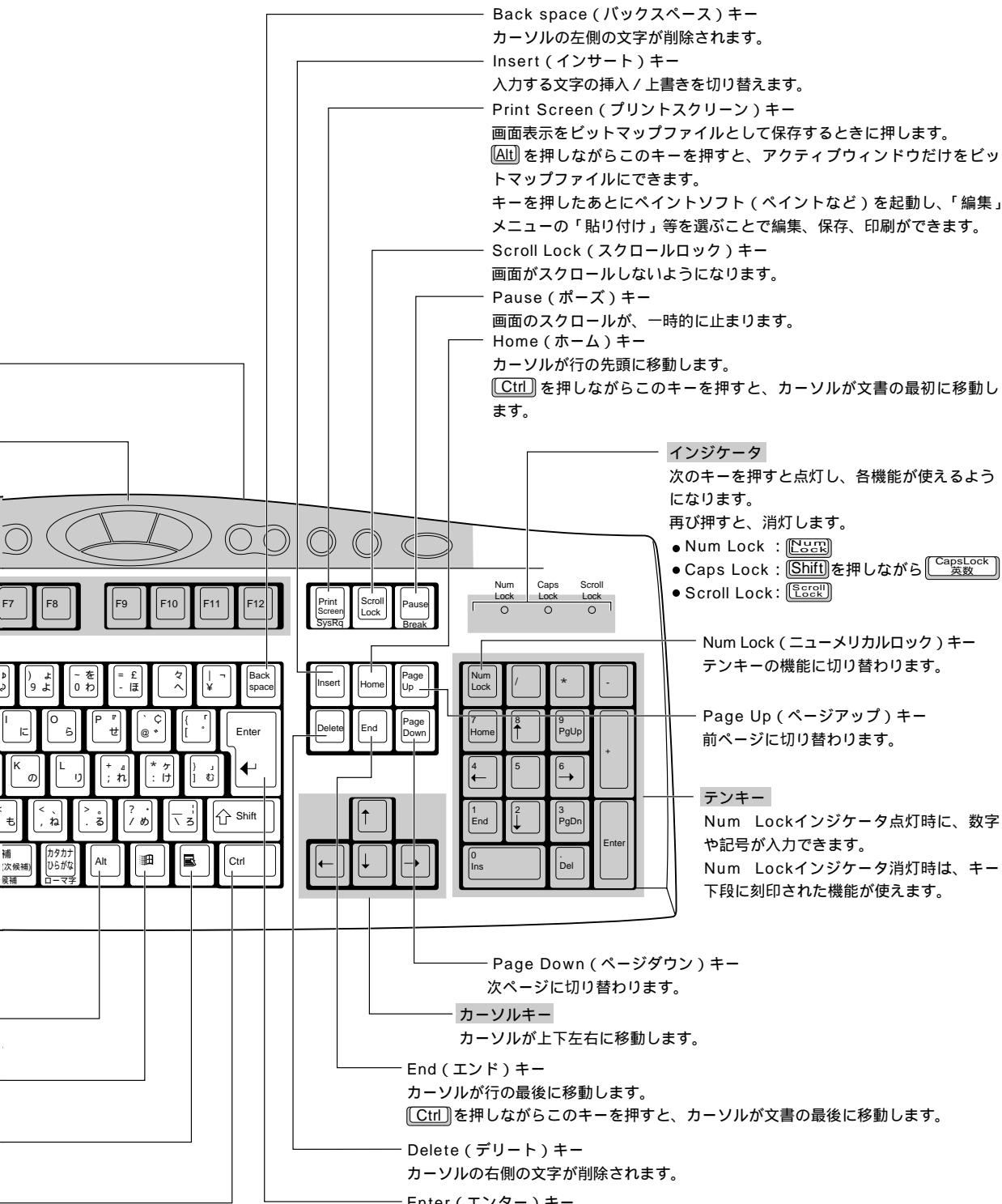
空白(スペース)キー――
空白が入力されます。

Alt(オルト)キー――
他のキーと組み合わせて使います。

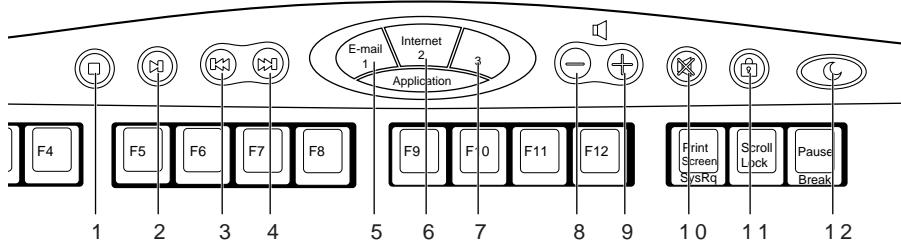
Windows(ウインドウズ)キー――
「スタート」メニューが表示されます。

Application(アプリケーション)キー――
右クリックと同じ役割をします。

Ctrl(コントロール)キー――
他のキーと組み合わせて使います。



ワンタッチボタン



■ 重要

CD 操作ボタンは、音楽 CD 以外では使わないでください

パソコンの動作が不安定になる場合があります。

特に「停止 / 取り出しボタン」を押すと Eject 機能が働いてしまい、エラー画面が表示される場合があります。

詳しくは、『トラブル解決 Q&A』の「CD-ROMを取り出したら青い画面になった」をご覧ください。

1 ~ 4 CD 操作ボタン

1 停止 / 取り出しボタン

: 音楽 CD の再生を停止します。
停止しているときに押すと、トレーが少し飛び出します。

2 再生 / 一時停止ボタン

: 音楽 CD の再生をはじめます。
再生しているときは、一時停止します。

3 卷き戻しボタン

: 音楽 CD の再生する曲順をひとつ前にします。

4 早送りボタン

: 音楽 CD の再生する曲順をひとつ次にします。

5 ~ 7 Application (アプリケーション) ボタン

FM 便利ツール (『FMV 総合案内』) が起動しているときに使えます。

FM 便利ツールで設定したアプリケーションが起動します。詳しくは、FM 便利ツールのヘルプ画面をご覧ください。

ご購入時は、次のように設定されています。

5 Application ボタン 1 / E-mail ボタン : Outlook Express が起動します。

6 Application ボタン 2 / Internet ボタン : Internet Explorer が起動します。

7 Application ボタン 3 : インターネット無料体験が起動します。

8 ~ 10 音量調節ボタン

スピーカーの音量を調節します。詳しくは「音量を調節する」(☞P.23)をご覧ください。

8 ボリュームボタン (-) : 音量が小さくなります。

9 ボリュームボタン (+) : 音量が大きくなります。

10 Mute (消音) ボタン

: 音が消えます。

もう一度押すと、元の音量に戻ります。

11 スクリーンセーバー ボタン

: スクリーンセーバーが起動します。

12 スタンバイ ボタン

: 本パソコンがスタンバイ状態(☞P.15)になります。

もう一度押すと元の状態に戻ります。

 **アドバイス**
「Application」と書かれている部分はボタンではないので押せません。

マウス

アドバイス

マウスの設定を変えるには

「コントロールパネル」
「マウス」(マウス)
で変更できます。

マウスポインターの速度を変えたり、左右ボタンの役割を入れ替えることができます。

詳しくは、デスクトップにある『パソコン便利帳』の「Q & A」の「マウス」をご覧ください。

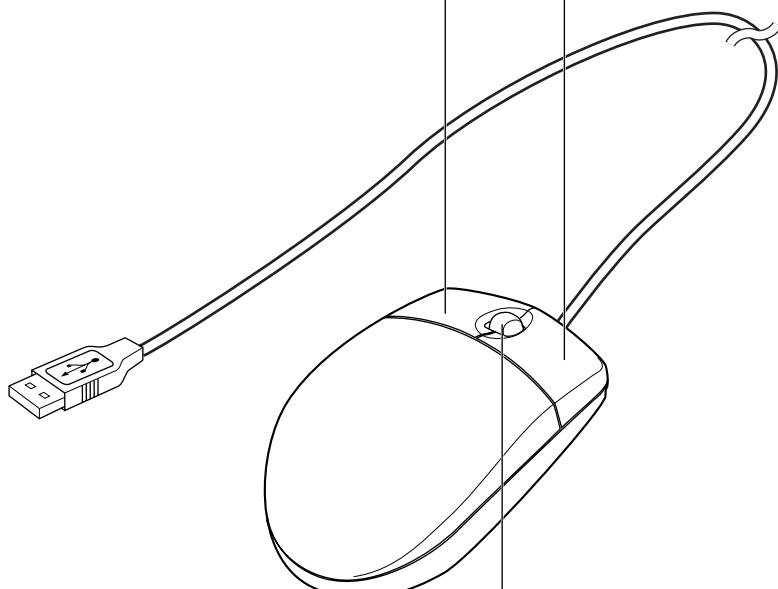
パソコン便利帳については、『FMV 総合案内』をご覧ください。

マウスのすべりが悪くなったり

マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。詳しくは、「マウスのお手入れ」(P.38)をご覧ください。

右ボタン
右クリックするとき押します。

左ボタン
クリックするとき押します。



スクロールボタン (P.30)
画面をスクロールしたいときに、押したりスライドさせたりします。

スクロールについて詳しくは、『かるがるパソコン入門』をご覧ください。

第2章

基本的な機能を使おう

本パソコンの基本的な取り扱い方法や、お手入れの
しかたについて説明しています。

1. 電源を入れる / 電源を切る	12
2. スタンバイ（省電力）機能を使う	15
3. フロッピーディスクを使う	17
4. CD-ROMを使う	20
5. スピーカー / ヘッドホンを使う	23
6. マイクを使う	27
7. スクロールボタンを使う	30
8. タッチパネルを使う	32
9. 画面の解像度や発色数を変える	35
10. お手入れのしかた	38

電源を入れる / 電源を切る

ここでは、電源の入れかたと切りかたについて説明します。



注意



- ・フロッピーディスクをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。
- ・CD-ROMなどをセットまたは取り出すときは、CD-ROMドライブのトレーラーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

電源を入れてパソコンを使おう



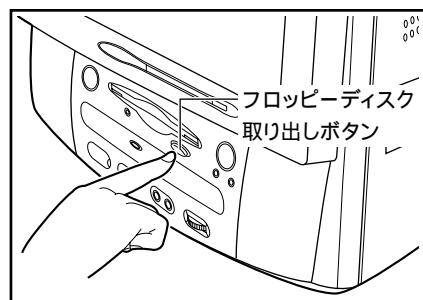
重要

電源を入れるときの注意

電源を切ったあとに再び電源を入れるときは、10秒ほどお待ちください。

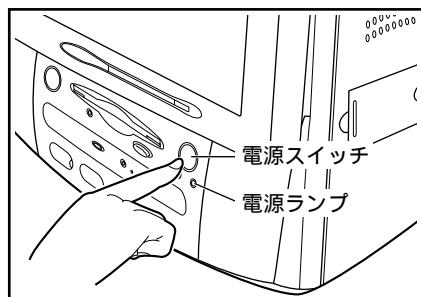
1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。

2 フロッピーディスクがセットされていないことを確認します。
セットされているときは、フロッピーディスクを取り出してください。➡「フロッピーディスクをセットする / 取り出す」(P.18)



3 電源スイッチを押します。

電源ランプが点灯します。
しばらくすると、Windows 98 の画面が表示されます。



アドバイス

先にパソコン本体の電源を入れてしまったら

接続されている機器を、Windows 98 が正常に認識できないことがあります。Windows 98 が完全に起動するのを待ち、次の手順に従って操作してください。

- 1 本パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動し、接続されている機器が認識されます。

電源スイッチを押してもWindows98が起動しないときは

Windows98が起動せず、英語のメッセージが表示されたままになっているときは、「BIOSが表示するメッセージ一覧」(☞P.110)をご覧ください。

今日はおしまい。電源を切るには？

■ 重要

電源スイッチは押さないでください

電源を切るときは、Windows98の操作で行います。電源スイッチは、通常は使わないでください。

必ずアプリケーションを終了してください

本パソコンが正常に終了できなかったり、次に起動するときに正常に起動できなくなることがあります。

1 本パソコンで行っていた作業を終了します。

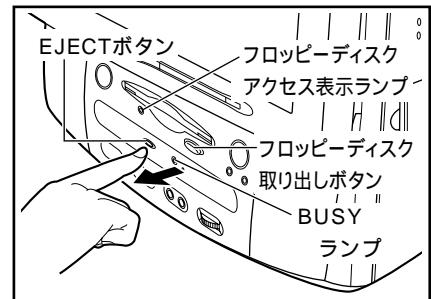
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 フロッピーディスクやCD-ROMがセットされていないことを確認します。

セットされているときは、取り出してください。

☞「フロッピーディスクをセットする／取り出す」(P.18)

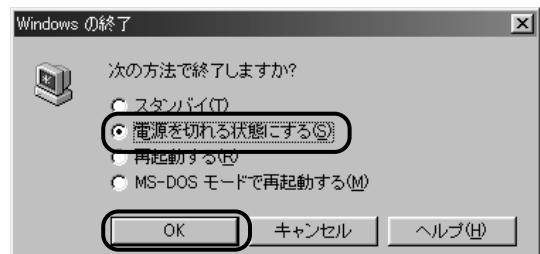
☞「CDをセットする／取り出す」(P.21)



3 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



4 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。 しばらくすると Windows 98 が終了し、電源ランプが消えます。



5 本パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

Windows 98 の操作で電源を切れないときは

アドバイス
強制終了について
□『トラブル解決Q&A』の
「操作中に動かなくなった」
をご覧ください。

使用中のアプリケーションが何らかの理由で動かなくなり、強制終了もできなくなったりときは、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けて、本パソコンの電源を切ってください。

このあと、パソコン本体の電源ランプが消えている（電源が切れている）ことを確認してください。

オレンジ色に点灯しているときはスタンバイ状態になっていて、電源が切れていません。もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切ってください。

通常は「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.13)の手順に従って本パソコンの電源を切ってください。



スタンバイ（省電力）機能を使う

ここでは、本パソコンの省電力機能について説明します。

スタンバイ（省電力）機能とは？

本パソコンの電力消費を抑えるための機能です。この機能が働くと、パソコン本体が省電力の状態になり、画面の表示が消えて真っ暗になります。

長時間作業をしないときなどは、この機能を使って節電を心がけましょう。

スタンバイ状態になると、電源ランプの点灯が、緑色からオレンジ色に変わります。

スタンバイ（省電力）機能を働くさせるには

本パソコンをスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

- ・キーボードのスタンバイボタン (☞P.8) を押す
- ・パソコン本体の電源スイッチ (☞P.3) を押す
- ・一定時間操作しなかったときに、自動的にスタンバイ機能が働くように設定する
☞「電源の管理」(P.16)
- ・「Windows の終了」ウィンドウで、「スタンバイ」に設定する
☞「今日はおしまい。電源を切るには？」(P.13) の手順 4 で「スタンバイ」をクリックします。

■ 重要

次のときは、スタンバイ状態にしないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

- ・Windows 98 の起動中
(パソコン本体の電源を入れてから画面が完全に表示されるまで)
- ・ハードディスクアクセス表示ランプや BUSY ランプの点灯中
- ・動画や音楽の再生中
- ・通信中
- ・ネットワーク接続中 (LAN カード増設時)

連続してスタンバイボタンや電源スイッチを押さないでください

スタンバイ機能が正しく働かなかったり、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

スタンバイ状態から元の状態に戻すには

本パソコンをスタンバイ状態から元の状態に戻すには、次の方法があります。

- ・もう一度キーボードのスタンバイボタンを押す
- ・もう一度パソコン本体の電源スイッチを押す
- ・キーボードの□□□□ や Shift を押す
- ・マウスを動かす

しばらく (5 ~ 10 秒) すると、電源ランプが緑色に点灯し、再び画面が表示されます。

電源の管理

Windows 98では、一定時間操作しなかったときにスタンバイ機能が働くように設定したり、その他の簡単な省電力機能が設定できます。

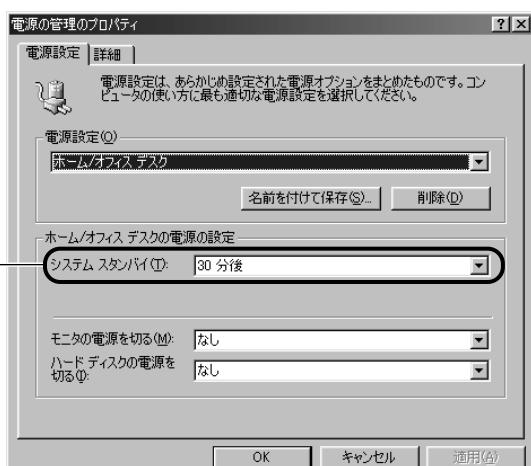
1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 設定を変更します。

本パソコンのご購入時には、次のように設定されています。

<電源設定タブ>



自動的にスタンバイ機能が働くまでの時間を設定します。

アドバイス

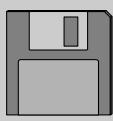
シャットダウンに設定すると

スタンバイボタンを押すと、本パソコンの電源が切れます。

<詳細タブ>



キーボードのスタンバイボタンを押すと、スタンバイ状態になります。



3

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクドライブは、フロッピーディスクにデータを保存したり、フロッピーディスクからデータを読み出したりするための装置です。

ここでは、本パソコンのフロッピーディスクドライブでお使いになれるフロッピーディスク、フロッピーディスクのセットのしかたや取り出しかたなどについて説明します。

用語

MB (メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさをあらわす単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

アドバイス

データを読み出せないことがあります

フロッピーディスクをフォーマットした環境(メーカー、機種、ソフトウェア)が違うと、データを読み出せないなど、正しくお使いになれないことがあります。

フロッピーディスクをご購入のときは

「DOS/V用フォーマット済み」と書かれたものをご購入ください。

使えるフロッピーディスクは?

本パソコンのフロッピーディスクドライブは、次のような種類、記憶容量のフロッピーディスクを読み書きできる、3モードドライブです。

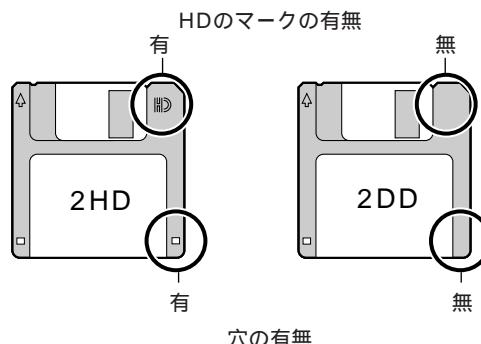
2HD

1.44MB、1.2MBの記憶容量のものです。

2DD

2HD(1.44MB)の半分の、720KBの記憶容量のものです。

上記の2種類のフロッピーディスクの外見は、下図のような違いがあります。

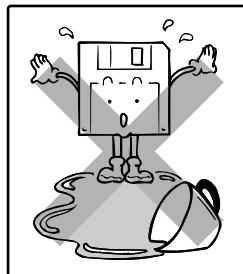


穴の有無

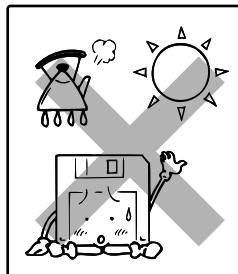
なお、本パソコンでは1.2MBにフォーマットすることはできません。フロッピーディスクのフォーマット方法については、『かるがるパソコン入門』をご覧ください。

気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき

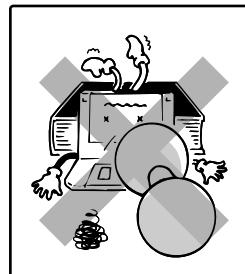
フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。データの読み書きができなくなることがあります。



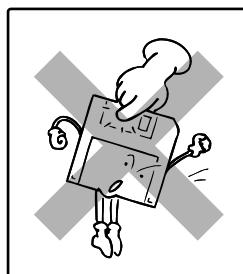
コーヒーなどの液体をかけないでください。



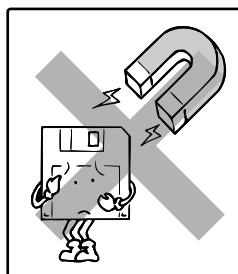
湿度の高い場所や直射日光の当たる場所には置かないでください。



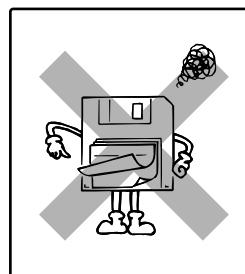
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



シャッタを開いて、中のディスク面に絶対に触れないでください。



磁石など磁気を帯びたものを近づけないでください。



ラベルを重ねて貼らないでください。
ドライブから取り出せなくなる原因となります。

フロッピーディスクをセットする／取り出す



注意

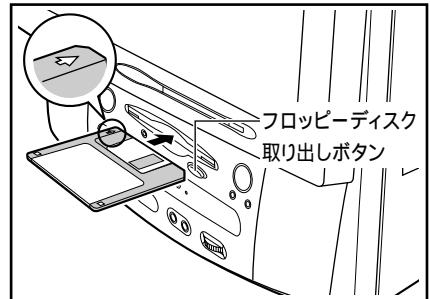


けが フロッピーディスクをセットまたは取り出すときは、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 矢印のある面を上にして、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで差し込んでください。



取り出す

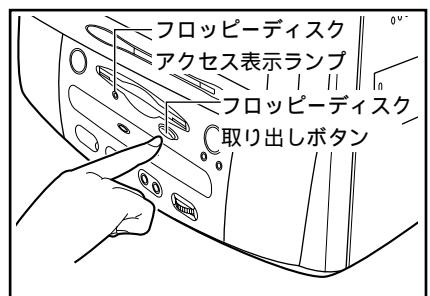
■ 重要

データが壊れる恐れがあります

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認し、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。

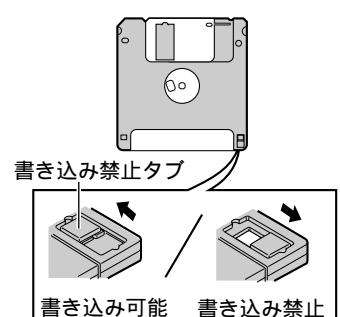


フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を誤って消さないようにするには、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態（書き込み禁止の状態）にします。

再び情報を書き込みたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態にします。

また、前ページの「気をつけてください～フロッピーディスクを使うとき」の注意事項を守ってお使いください。





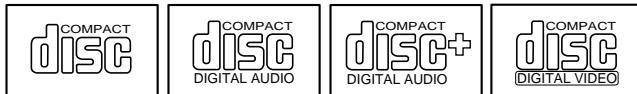
4

CD-ROM を使う

CD-ROM ドライブでは、CD-ROM の映像や音声、音楽 CD などを再生できます。また、パソコンのプログラムやデータの読み込みができます。ここでは、CD-ROM ドライブでお使いになれるディスクや、CD-ROM ドライブの使いかたを説明します。

使える CD は？

本パソコンでは、下図のマークがついた CD-ROM や音楽 CD (12cm、8cm) がお使いになれます。



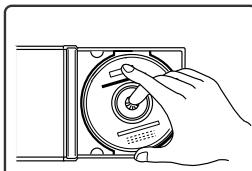
気をつけてください～ CD を使うとき

CD-ROM や音楽 CD をお使いになるときは、次の点にご注意ください。

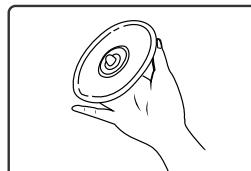
アドバイス

CD-ROM クリーニングディスクは使わないでください

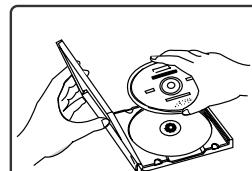
CD-ROM クリーニングディスクをお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、CD-ROM ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。



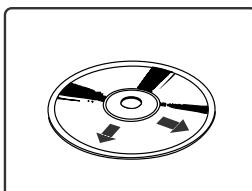
ケースから CD-ROM や音楽 CD を取り出すときは、ケースの中央を押しながら取り出してください。



データ面（裏面）に触れないように、CD-ROM や音楽 CD のふちを持つようにしてください。

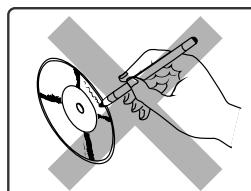


使わないときは、ケースに入れて保管してください。

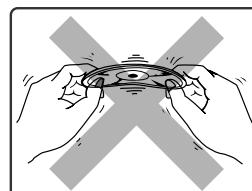


汚れたり水滴がついたりしたときは、乾いた柔らかい布で、中央から外側へ向かって拭いてから、自然乾燥させてください。

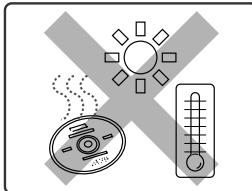
ヘアードライヤーなどで無理に乾燥させないでください。



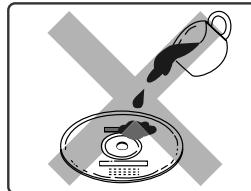
ラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。また、傷をつけたりしないでください。



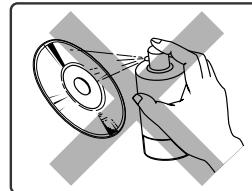
曲げたり、重い物をのせたりしないでください。



高温・低温の場所に保管しないでください。



コーヒーなどの液体をかけないでください。



ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。

CD をセットする / 取り出す

CD-ROM や音楽 CD（以下、まとめて CD と呼びます）は、パソコンの電源が入っている状態のときにセットや取り出しができます。



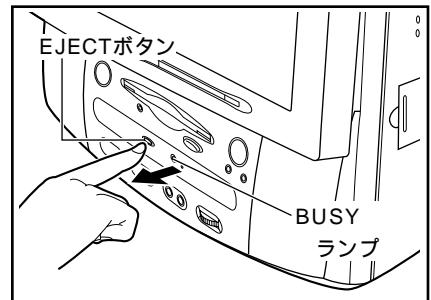
注 意



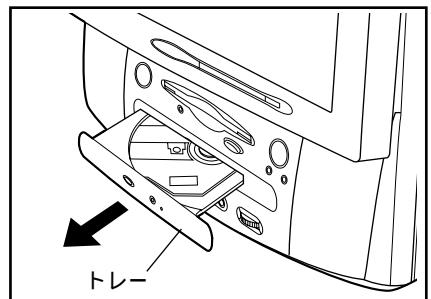
けが CD-ROMをセットまたは取り出すときは、CD-ROM ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

セットする

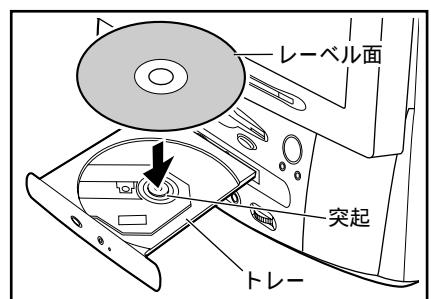
- 1** EJECT ボタンを押します。
CD をセットするトレーが少し出できます。



- 2** 出てきたトレーの中央を持つて、手で引き出します。



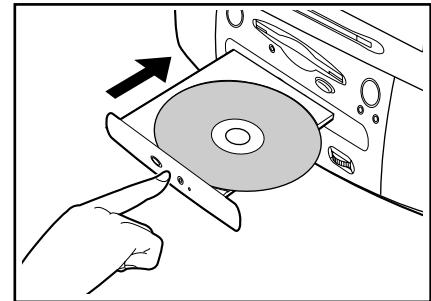
- 3** CD のレーベル面（印刷面）を上にして、トレーの中央に「カチッ」という音がするまではめ込みます。



- 4** トレーの中央部を押して、トレーを戻します。

トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。

CD がセットされ、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。



取り出す

- 1** CD を使っているアプリケーションがあれば、終了します。
- 2** BUSY ランプが消えていることを確認し、EJECT ボタンを押します。
- CD がセットされたトレーが少し出てきます。
- 3** 出てきたトレーを手で引き出し、CD を取り出します。
- 4** トレーを戻します。
- トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。

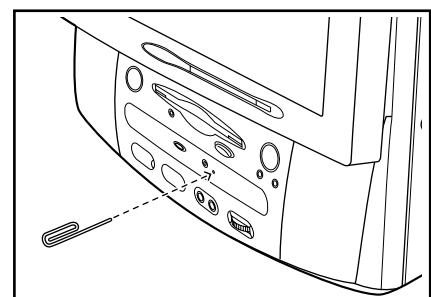
CD が取り出せないときは

曲がりにくい針金(大きなクリップをのばしたものなど)をご用意のうえ、次の手順で CD を取り出してください。

- 1** パソコン本体の電源を切ります。

- 2** 用意した針金を、CD-ROM ドライブの中央にある穴に差し込みます。

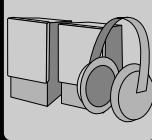
まっすぐに、少し力をこめて差し込んでください。トレーが少し飛び出します。



- 3** トレーを手前に引き出して、CD を取り出します。

- 4** トレーを戻します。

トレーを「カチッ」という音がするまで手で静かに押し込んでください。



ここでは、スピーカーの取り扱い上の注意や、音量を調節する方法、ヘッドホンを使う方法について説明します。

音量を調節する

音量は、次の方法で調節できます。

- ・パソコン本体前面の音量ボリュームを使う
- ・キーボードの音量調節ボタンを使う
- ・画面の音量つまみを使う

このうち、キーボードの音量調節ボタンは、画面の音量つまみと連動しています。また、それぞれの音量調節は相互に関係があります。

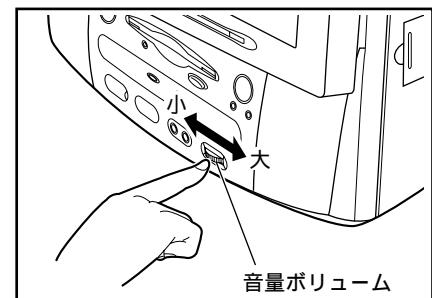
たとえば、上記の音量調節機能のうちどれか1つを最小にすると、他の音量を大きくしてもスピーカーからの音は聞こえません。また、すべての音量を最大にすると、スピーカーからの音量は最大となります。

ここでは、それぞれの音量調節のしかたを説明します。

パソコン本体前面の音量ボリュームを使う

1 音量ボリュームを回し、適切な音量に調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。

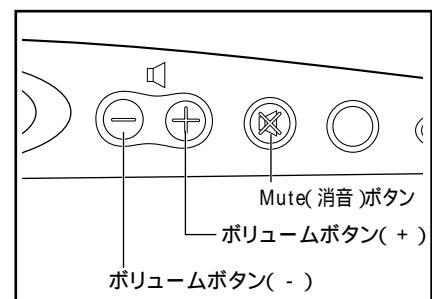


キーボードの音量調節ボタンを使う

1 キーボード上部にある音量調節ボタンを押して、適切な音量に調節します。

ボリュームボタン(-)を押すと小さく、ボリュームボタン(+)を押すと大きくなります。

Mute(消音)ボタンを押すと音が消え、タスクバーの表示が  に変わります。もう一度押すと元の音量に戻り、タスクバーの表示も  に戻ります。



画面の音量つまみを使う

 **アドバイス**
タスクバーに  (音量) が表示されていないとき

 **トラブル解決Q&A** の
「タスクバーに  (音量) が
表示されない」をご覧ください。

**他の音量調節の
しかた**

「出力マスター」ウィンドウの出力マスターのつまみを上下にドラッグしても、音量を調節できます。

「出力マスター」ウィンドウの表示方法は次のとおりです。

1 タスクバーの  (音量) を右クリックします。

2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。

「出力マスター」ウィンドウでは、以下の音量調節ができます。

- ・出力マスター：パソコン全体の音量
- ・Wave：Wave ファイルの音量
- ・シンセサイザ：MIDI の音量
- ・CD：音楽 CD の音量
- ・ライン入力：ライン入力の音量

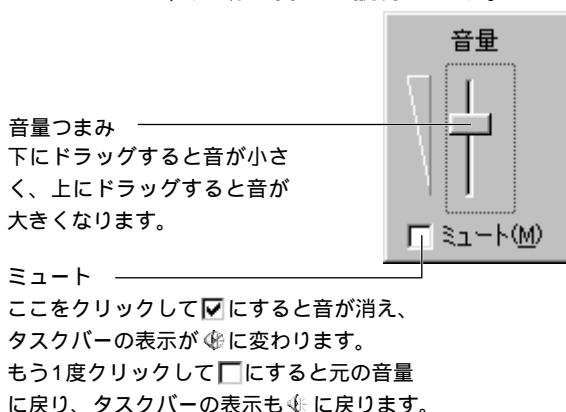
なお、各項目で調節した音量は、パソコン本体の電源を切ると、ご購入時の状態に戻ることがあります。

キーボードの音量調節ボタンの操作と同じことが、以下の手順で行えます。

1 タスクバーの  (音量) をクリックします。

音量つまみが表示されます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。



3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量つまみが閉じます。

閉じなかったときは、いったん音量つまみをクリックしてからデスクトップの何もないところをクリックしてください。

スピーカーから音が聞こえないときは

次のことを確認してください。

・適切な音量になっているか

音量調節機能 (☞P.23) のどれか 1 つでも音量が最小になっていると、スピーカーからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。

また、画面の音量つまみのミュートが になっている (タスクバーに  と表示されている) と音は聞こえません。キーボードの Mute (消音) ボタンを押すか、 をクリックして にしてください。

・ヘッドホンが接続されていないか

ヘッドホンが接続されていると、スピーカーからの音は聞こえません。ヘッドホンを取り外してください。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンは、パソコン本体前面のヘッドホン端子に接続します。



注意



聴力障害

ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間お使いになると、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

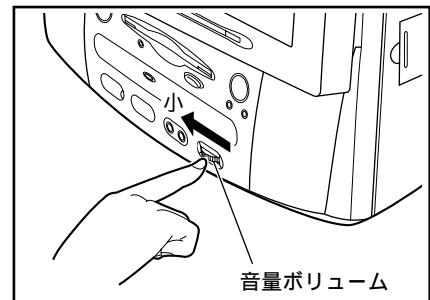


聴力障害

ヘッドホンをしたままパソコン本体の電源を入れたり切ったりしないでください。

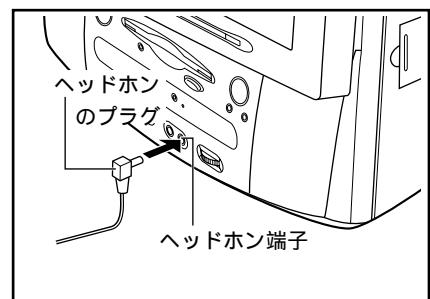
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

- 1** パソコン本体前面の音量ボリュームを左に止まるまで回して、音量を最小にします。



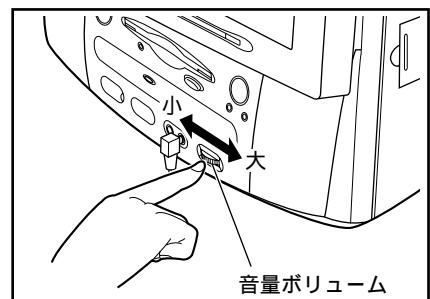
- 2** ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込みます。

2つ並んでいる差し込み口の右側です。



- 3** 音量ボリュームで適切な音量に調節します。

左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。



アドバイス
ヘッドホンを接続する
スピーカーからは音が聞こえなくなります。

ヘッドホンから音が聞こえないとき

次のことを確認してください。

- ・ヘッドホンが正しく接続されているか

「ヘッドホンを使う」(☞P.25)をご覧になり、正しく接続されているか確認してください。

- ・適切な音量になっているか

音量調節機能(☞P.23)のどれか1つでも音量が最小になっていると、ヘッドホンからの音は聞こえません。適切な音量に調節してください。

また、画面の音量つまみのミュートがになっている(タスクバーにと表示されている)と音は聞こえません。キーボードのMute(消音)ボタンを押すか、をクリックしてしてください。



6

マイクを使う

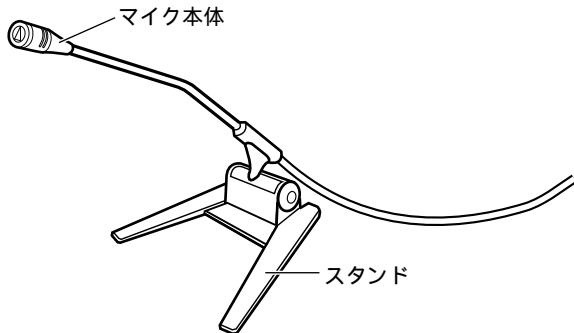
本パソコンでは、マイクを使って録音できます。

マイクは、パソコン本体前面のマイク端子（☞P.2）に接続します。

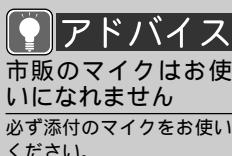
ここでは、マイクの取り扱い上の注意や、マイクを使った録音の方法について説明します。

2

基本的な機能を使おう（マイクを使う）



気をつけてください～マイクを使うとき



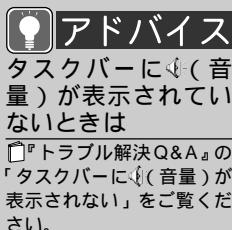
マイクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- ・スピーカーから離してお使いください。
ハウリング（キーンと音がすること）を起こす場合があります。
- ・録音するときは、マイクと口との距離が15～30cmの範囲になるようにお使いください。
- ・マイクの先を手で持たないでください。

マイクで録音しよう

マイクを使って音声などを録音するには、Windows98の「サウンドレコーダー」というアプリケーションを使います。

まず準備



- 1 タスクバーの「音量」を右クリックします。
- 2 表示されたメニューの「音量コントロールを開く」をクリックします。
「出力マスター」ウィンドウが表示されます。
- 3 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。

4 「音量の調整」の「録音」の□をクリックして☑にします。



5 「表示するコントロール」の「マイクロフォン」が☑になっていることを確認します。

□になっているときは、クリックして☑にします。

6 「OK」をクリックします。

「録音マスター」ウィンドウが表示されます。

7 「マイクロフォン」の音量つまみをドラッグして、マイク（入力レベル）を調節します。

8 「録音マスター」ウィンドウの右上にある×（閉じるボタン）をクリックします。

「録音マスター」ウィンドウが閉じます。

録音しよう

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「サウンドレコーダー」をクリックします。

「サウンドレコーダー」ウィンドウが表示されます。

2 （録音）をクリックします。



3 マイクから音声を録音します。

4 録音が終わったら （停止）をクリックします。

5 （再生）をクリックします。

録音した音声が再生されます。

6 「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックします。

7 保存する場所を選択し、ファイル名を入力して、「保存」をクリックします。

録音した音声がファイルに保存されます。

アドバイス

録音した音声が気に入らないときは

1 「ファイル」メニューの「新規」をクリックします。

2 「ファイルサウンドは変更されています。変更を保存しますか？」というメッセージが表示されるので、「いいえ」をクリックします。

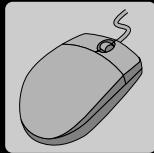
3 右記の手順 2 から操作します。

録音をやり直せます。



8 「サウンドレコーダー」ウィンドウの右上にある （閉じるボタン）をクリックします。

「サウンドレコーダー」ウィンドウが閉じます。



スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、マウスでより簡単に画面をスクロールすることができます。

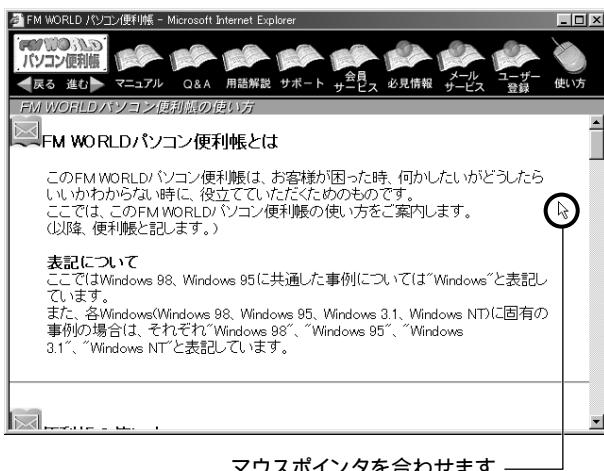
スクロールについて詳しくは、□『かるがるパソコン入門』をご覧ください。

なお、使用するアプリケーションによって、動作が異なったり、お使いになれないことがあります。

例として、ここではスクロールボタンを使って「FM WORLD パソコン便利帳」の情報を見てみます。

スライドして使う

- 1** ウィンドウをアクティブにした状態で、便利帳の情報が表示されている領域にマウスポインタを合わせます。

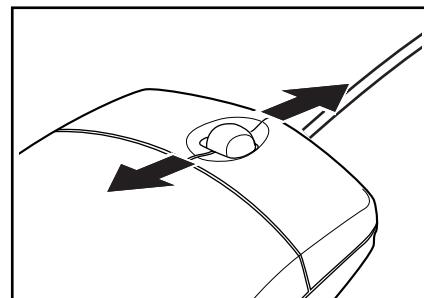


マウスポインタを合わせます

- 2** スクロールボタンを、マウスの後方へスライドさせます。

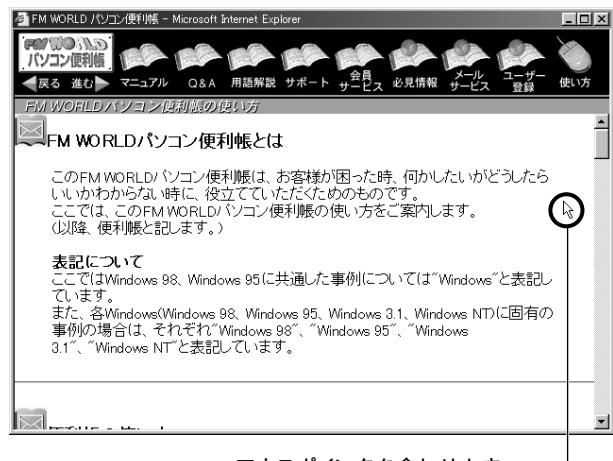
ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

スクロールボタンをマウスの前方へスライドさせると、反対方向にスクロールしていきます。



押して使う

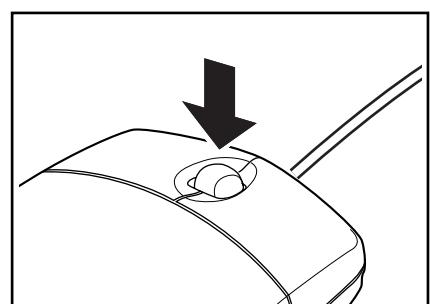
1 ウィンドウの中にマウスポインタを合わせます。



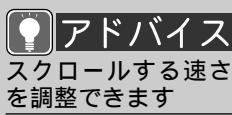
マウスポインタを合わせます

2 スクロールボタンを押します。

マウスポインタの表示が④に変わります。



3 スクロールさせたい方向にマウスを動かします。

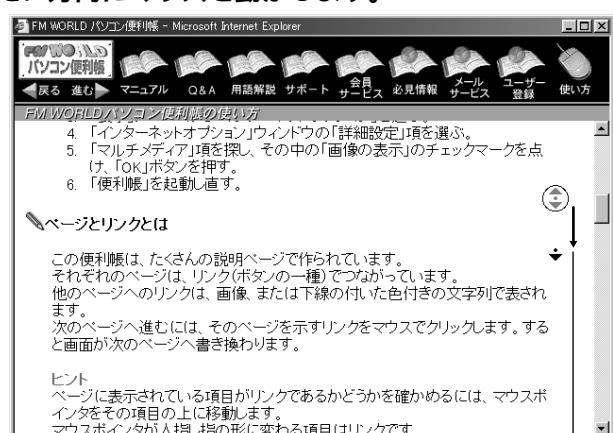


スクロールする速さを調整できます

スクロールボタンを押したところからマウスを動かしたところまでの距離によって、スクロールする速さを調整できます。



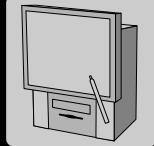
近い…遅いスクロール
遠い…速いスクロール



マウスを動かします

ウィンドウの中の表示がスクロールしていきます。

マウスポインタの表示を戻すには、もう一度スクロールボタンを押すか、クリックしてください。



本パソコンでは、マウスの代わりにペンを使って操作することができます。

タッチパネルの使いかた

タッチ操作は必ず添付のペン (☞P.3) で行ってください。

ペンでの操作は、すべてクリック、ダブルクリックになります。右クリック、ドラッグ、ポイントなどの操作はマウスをお使いください。

クリック

画面を1回たたいて、すぐにペンを離します。
この操作を「タッチ」といいます。

ダブルクリック

画面をすばやく2回タッチします。

マウスが同時に動作しますので、アプリケーションで多用されている小さなアイコン、ボタン、メニュー、スクロールバーなどのウィンドウ操作にはマウスをお使いください。

ペンについて

ペンをなくしたときは、予備のペンをご購入ください。

商品名：タッチパネル用ペン VP-PN2

商品番号：0635081

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

タッチパネルをお使いになるときの注意

- ・赤外線通信ポートをお使いになるときは、タッチパネル機能をお使いになれない。「赤外線通信ポートをお使いになるうえでの注意」(☞P.138)をご覧になり、必ず設定を行ってください。
- ・タッチ操作は、全画面モードのMS-DOSプロンプト、タッチパネルの部分表示画面、仮想デスクトップには対応していません。
- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「ボタン」タブの「ボタンの選択」欄は必ず「右きき用」の設定でお使いください。また、「ダブルクリックの速度」欄は中間点と「遅く」の間に設定してください。「速く」の方向に設定すると、ダブルクリックが認識されない場合があります。
- ・「マウスのプロパティ」ウィンドウで、「動作」タブの「ポインタの速度」欄の設定は無効です。また、「ポインタの軌跡」欄の設定は、ペンをタッチパネルに接触したまま移動する操作（ドラッグ）に対応します。
- ・IRQ(割り込み要求)(☞P.117)を変更した場合に、一時的に操作が出来なくなることがあります。その場合は、本パソコンを再起動してください。
- ・タッチパネルにはガラスを使用しておりますので、強い衝撃を与えないようにしてください。

タッチパネルの補正

ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれているときには、入力補正アプリケーションで補正できます。画面の指示に従って補正してください。

■ 重要

注意事項

- タッチパネルの補正をする前に、MS-IIMEのツールバーをタスクバーに入れてください。ツールバーにマウスポインタを合わせ、右クリックし、「タスクバーに入れる」をクリックすると、ツールバーの表示が消えます。
- 入力補正アプリケーション画面の[Ins]は[Insert]、[Return]は[Enter]と読み替えてください。
- ペンと画面の位置精度は±2mmです。そのため、タッチパネルの表示エリアの外周部分2mm程度は入力できない場合があります。
- タッチパネルの補正中は、タッチパネルに指を触れないでください。
- タッチパネルの補正では、「+」のマークにペン先を合わせて離したときに認識されま

1 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| ▶ model 40Xをお使いの方は | → C:\fjuty\tpanel\calwin13.exe |
| ▶ model 40をお使いの方は | → C:\fjuty\tpanel\calwinre.exe |

3 「表示されている各補正点を入力してください。」というメッセージが表示されたら、[Insert]を押します。

「補正パラメータ設定」ウィンドウが表示されます。

4 ▶ model 40Xをお使いの方は

- 「パネルサイズ」: 13.3インチ、「引き出し線」: 左側、「補正点数」: 9点のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。

▶ model 40をお使いの方は

- 「パネルサイズ」: 12.1インチ、「引き出し線」: 左側、「補正点数」: 9点のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。

5 9カ所の赤い「+」のマークをペンで順次タッチしていきます。

入力するたびに音がし、9カ所全ての色が変化します。

ここではマウスポインタは、±2cm程度大きくずれて表示されます。

アドバイス

「コマンド受け付けエラー」が表示されたときは

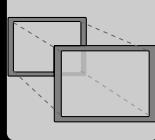
「OK」をクリックし、手順5からやり直してください。

6 入力が終了したら、[Enter]を押します。

画面がテスト画面になります。ここでは、自由に線画を入力できますので、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置が合っているか確認してください。

補正が不十分なときは、[Home]を押し、手順5からやり直してください。

7 ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置が合っていることを確認したら、[Enter]を押し、入力補正アプリケーションを終了します。



画面の解像度や発色数を変える

用語

解像度

縦横にどれだけの点(ドット)を表示できるかを示すものです。

アドバイス

解像度や発色数が指定されているときは
アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度を高く(大きい数字に)すると画面を広く使えるようになり、多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

1024×768の場合



800×600の場合



(画面は機種により若干異なります。)

表示できる解像度と発色数

本パソコンの液晶ディスプレイで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

解像度	設定可能な発色数	model 40X	model 40
640×480ドット	256色		
	HighColor(16ビット)		
	TrueColor(32ビット)		
800×600ドット	256色		
	HighColor(16ビット)		
	TrueColor(32ビット)		
1024×768ドット	256色		×
	HighColor(16ビット)		×
	TrueColor(32ビット)		×

- は表示可能、×は表示不可、-はご購入時の設定です。
- 最大発色数は機種により異なります。model 40Xは6万5千色、model 40はHighColor(16ビット)は6万5千色、TrueColor(32ビット)は26万色です。
- model 40Xは1024×768ドット、model 40は800×600ドット表示を基準としているため、それよりも小さい解像度に設定した場合には、表示領域は画面中央に小さくなります。

重要

上の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください

設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。

解像度や発色数を変更する

■ 重要

アプリケーションを終了してください

解像度、発色数を変更すると、再起動しなければならないことがあります。作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了させてから変更してください。

アクティブデスクトップを解除してください

解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

解像度と発色数を変更した後に、改めてアクティブデスクトップに設定してください。

解像度や発色数を変更するとき

- ・ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ・ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (画面) をクリックします。

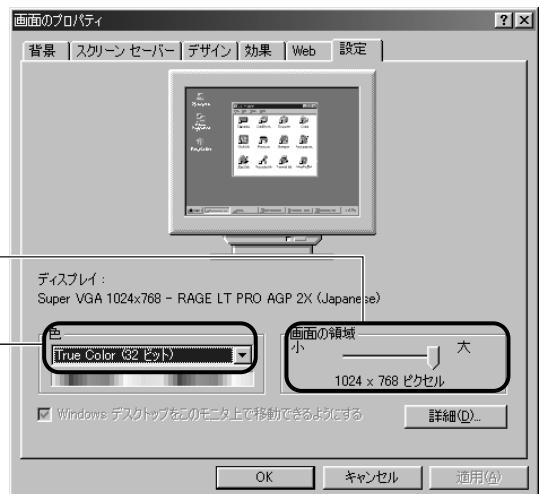
3 「設定」タブをクリックします。



(これ以降の画面は、機種により若干異なります。)

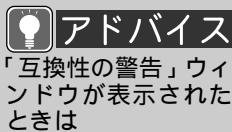
4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」のを左右にドラッグしてください。発色数を変更するには、「色」のをクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。

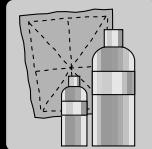


5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って再起動してください。



- 1 「新しい色の設定でコンピュータを再起動する」がになっていることを確認し、「OK」をクリックします。
- 2 「システム設定の変更」ウィンドウで「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。



お手入れのしかた

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、タッチパネル、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分に合ったお手入れをしてください。

パソコン本体／タッチパネル／キーボードのお手入れ



警告



感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください

パソコン本体の通風孔（☞P.4）にほこりが溜まらないように、定期的に清掃してください。

汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体やタッチパネル、キーボードに水が入らないよう十分注意してください。

マウスのお手入れ



警告



感電 お手入れを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。



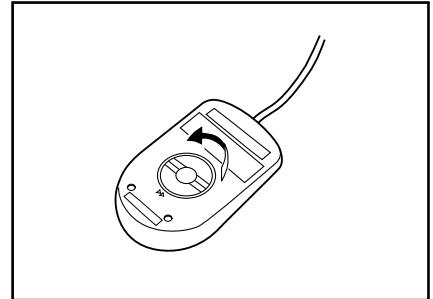
重要

シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください

表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。

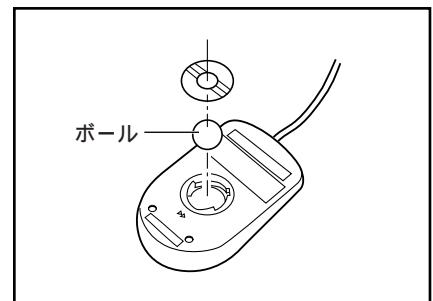
また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1** マウスの裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。



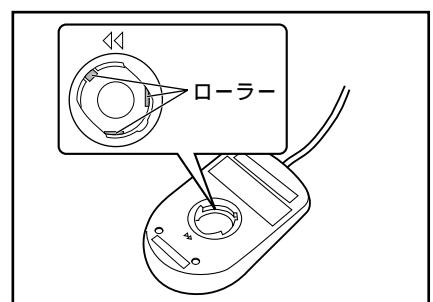
- 2** ポールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。

洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。

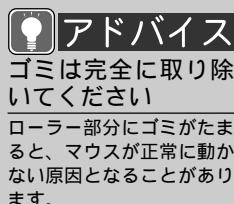


- 3** マウス内部の汚れを拭き取ります。

水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏ブタを拭きます。ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



- 4** ポールをマウスに戻し、裏ブタを取り付けます。



フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド(データを読み書きする部分)が汚れてきます。ヘッドが汚ると、データを正常に読み書きできなくなります。別売りのクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

(富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375)

お手入れのしかた



注 意

けが クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOS プロンプト」をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。

2 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、[Enter]を押します。

c:¥fjuty¥clndsk 0

「clndsk」と「0(数字のゼロ)」の間は、[Enter]を1回押してください。

3 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットし、[Enter]を押します。

「クリーニング中です。あとXX秒」と表示され、クリーニングがはじまります。

しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。

4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

5 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の[X(閉じるボタン)]をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exitと入力し、[Enter]を押してください。

第3章

オプション機器を活用しよう！

パソコンは、さまざまなオプション機器を接続して機能を拡張することができます。

お使いになる目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。

本章では、別売りのオプション機器を使うために必要な、接続や設定のしかたについて説明しています。

1. オプション機器を取り付ける前に	42
2. つないで活用！！	46
3. パワーアップするために～本体カバーを取り外す～	55
4. メモリを増やす	57
5. 拡張カードを増設する	63
6. MO ドライブを増設する	69
7. その他のオプション機器を使う	74



オプション機器を取り付ける前に

ここでは、本パソコンに取り付けられるオプション機器の種類や、オプション機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

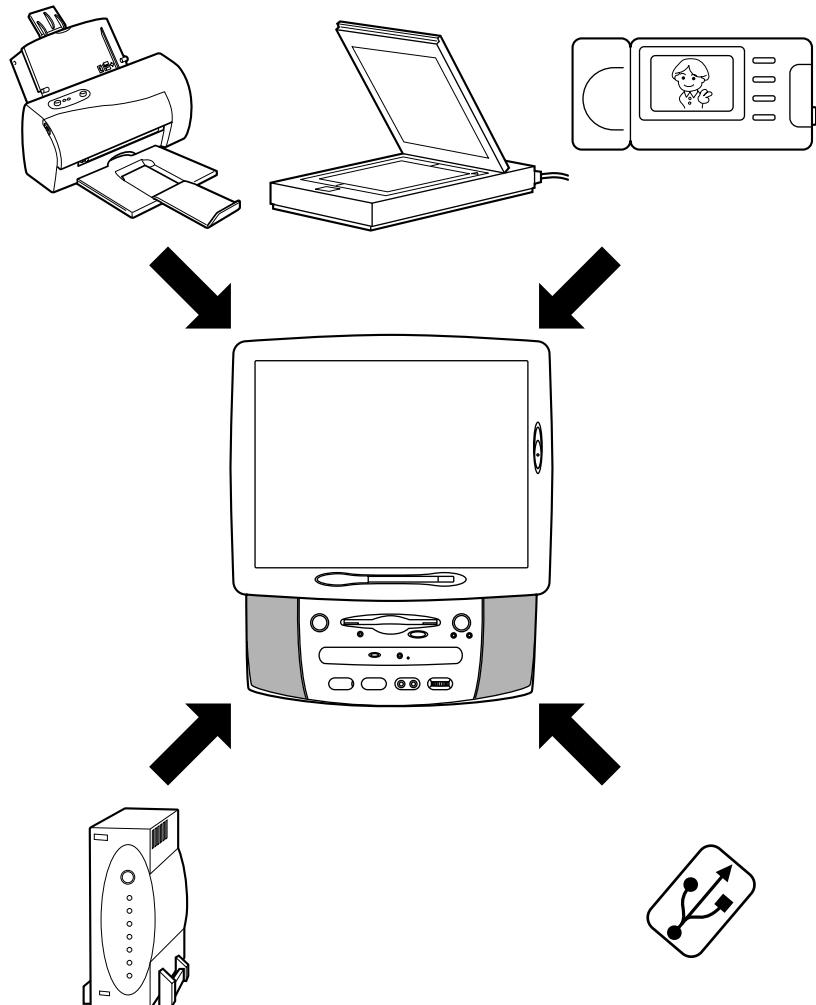
取り付けられるオプション機器

別売りのオプション機器を取り付けると、こんなことができます。

そのままつなごう！～本体力カバーを外さないで接続できるもの～

文書や画像を印刷したい！
～プリンタを接続する（☞P.46）～

お気に入りのイラストや写真を取り込みたい！
～スキャナ／デジタルカメラを接続する（☞P.50）～



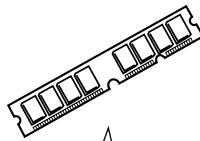
ISDN回線に接続するには?
～ターミナルアダプタを接続する（☞P.53）～

つないでラクラク！
～USB機器を接続する（☞P.54）～

パワーアップ! ~本体カバーを外して接続するもの~

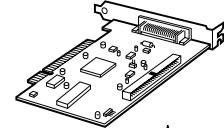
パソコンの処理をより快適にしたい!
~メモリを増設する (☞P.57) ~

パソコンの機能を増やしたい!
~拡張カードを増設する (☞P.63) ~

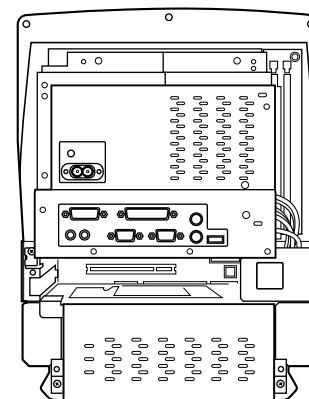


「メモリ容量が不足しています」のメッセージがよく出る

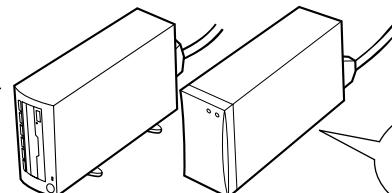
たくさんのアプリケーションを同時に使いたい



PCカードを使いたい



たくさんのデータを持ち運びたい



ハードディスクの空き容量が少なくなってきた

よりたくさんのデータを保存したい!
~MOドライブを増設する (☞P.69) ~
~ハードディスクを増設する (☞P.74) ~

アドバイス 純正品をお使いください

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

他社製品をお使いになる場合は、本パソコンで正しく動作することを製造元のメーカーにご確認ください。

用語

ドライバ

ドライバとは、パソコンに取り付けた機器を正しく扱うためのソフトウェアのことです。「デバイスドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、OSとオプション機器との仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、オプション機器が理解できるように翻訳するのが役目です。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。メーカーや機種が違えばドライバも異なります。ほとんどのオプション機器には、ドライバがCD-ROMやフロッピーディスクなどで添付されています。

オプション機器の接続にあたって

本パソコンで別売りのオプション機器をお使いになるときは、以下の流れにそって行ってください。

まずは準備から！必要なものを用意しよう

- 本パソコンは「PC/AT互換機」という規格のパソコンです。
- 接続に使うケーブルも「PC/AT互換機」と表示されたものを用意しましょう。
- また、接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。

準備が整ったら、いよいよ接続！

- オプション機器によって取り付け方法が異なります。
- 必ずオプション機器のマニュアルも合わせてご覧ください。

本体カバーを外さないで接続するもの

- プリンタ、スキャナ、
- デジタルカメラ、USB機器、
- ターミナルアダプタなど

本体カバーを外して接続するもの

- メモリ、拡張カード、
- MOドライブ、ハードディスクなど

あと一步！ドライバをインストールしよう

- オプション機器には、接続するだけでは使えるものと、設定作業が必要なものがあります。
- 必ずオプション機器のマニュアルも合わせてご覧ください。

完了！オプション機器を使いこなそう！

取り付けるときはここに注意！！！

オプション機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

Windows98 のセットアップは終了していますか？

Windows98 のセットアップを行う前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。『取扱説明書』をご覧になり、Windows98 のセットアップを行ってください。

一度に取り付けるオプション機器はひとつだけ！

一度に複数のオプション機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。

作業前にパソコン本体および接続されている機器の電源は OFF に！

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

さらに本体カバーを取り外して作業する場合には、次のことも注意してください。

電源を切った直後は作業をしない！

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと 10 分ほど待ってから、作業をはじめましょう。

電源ユニットは分解しない！

内部のケーブル類や装置の扱いに注意！

傷つけたり、加工したりしないでください。

一度大きな金属質のものに手をふれて静電気を放電しよう！

内蔵オプション機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらの部分は、人体にたまる静電気によって損傷を受ける場合があります。

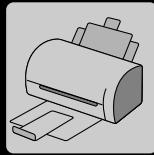
基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には触れないで！

金具の部分や基板のふちを持つようにしてください。

工具を用意しましょう！

パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをお使いください。

なお、本書で説明している以外のオプション機器の取り付けや、分解を行った場合は、保証の対象外となります。



2

オプション機器を活用しよう！

つないで活用！！

ここでは、つなぐだけで簡単に使えるプリンタ、スキャナ、デジタルカメラ、ターミナルアダプタ、USB機器の接続について説明します。



感電
オプション機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



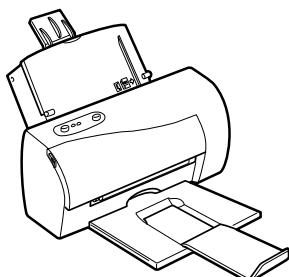
- オプション機器ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。
- オプション機器、およびオプション機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のオプション機器、およびオプション機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

文書や画面を印刷したい！～プリンタを接続する～

年賀状、カード、企画書・・・作ったものを印刷したい時は、プリンタを接続します。

必要なものを用意する

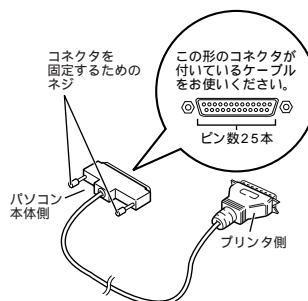
プリンタを接続するには、次のものが必要です。



プリンタ

パソコン本体背面のパラレルコネクタ(☞P.5)に接続するものや、本体前面のUSBコネクタ(☞P.2)に接続するものなどがあります。

Windows 98 で動作可能なものをご購入ください。



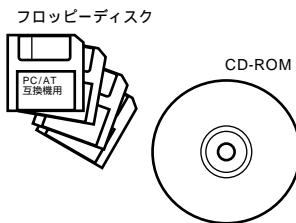
プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。

「PC/AT互換機用」などと記載されている、コネクタが「D-SUB25ピン」で、ネジで固定する形のものをお使いください。

プリンタケーブルは、通常プリンタに添付されていません。別途ご購入ください。

また、USBケーブルで接続するプリンタもあります。



プリンタのドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows 98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

プリンタのマニュアル

CD-ROMで見るマニュアルもあります。

■ 重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のプリンタ、およびプリンタケーブルを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

プリンタを接続する

ここでは、プリンタをパソコン本体のパラレルコネクタに接続する方法について説明します。

USB コネクタに接続するプリンタについては、「つないでらくらく！～USB 機器を接続する～」(☞P.54)をご覧ください。

■ 重要

プリンタは、Windows 98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98 のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows 98 のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

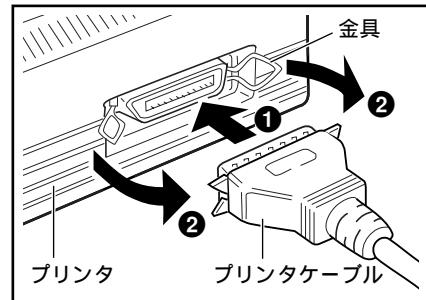
プリンタのマニュアルもご覧ください

接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

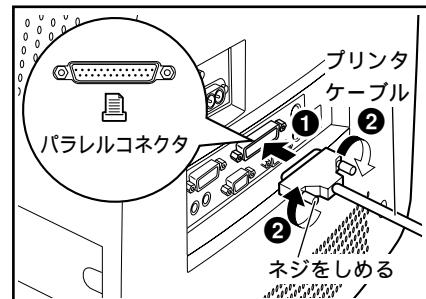
2 プリンタ側のコネクタの形に合わせて、プリンタケーブルのネジが付いていないコネクタを接続します。

プリンタ側のコネクタの左右に金具が付いている場合は、金具でプリンタケーブルを固定してください。



3 パソコン本体背面のパラレルコネクタ(図)の形に合わせて、プリンタケーブルのネジの付いているコネクタを接続します。

プリンタケーブルのコネクタの左右のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



4 プリンタに電源ケーブルを接続します。

プリンタに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。

5 本パソコンおよび接続されている機器と、プリンタの電源プラグを、コンセントに差し込みます。

6 初めて接続するプリンタの場合は、続いてプリンタのマニュアルをご覧になり、ドライバをインストールします。

ここに注意してください

プリンタドライバのインストール時の注意

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていますが、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。

用語

 **プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)**
プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、プリンタやその他の機器を接続しただけで使えるようにします。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。

「ファイルのコピー元」に `c:\windows\options\cabs` と入力し、「OK」をクリックしてください。

ご購入時の CD-ROM ドライブは E です

CD-ROMからプリンタドライバをインストールする場合に、CD-ROM ドライブ名を指定するときは `e:\` と入力してください。

通常使うプリンタに設定してください

接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。

弊社製プリンタ「XJ-350/XJ-550」をお使いのとき

- ・本パソコンには、以下のプリンタドライバがあらかじめ用意されています。
そのため、これらのプリンタをお使いになる場合は、プラグアンドプレイでプリンタが認識されたあとに、自動的にドライバのインストールが始まります。
XJ-350 : V1.0L10 XJ-550 : V1.0L10 (1999年5月現在)
- ・プリンタドライバは、バージョンアップがあります。弊社純正品の最新版のドライバは、パソコン通信やインターネットなどのオンライン情報サービスにてご案内します。
 - NIFTY SERVE 富士通FM シリーズ情報「FM INFO」
(GO FMINFO でアクセスできます)
 - インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.ne.jp>)
- ・最新版のドライバのインストールは、次の流れにそって行ってください。
 - 1 プリンタの電源を切ります。
 - 2 古いバージョンのドライバを削除します。
削除のしかたについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
 - 3 本パソコンを再起動します。
 - 4 Windows98 が起動したら、プリンタの電源を入れます。
 - 5 ダウンロードした最新版のドライバを、「プリンタの追加」でインストールします。

本パソコンを再起動するときにプリンタの電源が入っていると、プラグアンドプレイが行われ、古いドライバが自動的にインストールされてしまいます。必ず、プリンタの電源を切ってから、本パソコンを再起動してください。

インストール方法などについて詳しくは、プリンタのマニュアルをご覧ください。



用語

SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、スキャナのほかに、MOドライブやハードディスクなどがあります。

TWAIN (トゥウェイン)

画像データをコンピュータに取り込むための統一規格です。

スキャナを使うには

ご購入されたスキャナによって、接続方法が異なります。詳しくは、スキャナのマニュアルをご覧ください。

パソコン本体背面のパラレルコネクタに接続するもの

ケーブルで、スキャナとパソコン本体（パラレルコネクタ \leftarrow P.5）をつなぎます。本パソコンでは、コネクタをネジで固定する形のケーブルをお使いください。接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

USB コネクタに接続するもの

「つないでらくらく！～USB機器を接続する～」(\leftarrow P.54)をご覧ください。

SCSI カードに接続するもの

SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたなどについては「拡張カードを増設する」(\leftarrow P.63)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあとに、SCSIケーブルでSCSIカードとスキャナをつなぎます。スキャナには、終端抵抗（ターミネータ）という器具を取り付けます。また、終端抵抗が内蔵されているスキャナもあり、ディップスイッチなどで設定する必要があるものもあります。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

必要なものを用意する（デジタルカメラ）

デジタルカメラを使うには、次のものが必要です。



デジタルカメラ

デジタルカメラは、画像をデジタル情報として記録するカメラで、各社から発売されています。

デジタルカメラからパソコンに画像データを取り込む方法は、お使いのデジタルカメラによって異なります。パソコン本体のシリアルコネクタ（☞P.5）やUSBコネクタ（☞P.2）に接続して画像データを取り込むもの、PCカードやフロッピーディスクを使って画像データを取り込むものなどがあります。

デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、必要なものをご用意ください。

専用ケーブル

パソコン本体に接続するタイプのデジタルカメラには、専用ケーブルが必要です。ケーブルはデジタルカメラに添付されている場合もあります。

ソフトウェア

撮影した写真をパソコンに取り込むためのソフトウェアや、撮影した写真を見たり、文字やイラストを入れて編集したりするためのソフトウェアが必要です。これらのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。

本パソコンには、「らくらく写真館」や「ぷりんとフェア」など、写真をいろいろ活用できるソフトウェアが添付されています。

デジタルカメラのマニュアル

デジタルカメラを使うには

ご購入されたデジタルカメラによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

ケーブルで、デジタルカメラとパソコン本体（シリアルコネクタ☞P.5）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタのネジをしめて固定してください。

パソコン本体前面のUSBコネクタに接続するもの

「つないでらくらく！～USB機器を使うには～」（☞P.54）をご覧ください。

なお、デジタルカメラの活用のしかたについては、『使いこなす本 ソフト編』をご覧ください。

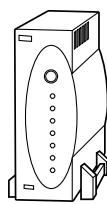
ISDN回線に接続したい！～ターミナルアダプタを接続する～

ISDN回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。

ISDN回線に接続する方法について詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものが必要です。



ターミナルアダプタ

ISDN回線に接続するために必要な機器です。パソコン本体背面のシリアルコネクタ（☞P.5）に接続するものや、本体前面のUSBコネクタ（☞P.2）に接続するものなどがあります。

専用ケーブル

ターミナルアダプタと本パソコンをつなぐケーブルです。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

ターミナルアダプタのマニュアル

ターミナルアダプタを接続するには

ご購入されたターミナルアダプタによって、接続方法が異なります。

パソコン本体背面のシリアルコネクタに接続するもの

専用のケーブルでターミナルアダプタとパソコン本体（シリアルコネクタ☞P.5）をつなぎます。つないだあと、ケーブルのコネクタのネジをしめて固定してください。

USBコネクタに接続するもの

次ページの「つないでらくらく！～USB機器を接続する～」をご覧ください。

ターミナルアダプタをISDN回線に接続するには、DSU（ディーエスユー）という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンでFAXを送受信するには、パソコン本体のモデムとターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTTにお問い合わせください。

つないでらくらく！～USB機器を接続する～

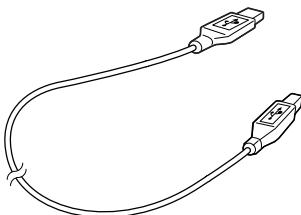
USB機器を接続して、自分の思い通りのパソコンにしましょう。

必要なものを用意する

USB機器を使うには、次のものが必要です。

USB機器

本パソコンに添付されているマウス、キーボードの他に、プリンタ、ターミナルアダプタ、スピーカーなどがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。



USBケーブル

USB機器と本パソコンをつなぐケーブルです。USB機器に添付されている場合もあります。マウスなどのようにケーブルが不要なこともあります。

USB機器のドライバ

通常はUSB機器に添付されています。

USB機器のマニュアル

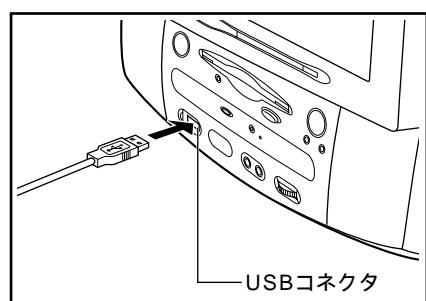
USB機器を使うには

取り付けかたは、次のとおりです。

 **アドバイス**
お使いにならないときは
カバーを閉じておいてください。

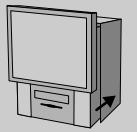
1 パソコン本体前面のUSBコネクタのカバーを左にスライドさせ、USB機器のケーブルを接続します。

USB機器のケーブルのコネクタの \downarrow マークを上にして差し込んでください。



2 ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使えるUSB機器もあります。詳しくは、USB機器のマニュアルをご覧ください。



3

パワーアップするために～本体力バーを取り外す～

パソコンの内部にいろいろなオプション機器を取り付けて、パソコンをパワーアップすることができます。

本体力バーは、次の作業を行うときに取り外します。

- ・メモリを取り付けるとき
- ・拡張カードを取り付けるとき



本体力バーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



本体力バーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体力バーを取り外す

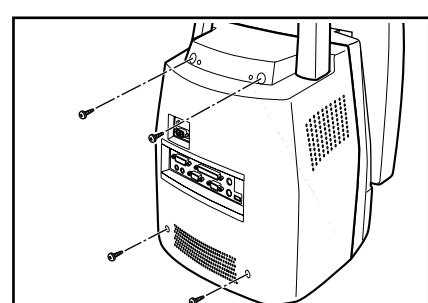
1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってください。

2 電源ケーブルをパソコン本体から取り外します。

3 取っ手を垂直に持ち上げます。

4 パソコン本体背面のネジ(4カ所)を取り外します。

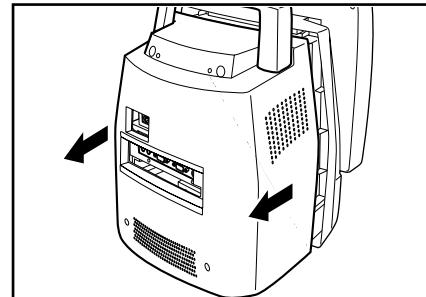


3

オプション機器を活用しよう！（パワーアップするために～本体力バーを取り外す）

5 本体カバーを矢印の方向に取り外します。

パソコン本体背面に向けてスライドさせてください。



▶ メモリを取り付ける場合

☞ P.60 手順 2 へ

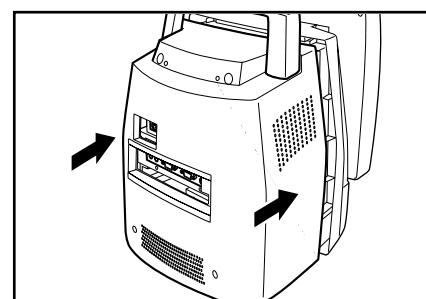
▶ 拡張カードを取り付ける場合

☞ P.67 手順 2 へ

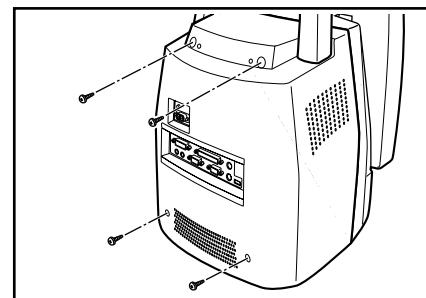
本体カバーを取り付ける

1 本体カバーを取り付けます。

パソコン本体前面に向けてスライドさせます。



2 パソコン本体背面のネジ(4カ所)を取り付けます。



3 電源ケーブルをパソコン本体に接続します。

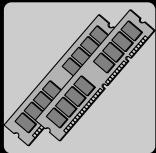
4 パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。

▶ メモリを取り付けた場合

☞ P.62 「メモリ容量を確認してください」へ

▶ 拡張カードを取り付けた場合

☞ P.68 手順 6 へ



「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」

そういう場合に本パソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより速く快適になります。

メモリを増やすとは？

メモリとはどんなもの？

メモリは、CPUが処理するデータやプログラムを一時的にためておく装置です。データやプログラムは本パソコンに内蔵されているハードディスク(☞P.74)に保存されていますが、CPUが処理するたびにハードディスクから読み込んでくると時間がかかります。

CPUがメモリからデータを読み込む速度はハードディスクからデータを読み込む速度よりも早いので、必要なデータやプログラムをメモリにためておけば処理が早くなります。

メモリは、よく「机」にたとえられます。勉強や仕事をするときに引き出しから本や書類を取り出して机の上に広げるように、ハードディスクに保存されているデータやプログラムが、メモリという「机の上」に広げられているのです。

メモリを増やすとパソコンの動作が速くなる

複数のソフトウェアを同時に動かしたり、データを一度にたくさん読み込むと、メモリはどんどん使われてしまいます。

机の上に本やノートを広げると空いた場所がなくなるのと同じです。

机が大きければ本やノートをたくさん広げられますが、机が小さいと少ししか広げることができません。

同じように、メモリも大きければ大きいほど、たくさんのアプリケーションやデータを読み込むことができるようになり、快適に操作できます。

メモリの大きさは「容量」と呼ばれ、32MB、64MBというように表されます。別売りのメモリを本パソコンに増設してメモリの容量を増やすと、「机」が広がったことになりパソコンの動作が速くなります。



用語

CPU(シーピーユー)

Central Processing Unitの略で、パソコンの中枢頭脳部分ともいわれる、中央処理装置のことです。



用語

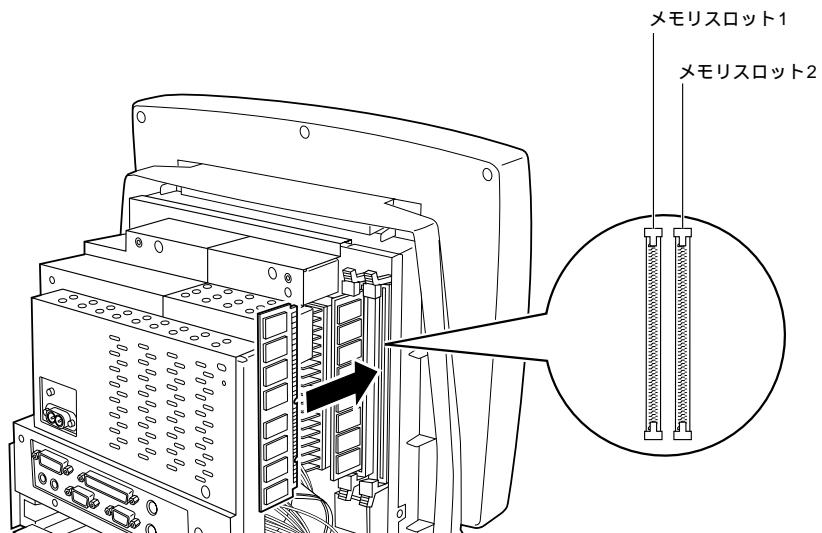
MB(メガバイト)

バイトとは、パソコンで扱うデータの大きさをあらわす単位のことです。M(メガ)は100万を表します。1MBとは、約100万バイトのデータということです。

パソコンで使われる単位には、他にKB(キロバイト)、GB(ギガバイト)があります。1KBは約1000バイト、1GBは約10億バイトのデータを表します。

メモリはどこにある？

メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。
本パソコンのご購入時は、メモリスロット1に64MBのメモリが1枚取り付けられています。
メモリ容量を増やすには、メモリスロット2に、新たにメモリを取り付けます。
メモリは、最大192MBまで増やせます。



取り付けられるメモリ

用語

SPD(エスピーディー)

Serial Presence Detectの略で、メモリの機能のひとつです。

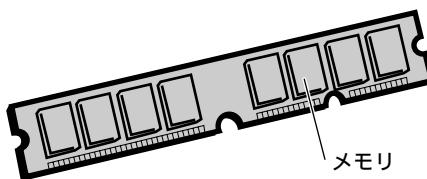
必ずSPD付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製のSDRAMは、SPD付きです。

ECC(イーシーシー)

Error Correcting Codeの略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。

本パソコンでは、この機能は使いません。

お使いになれるメモリは次のようなものです。



・種類	SDRAM(エスディーラム)DIMM(ディム)(SPD付き)
・システムバスクロック	66MHz
・ピン数	168ピン
・容量	32MB、64MB、128MB
・ECC	なし

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外のメモリを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。
下表以外の組み合わせにすると、本パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット1 (DIMM1)	メモリスロット2 (DIMM2)
64MB(ご購入時)	64MB	なし
96MB	64MB	32MB
128MB	64MB	64MB
192MB(最大)	64MB	128MB

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。



警告



感電

メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

感電・火災または故障の原因となります。



注意



けが

メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



けが

基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障

- メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。



重要

メモリは、Windows98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows98のセットアップ(☞『取扱説明書』)を行う前に取り付けると、Windows98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ってから10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

メモリを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

放電してから作業してください

メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。

取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れて静電気を放電してください。

メモリは何度も抜き差ししないでください

故障の原因となることがあります。



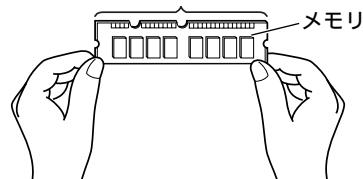
アドバイス

メモリの持ちかた

メモリは右図のようにふちを持ってください。

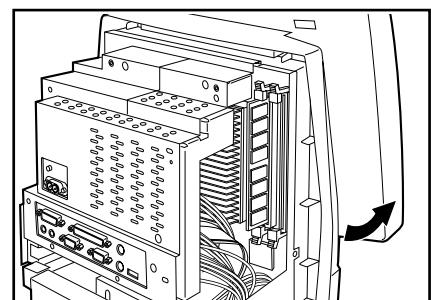
金色の線が入っている部分(端子)には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



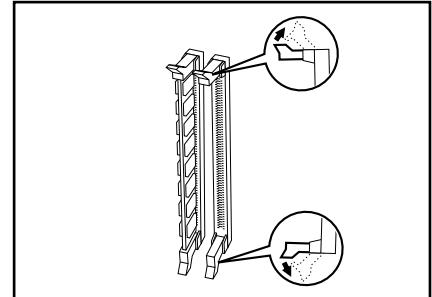
1 「本体カバーを取り外す」(☞P.55)をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 タッチパネルの下部を引き出します。



3 メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「メモリはどこにある?」(☞P.58)と「メモリの組み合わせ表」(☞P.59)をご覧ください。

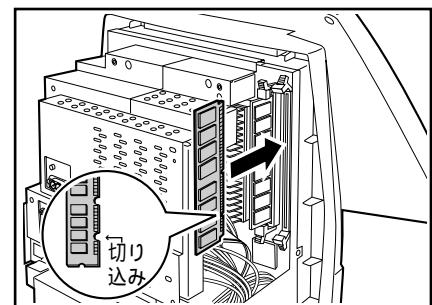


4 メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を下側に向けて、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



■ 重要

メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください

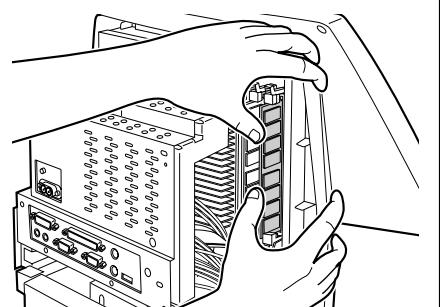
無理に差し込むと故障の原因となります。



アドバイス

メモリを差し込むときは

右図のように、タッチパネルとパソコン本体の間に手を入れ、メモリをしっかりと押し込んでください。



5 「本体カバーを取り付ける」(☞P.56)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

メモリ容量を確認してください

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリが本パソコンで使える状態になっているかを確認してください。

必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

アドバイス

電源を入れても何も表示されないときは

メモリが正しく取り付けられていないと、本パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。

その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。

1 パソコン本体の電源を入れます。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

3  (システム)をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 ○で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、32MBのメモリを増設して、96MBに増やした例です。

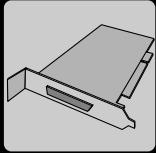
お使いのシステム構成によっては1MB少なく表示される場合があります。

5 「OK」をクリックします。

6 「コントロールパネル」ウィンドウ右上の×(閉じるボタン)をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- ・増やしたメモリが本パソコンで使える種類のものか➡「取り付けられるメモリ」(P.58)
- ・メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか➡「メモリを取り付ける」(P.59)
- ・正しいスロットに取り付けられているか➡「メモリはどこにある?」(P.58)
- ・メモリを正しく組み合わせているか➡「メモリの組み合わせ表」(P.59)



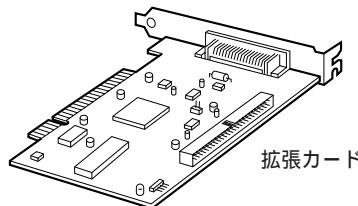
拡張カードを増設する

本パソコンにさまざまな機能を追加したいときは、拡張カードを取り付けます。ここでは、本パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるのに必要なものや、必要な作業について説明します。

拡張カードとは？

「拡張カード」は、パソコン本体内部に取り付けて、いろいろな機能を追加するためのものです。

たとえば、パソコンにビデオの画面を取り込んで編集したいとか、複数台のパソコン同士でネットワークを組んで使いたいといったときに拡張カードを増設して、それらの機能をパソコンに追加します。



代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、以下のものがあります。

- SCSI カード

SCSI 規格の MO (光磁気ディスク) ドライブやハードディスクなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI 規格の MO ドライブについて詳しくは「MO ドライブを増設する」(☞P.69) をご覧ください。

- モデムカード

パソコン通信、インターネット、FAX 送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話として使うこともできます（専用のソフトウェアが必要です）。

本パソコンには、ご購入時にあらかじめ FAX / ボイスモデムカードが取り付けられています。

- LAN カード

複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LAN カードでパソコンやプリンタを接続するには、LAN ケーブルなどの LAN 機材も必要となります。

- ビデオキャプチャカード

ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、ビデオの画像をパソコンにデータとして取り込んで加工できるようにしたりする拡張カードです。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

- PC カードスロット

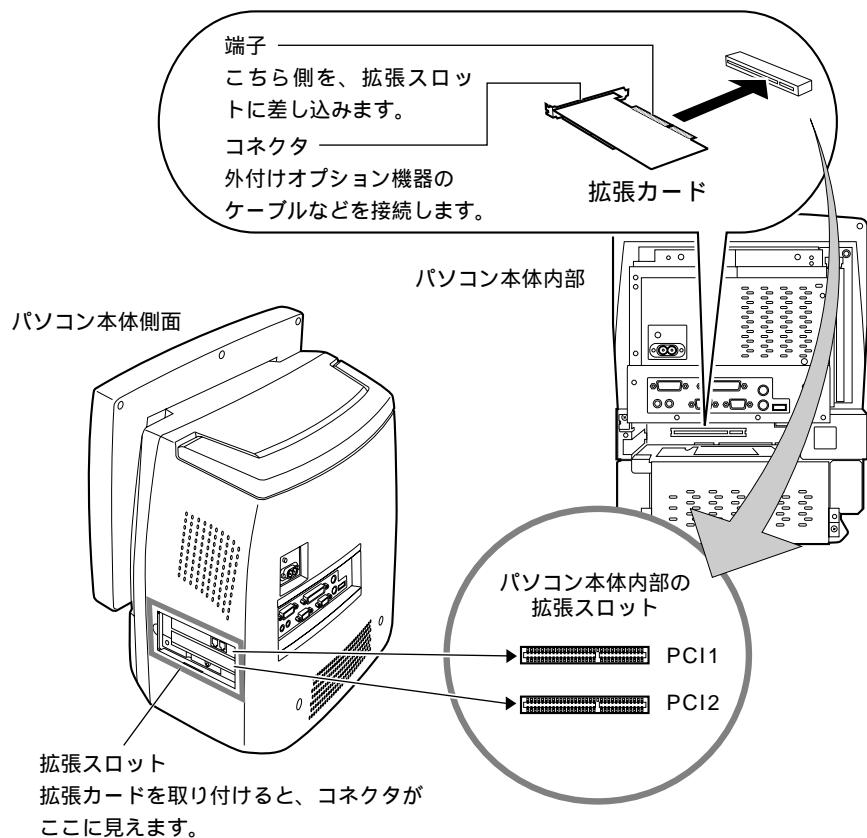
PC カードを本パソコンでお使いになるときに必要な拡張カードです。PC カードはパソコン本体側面にセットできます。

お使いになれる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。本パソコンでは、「PCI(ピーシーアイ)」という規格に対応した拡張カードが使えます。

拡張カードは、パソコン本体内部の空いている「拡張スロット」に取り付けます。

また、拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」の2つがあります。本パソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。



拡張スロットは、上から順に PCI1、PCI2 となっています。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	FAX / ボイスモデムカードを搭載済み	_____
PCI2	空き	ハーフサイズ(176.41mmまで)

用語

プラグアンドプレイ (Plug&Play/PnP)

プラグアンドプレイとは、パソコン本体に接続される機器の設定を自動化するためのしくみのことです。特別な設定をしなくても、拡張カードやその他の機器を接続しただけで使えるようになります。Windows98はプラグアンドプレイに対応しています。

アドバイス

お使いになる拡張カードによっては

お使いになる拡張カードが必要とするIRQが、本パソコンの空いているIRQに設定できない場合や、空きIRQがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。詳しくは、「IRQを解放する」（☞P.118）をご覧ください。

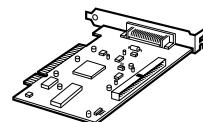
拡張カードを増設するには

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。本パソコンで使えるPCI規格の拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応しているPCI規格の拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものが必要です。

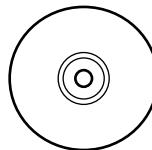


PCI規格の拡張カード

フロッピーディスク



CD-ROM



拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。



拡張カードのマニュアル



プラスのドライバー

重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の拡張カードを取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける方法について説明します。



警告



感電 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。



誤飲 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



注意



けが 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。
また、故障の原因となることがあります。



けが 基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



故障 拡張カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。



アドバイス

SCSIカードを取り付けるときは

SCSIカードのSCSI IDは7番に設定してください（通常、SCSIカードはあらかじめ7番に設定されています）。詳しくは、SCSIカードのマニュアルをご確認ください。



重要

拡張カードは、Windows 98のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98のセットアップ（取扱説明書）を行う前に取り付けると、Windows 98のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

電源を切ったあと10分ほど待ってください

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。

拡張カードを取り付けるときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから、作業を始めてください。

拡張カードはしっかりと差し込んでください

拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。

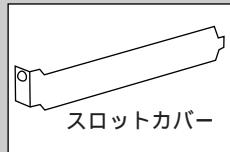
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

1 「本体力バーを取り外す」(☞P.55)をご覧になり、本体力バーを取り外します。

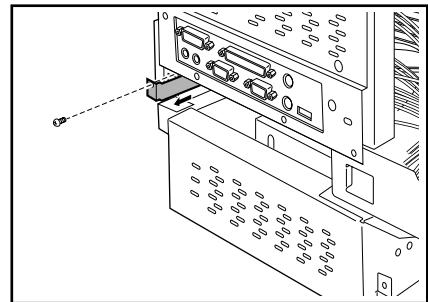
 **アドバイス**

スロットカバーは保管してください

取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。

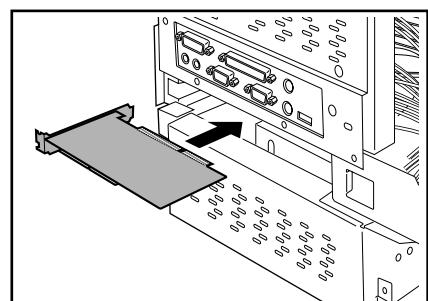


2 ネジ(1カ所)を外して、スロットカバーを取り外します。



3 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。

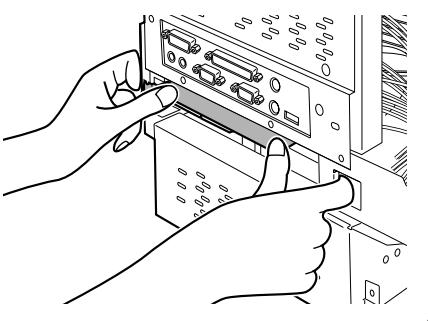
拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



 **アドバイス**

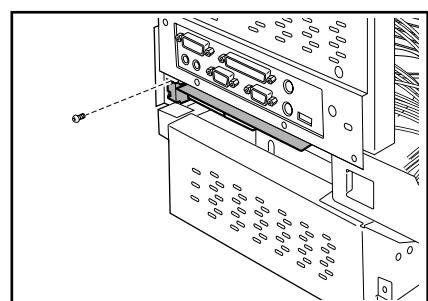
拡張カードを差し込むときは

右図のように、拡張スロットの隣にある金具に指をかけ、拡張カードをしっかりと押し込んでください。



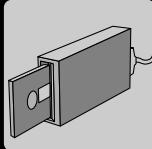
4 手順2で外したスロットカバーのネジ(1カ所)で、拡張カードを固定します。

ネジは固くしめすぎないようにしてください。



- 5** 「本体カバーを取り付ける」(☞P.56)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。
- 6** パソコン本体の電源を入れ、拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

拡張カードにフロッピーディスクやCD-ROMが添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクやCD-ROMをセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットし、ドライバをインストールしてください。



MO ドライブを増設する

MO (光磁気ディスク) ドライブを増設すると、本パソコンで MO がお使いになれます。MO を使うとフロッピーディスクと比べて大量のデータを保存できます。

MOとは？

MO (エムオー) ドライブとは、レーザーと磁気で MO (光磁気ディスク) にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。

MO は、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。128MB、230MB、540MB、640MB の容量のものが市販されています。フロッピーディスクと同じように、フォーマットしてからお使いください。

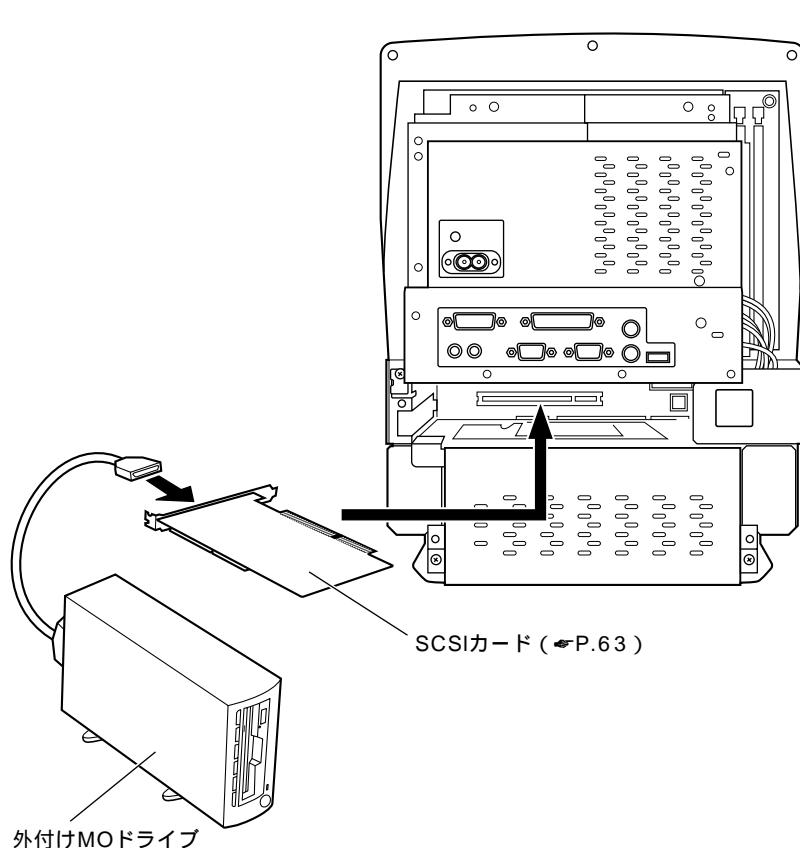
お使いになる MO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる目的に応じた容量の MO ドライブをご購入ください。

お使いになれる MO ドライブ

用語

SCSI (スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI 規格の機器には、MO ドライブのほかに、スキャナやハードディスクなどがあります。



必要なものを用意する

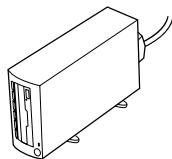
外付け MO ドライブを取り付けるときには、次のものが必要です。



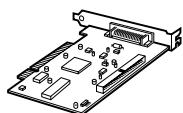
重要

弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外の外付け MO ドライブ、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗を取り付けて正常に動かなかったり、本パソコンが故障しても、保証の対象外となります。

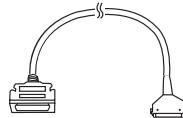


SCSI 規格の外付け MO ドライブ



SCSI カード (P.63)

SCSI 規格の外付け MO ドライブを取り付けるときに必要な拡張カードです。



SCSI ケーブル

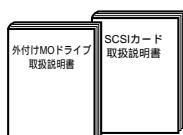
SCSI カードと外付け MO ドライブを取り付けるときに必要なケーブルです。SCSI 規格のコネクタには数種類あります。ご使用になる SCSI カードと外付け MO ドライブに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。



終端抵抗 (ターミネータ)

電気信号が、SCSI ケーブルを正しく伝わるようにするためのものです。外付け MO ドライブには、別売りの終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

詳しくは次ページの「コラム」をご覧ください。



外付け MO ドライブと SCSI カードのマニュアル

コラム



終端抵抗（ターミネータ）とは

SCSI規格のオプション機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。たとえば、SCSI規格の外付け MO ドライブを 1 台増設した場合は、SCSI カードと外付け MO ドライブが両端となります。SCSI カードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSI カード上のジャンパスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

外付け MO ドライブを取り付ける



警告



外付け MO ドライブの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。



誤 飲

取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



故 障

- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因になることがあります。
- 外付け MO ドライブは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の MO ドライブをお使いになると、故障の原因となることがあります。



け が

外付け MO ドライブの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

■ 重要

SCSI カードと外付け MO ドライブは、Windows 98 のセットアップ終了後に取り付けてください

Windows 98 のセットアップ（☞『取扱説明書』）を行う前に取り付けると、Windows 98 のセットアップが正常に行われないおそれがあります。

1 外付け MO ドライブと SCSI カードの SCSI ID を設定します。

SCSI 規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI ID は 0 から 7 番までの番号があります。

SCSI カードには、通常 7 番が設定されています。SCSI ID が設定されていない SCSI カードをお使いになるときは、SCSI ID を 7 番に設定してください。

外付け MO ドライブは、それ以外の番号（0 ~ 6 番）を設定してください。設定のしかたについては、SCSI カードと外付け MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

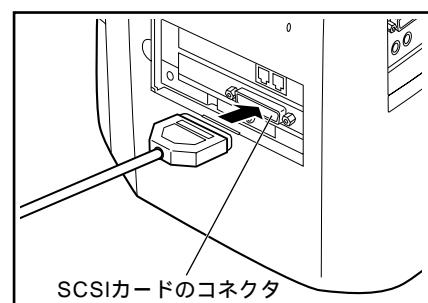
2 SCSI カードを取り付けます。

取り付けかたなどについて詳しくは、「拡張カードを増設する」（☞P.63）をご覧ください。

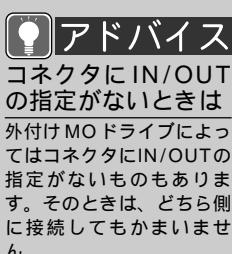
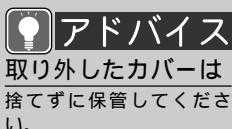
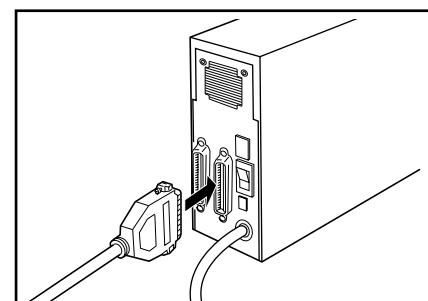
3 パソコン本体側面からカバーを取り外します。

4 SCSI カードのコネクタに、SCSI ケーブルを接続します。

SCSI ケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体側面にある SCSI カードのコネクタに接続します。

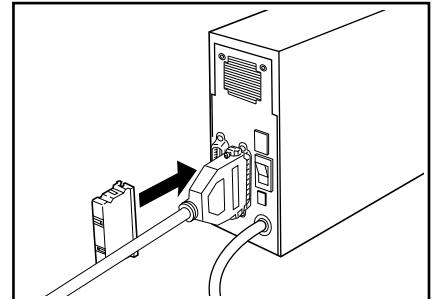


5 外付け MO ドライブの IN コネクタに、SCSI ケーブルのもう片方のコネクタを接続します。



6 外付け MO ドライブに終端抵抗を取り付けます。

外付け MO ドライブの OUT コネクタに終端抵抗を取り付けます。



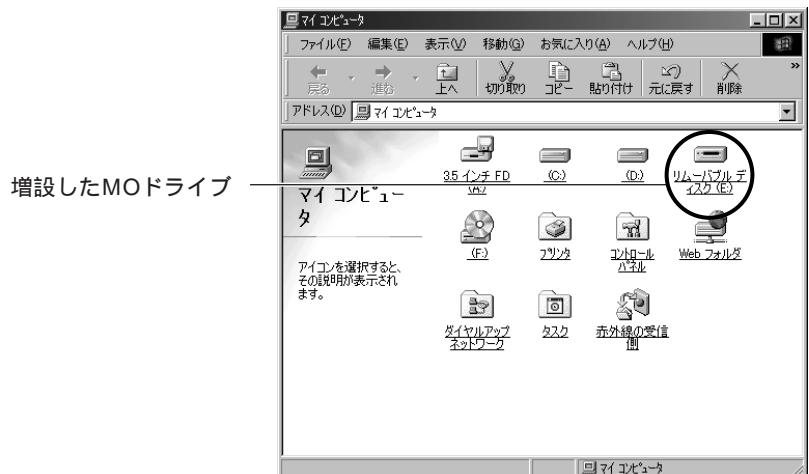
7 外付け MO ドライブに電源ケーブルを接続します。

外付け MO ドライブに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、外付け MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

8 本パソコンと、接続されている機器、接続した外付け MO ドライブの電源プラグをコンセントに差し込みます。

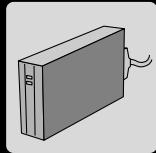
MO ドライブを増設すると

MO ドライブを増設すると、ドライブ名が変更されます。CD-ROM ドライブのドライブ名も変更されます。



ドライブ名はお使いの状況によって異なります。

上の画面は、MO ドライブを 1 台増設した場合です。



ハードディスクを増設する

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。

そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも一つの方法ですが、さらに別売りのハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。



用語

IDE(アイディーイー)
ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブの規格のひとつです。

SCSI(スカジー)

機器の接続に関する規格のひとつです。SCSI規格の機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

本パソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。さらに、SCSIカードを取り付けることにより、SCSI規格の外付けハードディスクを増設できます。

必要なものを用意する

ハードディスクを使うには、次のものが必要です。

SCSI規格の外付けハードディスク

ハードディスクには、パソコン本体に内蔵のものと、外付けのものがあります。本パソコンでは、外付けハードディスクが取り付けられます。内蔵ハードディスクはお使いになれません。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)

外付けハードディスクを使うために必要なものです。

終端抵抗(ターミネータ)は、内蔵されている場合もあります。

SCSIカード、SCSIケーブル、終端抵抗(ターミネータ)について詳しくは、「MOドライブを増設する」の「必要なものを用意する」(☞P.70)をご覧ください。

ハードディスクを使うには

SCSI規格の外付けハードディスクを使うには、SCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付けます。取り付けかたについては、「拡張カードを取り付ける」(☞P.66)をご覧ください。

SCSIカードを取り付けたあと、SCSIケーブルでSCSIカードと外付けハードディスクをつなぎます。外付けハードディスクには、終端抵抗(ターミネータ)という器具を取り付けます。接続方法などについては、「MOドライブを増設する」(☞P.69)を参考にしてください。また、外付けハードディスクのマニュアルもあわせてご覧ください。

取り付けた外付けハードディスクを使えるようにするためには、「領域を設定する」と「フォーマットする」作業が必要になります。

アドバイス

領域を分けると

それぞれの領域が1つ1つのドライブになります。たとえば、領域を2つに分けると、2つのドライブができる、1台のハードディスクが2台のハードディスクであるかのように扱えます。

領域を設定する

初めてハードディスクを取り付けたときは、取り付けたあとにハードディスクの領域を設定します。領域の設定は、増設したハードディスクを使えるようにするための作業です。

また、この作業では、増設したハードディスクをいくつかの領域に分けることもできます。

増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかは、使いやすいほうを選んでください。

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。

重要

ドライブ名が変更されます

ハードディスクを増設して本書の手順に従って領域の設定を行うと、Eドライブ以降（基本MS-DOS領域を作成する場合はDドライブ以降）のドライブ名が変更されます。CD-ROMドライブのドライブ名も変更されます。

保存されていたデータが失われます

領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

1 外付けハードディスクと、パソコン本体の電源を入れます。

パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。

2 アプリケーションやスクリーンセーバーを終了します。

タスクバーにアイコン表示されている「FM便利ツール」などの常駐しているアプリケーションも終了させてください。

3 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」にマウスポインタを合わせ、「MS-DOSプロンプト」をクリックします。

4 C:¥WINDOWS>に続けてfdiskと入力して、[Enter]を押します。

5 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」というメッセージが表示されたら、[Y]を押して、[Enter]を押します。

6 [5]を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、[Enter]を押します。

アドバイス

領域の設定を中断するには

- 1 **[Esc]** を押します。
- 2 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の  (閉じるボタン) をクリックします。

アドバイス

「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

領域の設定を中断し、次のことを確認してください。

- ・外付けハードディスクが正しく接続されているか
- ・外付けハードディスクの場合は、電源が入っているか

それでも、「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」の  をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。
「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。
- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 5 「オプション」欄の「Int13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。
 になっているときは、 をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。
- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックして本パソコンを再起動してください。

7 「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されたら、**[2]** を押して増設したハードディスクを選び、**[Enter]** を押します。

ディスク 1 は、ご購入時に本パソコンに内蔵されているハードディスクです。

ディスク 2 が増設したハードディスクです。

8 「現在のハードディスク」が「2」になっていることを確認し、**[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。

9 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。

10 「ディスクの総容量は ... 拡張 MS-DOS 領域を作ります.」というメッセージが表示されたら、そのまま **[Enter]** を押します。

増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。

11 「拡張 MS-DOS 領域を作成しました.」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

12 ここからは、増設したハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、進む手順が異なります。

- ▶ 領域を分けない場合 ← 手順 13 へ進みます。
- ▶ 領域を分ける場合 ← 手順 14 へ進みます。

領域を分けない場合

13 そのまま [Enter] を押して、手順 16 へ進みます。

領域を分ける場合

14 1つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、[Enter] を押します。

15 「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されたら、2つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、[Enter] を押します。

この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。

表示されている数値を確認し、そのまま [Enter] を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。

16 「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら、[Esc] を押します。

17 [Esc] を押します。

18 「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら、[Esc] を押します。

19 「C:¥WINDOWS>」と表示されたら、「MS-DOS プロンプト」ウィンドウ右上の (閉じるボタン) をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、exit と入力し、[Enter] を押してください。

20 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

21 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。 本パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。

フォーマットする

アドバイス
アプリケーションや
スクリーンセーバー
を終了してください
ハードディスクのフォーマットを行う前に、常駐しているアプリケーション（「FM便利ツール」など、タスクバーにアイコン表示されているアプリケーション）やスクリーンセーバーを終了させてください。

アドバイス
どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください

フォーマットされていないハードディスクのドライブ（≡）を反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。

あらかじめ取り付けられていたハードディスクのドライブ（≡）を反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。

「アクセスできません。」と表示されたときは

メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

フォーマットするとデータは失われます

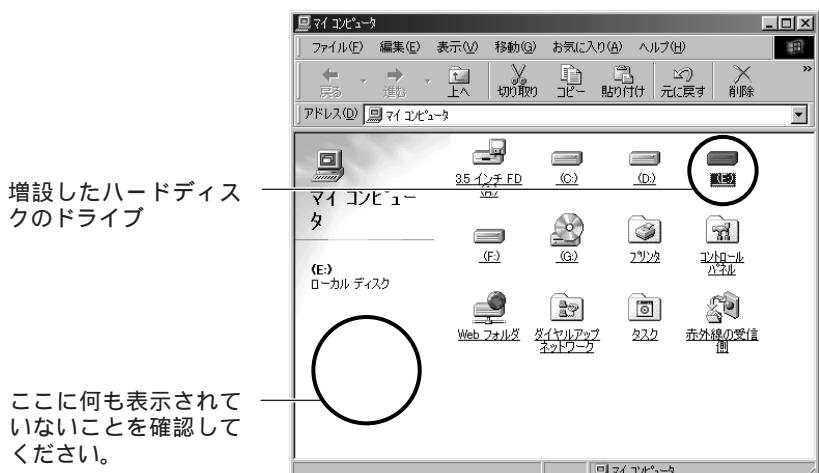
ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられていたハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。

1 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。

2 増設したハードディスクのドライブ (≡) にマウスポインタを合わせます。

マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。

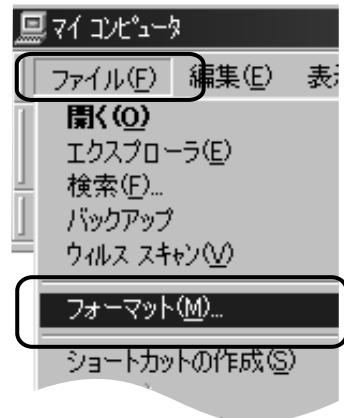
ペンをお使いの方は、増設したハードディスクのドライブ (≡) の近くに軽くペンを押し付けて、そのままアイコンの上までドラッグすると、アイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張 MS-DOS 領域）を2つに分けた場合です。

3 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。



4 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」のをクリックしてにし、「開始」をクリックします。

増設したハードディスク
のドライブ名であること
を確認してください。



5 「OK」をクリックします。

フォーマットが始まります。

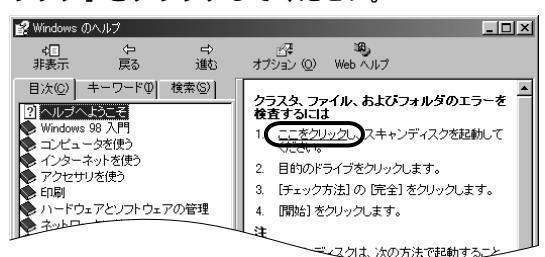
6 フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。

7 「OK」をクリックします。

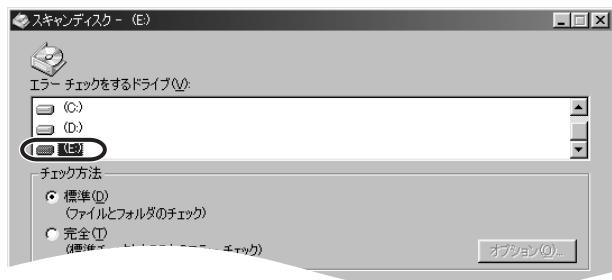
8 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。

スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。

ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



9 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



10 「チェック方法」で「完全」を選びます。

11 「開始」をクリックします。

12 スキャンディスクが終了したら、「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。

13 「スキャンディスク」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの右上の×(閉じるボタン)をクリックします。

15 「フォーマット」ウィンドウの「閉じる」をクリックします。

16 「マイコンピュータ」ウィンドウの右上の×(閉じるボタン)をクリックします。

アドバイス
エラーが検出されたときは
スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

アドバイス
領域を2つ以上に分けたときは
手順2~15(☞P.78)を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

CRTディスプレイを使う

本パソコンに別売りのCRTディスプレイを取り付けて、より大きな画面に表示することができます。

CRTディスプレイをお使いになるときは、以下の手順に従って設定してください。

- 1** 本パソコンの電源を切り、パソコン本体のディスプレイコネクタ(☞P.5)にCRTディスプレイを接続します。
- 2** CRTディスプレイと、本パソコンの電源を入れます。
本パソコンとCRTディスプレイに画面が表示されます。
- 3** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 4**  (画面)をクリックします。
- 5** 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 6** 「画面」タブをクリックします。
- 7** ディスプレイ表示をCRTディスプレイに切り替えます。
「LCDパネル」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。
- 8** 「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 9** CRTディスプレイにメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
「はい」をクリックしないで15秒過ぎると、設定が元に戻ります。
初めてCRTディスプレイをお使いになる場合は、以下の手順に従って本パソコンを再起動してください。2回目以降は不要です。
- 10** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 11** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
お使いになるCRTディスプレイによっては、再起動後、本パソコンとCRTディスプレイに再び画面が表示されます。その場合は、手順5~9まで操作し直してください。



アドバイス

CRTディスプレイをお使いになるときの注意

- ・本パソコンでは、CRTディスプレイと液晶ディスプレイの同時表示は保証していません。
- ・CRTディスプレイの画面の設定を変更する場合は、ディスプレイ表示をCRTディスプレイに切り替えた後に行ってください。画面の設定については、「解像度や発色数を変更する」(☞P.36)をご覧ください。
- ・お使いのCRTディスプレイによっては、モニタの設定(☞P.129)が必要になる場合があります。
- ・お使いのCRTディスプレイの解像度、発色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。

表示できる解像度と発色数

別売りのCRTディスプレイで設定できる解像度や発色数は、次のとおりです。
CRTディスプレイの種類によっては、解像度や発色数に制限のあるものがあります。詳しくは、CRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
下表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。

解像度	最大発色数	設定可能な発色数
640×480 ドット	1677万色	256色、HighColor(16ビット)、TrueColor(32ビット)
800×600 ドット	1677万色	256色、HighColor(16ビット)、TrueColor(32ビット)
1024×768 ドット	1677万色	256色、HighColor(16ビット)、TrueColor(32ビット)
1280×1024 ドット	6万5千色	256色、HighColor(16ビット)

- ・HighColor(16ビット)は6万5千色、TrueColor(32ビット)は1677万色です。

第4章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常的にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。また、正しく設定しないと本パソコンが正常に動作しなくなることもあります。

設定が必要な場合のみ、お読みください。

また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1. BIOS セットアップとは	84
2. BIOS セットアップの操作のしかた	85
3. ご購入時の設定に戻す	90
4. BIOS セットアップメニューの詳細	92
5. BIOS が表示するメッセージ一覧	110

BIOS セットアップとは

BIOS (バイオス) セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのソフトウェアです。

本パソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたときなどに設定を行ってください。

通常、本パソコンをお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。

誤って BIOS セットアップを起動してしまった場合は、「 BIOS セットアップを終了する 」(\leftarrow P.88) をご覧になり、BIOS セットアップを終了してください。



アドバイス

バッテリの交換について

BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM (シーモス ラム) と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリによって保存しています。 BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないことがあります。バッテリが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元にご相談ください。

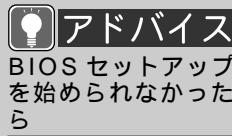
パーソナルエコーセンターのご利用については、『富士通パソコン ご案内』をご覧ください。

BIOS セットアップの操作のしかた

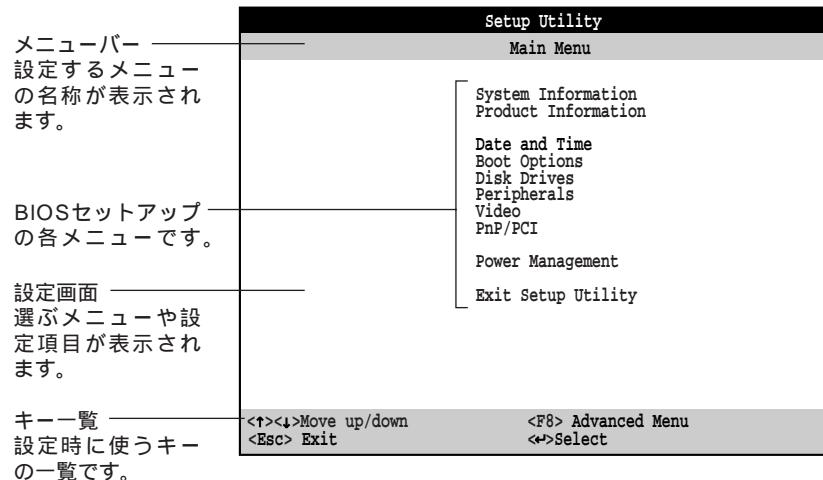
ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 3 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 4 画面左下に「Enter Setup, Press F2 key」と表示されている間に、**[F2]** を押します。
BIOS セットアップの Main Menu 画面が表示されます。

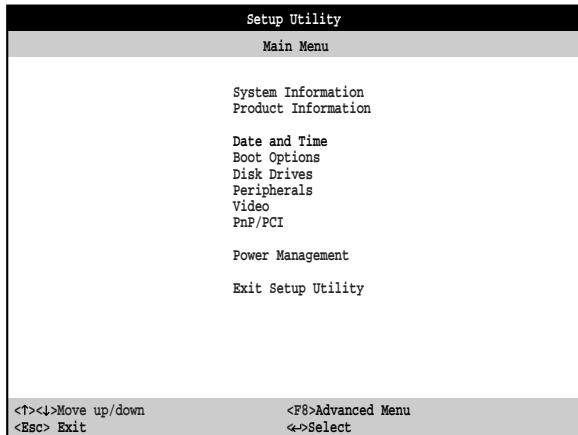


Windows 98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。Windows 98 が完全に起動するのを待ってから、再度手順 2 ~ 4 の操作を行なってください。



設定を変更する

1   を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、〔 〕についている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。実際の画面は、〔 〕つきでは表示されません。通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。

2 設定を変更したいメニューが黄色で表示されていることを確認し、 を押します。

Advanced Menu (詳細設定項目) を表示するときは、 を押してから  を押します。

3   を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
▶ の付いている項目にカーソルを合わせて  を押すと、サブメニューが表示されます。



(画面は一例です)

アドバイス

数値を入力する項目
もあります

項目の中には、数値を入力
するものもあります。詳し
くは「BIOS セットアップ
メニューの詳細」
(☞P.92) をご覧ください。

4 を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、を押して Main Menu 画面に戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」(☞P.88) をご覧ください。

設定時に使う各キーの役割

- ・  : 前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、Main Menu 画面に戻ります。サブメニュー や ヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。
- ・  : Main Menu 画面が表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
- ・  : ▶ が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
- ・   : 設定するメニュー や 項目、設定にカーソルを移動します。
- ・   : 設定を変更します。
- ・  : カーソルを合わせている項目のヘルプを表示します。ヘルプを閉じるにはを押します。なお、ヘルプが表示されない項目もあります。
- ・  : Main Menu 画面で押すと、Advanced Menu (詳細設定項目) が表示されます。Advanced Menu の表示を消すには、Main Menu 画面で再度を押します。

変更内容を取り消す

前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

1 Main Menu 画面から Exit Setup Utility を選び、を押します。

2 「Abort Settings Change」を選び、を押します。

「Do you want to load previous settings?」というメッセージが表示されます。

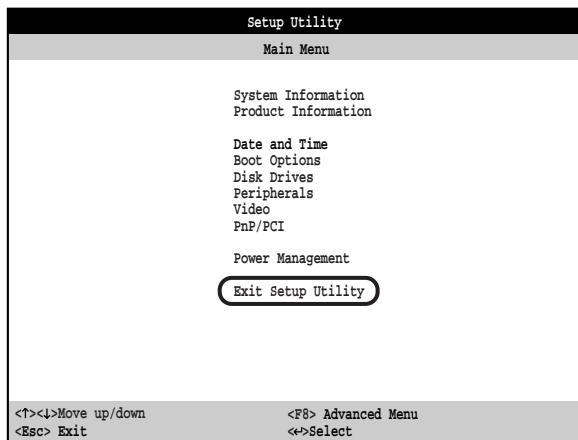
3 「Yes」を選び、を押します。

設定が前回保存したときの値に戻ります。

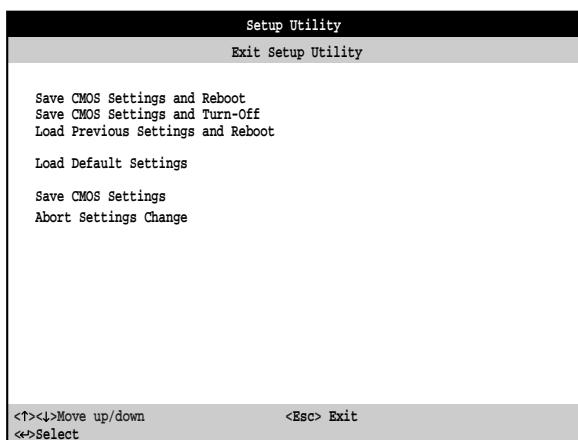
保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「ご購入時の設定に戻す」(☞P.90) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

- 1 各メニューの設定を終了し、**[Esc]**を押して Main Menu 画面を表示します。
- 2 **□ □**を押して、Exit Setup Utility にカーソルを合わせます。

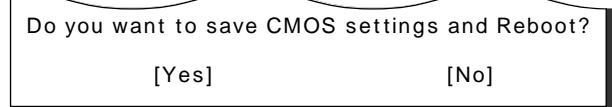


- 3 **[Enter]**を押します。



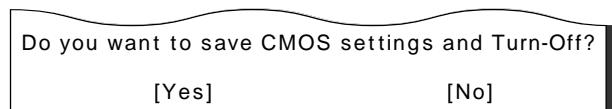
4 ◎設定を保存して BIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

➡ を押して、「Save CMOS Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。



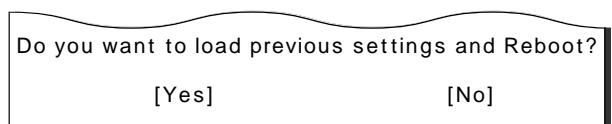
◎設定を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切る場合

➡ を押して、「Save CMOS Settings and Turn-Off」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。



◎設定を保存しないで BIOS セットアップを終了し、Windows 98 を起動する場合

➡ を押して、「Load Previous Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。



5 を押して、「Yes」にカーソルを合わせ（白字で表示されている状態）、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了します。

Exit Setup Utility メニューについて詳しくは、「Exit Setup Utility」（☞P.108）をご覧ください。

3

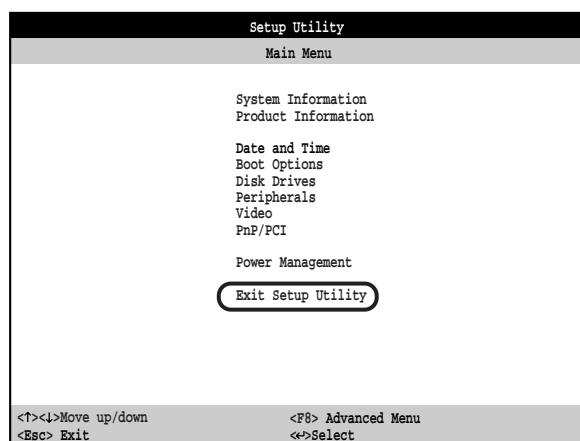
ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（初期値）に戻す方法は次のとおりです。

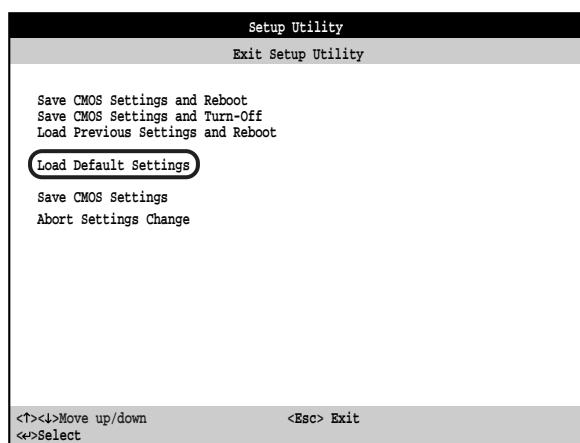
- 1** Main Menu 画面が表示されていないときは、**[Esc]** を押して Main Menu 画面を表示します。

BIOS セットアップを起動していない場合は、「BIOS セットアップを起動する」（☞P.85）をご覧ください。

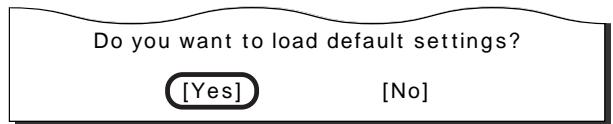
- 2** **[□]** **[□]** を押して、Exit Setup Utility にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。



- 3** **[□]** **[□]** を押して「Load Default Settings」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。

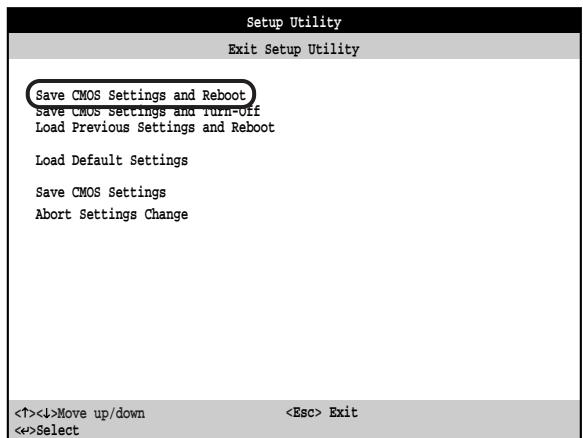


- 4** を押して「Yes」にカーソルを合わせ（白字で表示されている状態） を押します。



設定がご購入時の状態に戻ります。

- 5** を押して「Save CMOS Settings and Reboot」にカーソルを合わせ、 を押します。



- 6** を押して「Yes」にカーソルを合わせ（白字で表示されている状態） を押します。



BIOSセットアップが終了し、Windows98が起動します。

BIOS セットアップメニューの詳細

アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、〔〕のついている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。Advanced Menu を表示するには、Main Menu 画面で [F8] を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、〔〕つきでは表示されません。通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。

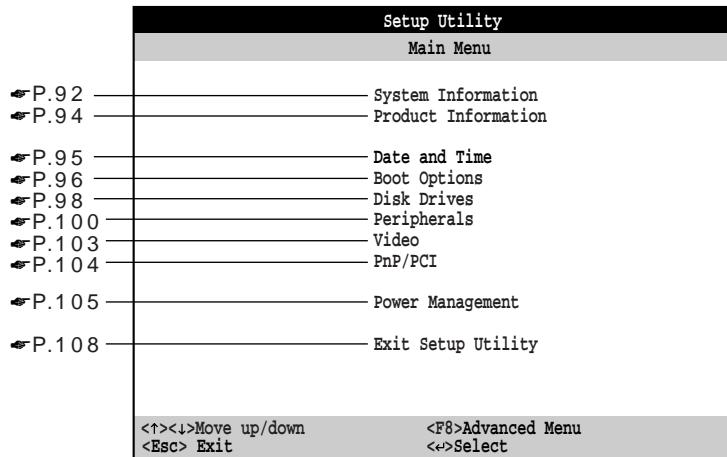
アドバイス

表示される値は異なる場合があります

取り付けられているオプション機器によって、表示される数値や設定は異なります。

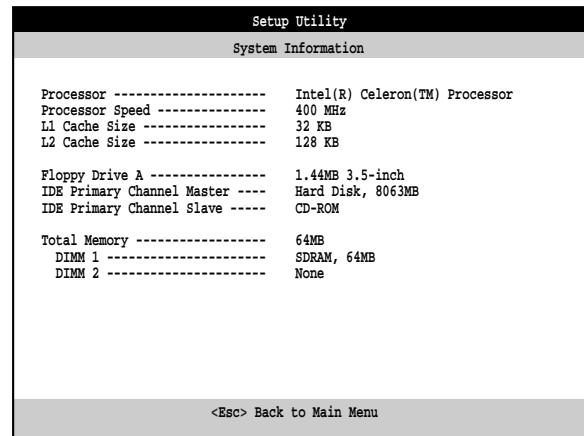
ここでは、BIOS セットアップの各メニューの詳細を説明します。

各メニューの表示のしかた、設定の変更のしかたについて詳しくは、「BIOS セットアップの操作のしかた」(☞P.85) をご覧ください。



System Information

本パソコンのハードウェア構成を表示します。設定は変更できません。



設定項目の詳細

Processor

本パソコンに取り付けられているCPUのタイプを表示します。

Processor Speed

本パソコンに取り付けられているCPUの動作周波数を表示します。

L1 Cache Size

1次キャッシュメモリの容量を表示します。

L2 Cache Size

2次キャッシュメモリの容量を表示します。

Floppy Drive A

取り付けられているフロッピーディスクドライブのタイプを表示します。

本パソコンではあらかじめフロッピーディスクドライブが1台取り付けられていますので、そのフロッピーディスクのタイプが表示されます。

IDE Primary Channel Master

本パソコンにあらかじめ内蔵されているハードディスクの容量が表示されます。

IDE Primary Channel Slave

本パソコンにあらかじめ内蔵されているCD-ROMが設定されています。

Total Memory

本パソコンの全メモリ容量を表示します。

DIMM 1

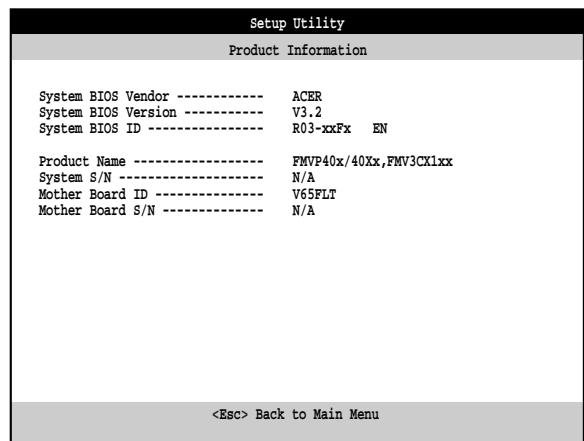
本パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリのタイプと容量を表示します。

DIMM 2

メモリスロット2にメモリを増設した場合に、メモリのタイプと容量が表示されます。

Product Information

BIOS やマザーボードに関する情報を表示します。設定は変更できません。



設定項目の詳細

System BIOS Vendor

本パソコンの BIOS のメーカーが表示されます。

System BIOS Version

本パソコンの BIOS のバージョンが表示されます。

System BIOS ID

本パソコンの BIOS の ID が表示されます。

Product Name

本 BIOS がサポートしている機種名が表示されます。

System S/N

本パソコンでは N/A と表示されます。

Mother Board ID

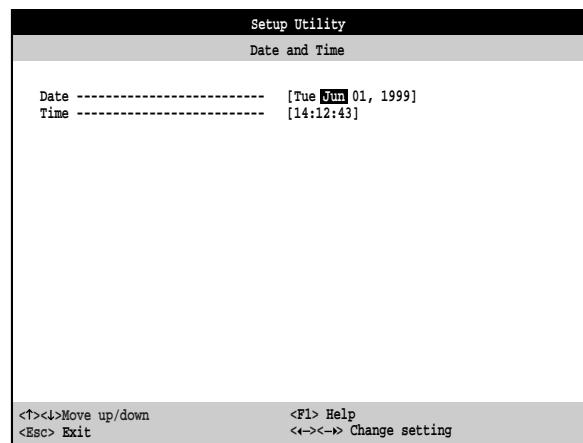
本パソコンでは V65FLT と表示されます。

Mother Board S/N

本パソコンでは N/A と表示されます。

Date and Time

日時の設定を行います。



設定項目の詳細

アドバイス

日時の設定は一度だけ

Date と Time は一度合わせれば、電源を入れるたびに設定する必要はありません。

Date

月 / 日 / 年を設定します。年は西暦で 2 行ずつ入力します。
曜日は設定できません。

Time

時:分:秒を設定します。時間は 24 時間形式で入力します。

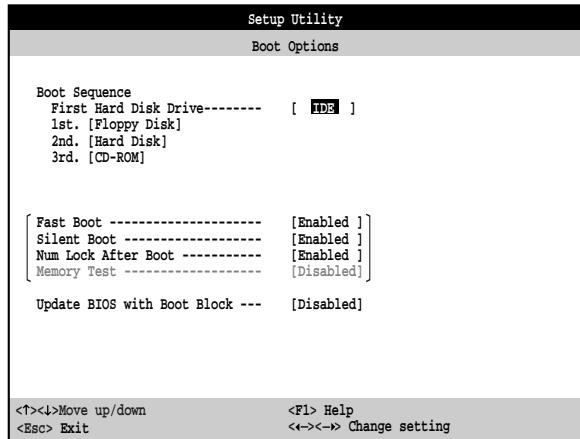
Boot Options

アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、〔〕のついている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。Advanced Menuを表示するには、Main Menu 画面で〔F8〕を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、〔〕つきでは表示されません。

通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。



設定項目の詳細

Boot Sequence

(初期値: 1st. Floppy Disk、2nd. Hard Disk、3rd. CD-ROM)
OSを読み込む順番を設定します。1st.に設定されているドライブでOSが見つからない場合は、2nd.に設定されているドライブから、2nd.に設定されているドライブでもOSが見つからない場合は3rd.に設定されているドライブから読み込みます。

□□キーで優先順位を変更できます。通常は初期値のままでお使いください。

First Hard Disk Drive (初期値: IDE)

最初にOSを読み込むハードディスクを設定します。

- IDE

本パソコンにあらかじめ内蔵されているIDE規格のハードディスクから読み込みます。

- SCSI

本パソコンに接続したSCSI規格のハードディスクから読み込みます。

[Fast Boot] (初期値: Enabled)

電源を入れてから、または再起動してからOSを読み込むまでの時間を設定します。通常はEnabledのままでお使いください。

- Enabled
OSを読み込むまでの時間を短くします。
ただし、BIOSセットアップを終了したあとの最初の起動時には、Fast Bootは行われません。
- Disabled
OSを読み込むまでの時間を短くしません。
- Auto
Windows98などのACPI対応のOSが、OSを読み込むまでの時間を制御します。

[Silent Boot] (初期値: Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、「FUJITSU」のロゴ表示について設定します。通常はEnabledのままでお使いください。

- Enabled
本パソコンの起動および再起動時に「FUJITSU」のロゴを画面に表示します。
- Disabled
「FUJITSU」のロゴを画面に表示せずに、起動時のテストの結果を表示します。

[Num Lock After Boot] (初期値: Enabled)

本パソコンの起動および再起動時の、キーボードのテンキーの状態を設定します。

キーボードをNumLock状態にするとテンキーから数値入力ができます。また、NumLock状態にしないとテンキー表面の下の段に書かれた機能が使えます。

- Enabled
NumLock状態にします。
- Disabled
NumLock状態にしません。

[Memory Test] (初期値: Disabled)

本パソコンの起動および再起動時の、メモリのテストについて設定します。この項目は、Fast BootをDisabledに設定すると、設定を変更できます。

- Enabled
メモリのテストを行います。
- Disabled
メモリのテストを行いません。

Update BIOS with Boot Block (初期値: Disabled)

この機能は、将来のBIOS機能拡張のために用意されています。

この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

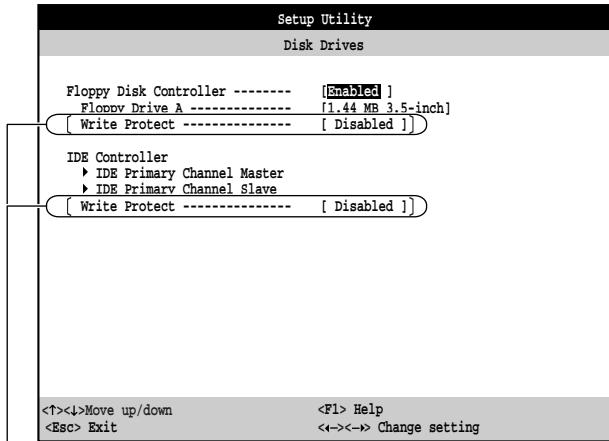
Disk Drives

アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、[]のついている項目は Advanced Menuです。通常は表示されません。Advanced Menuを表示するには、Main Menu画面で [F8] を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、[]つきでは表示されません。

通常は Advanced Menuの設定を変更する必要はありません。



Windows 98 では設定が無効となります。

重要

Windows 98 では設定が無効になる項目があります

Disk Drives メニューの設定項目のうち、上の画面で示している項目を設定しても、Windows 98 では設定が無効となります。

設定項目の詳細

Floppy Disk Controller (初期値: Enabled)

本パソコンにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブが、正常に動作するように設定されています。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Floppy Drive A (初期値: 1.44 MB 3.5-inch)

本パソコンにあらかじめ取り付けてあるフロッピーディスクドライブは「1.44 MB 3.5-inch」でのみ動作します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、フロッピーディスクの読み出し、書き込みができなくなります。

[Write Protect] (初期値: Disabled)

フロッピーディスクへの書き込みの禁止について設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

アドバイス

Advanced Menuについて

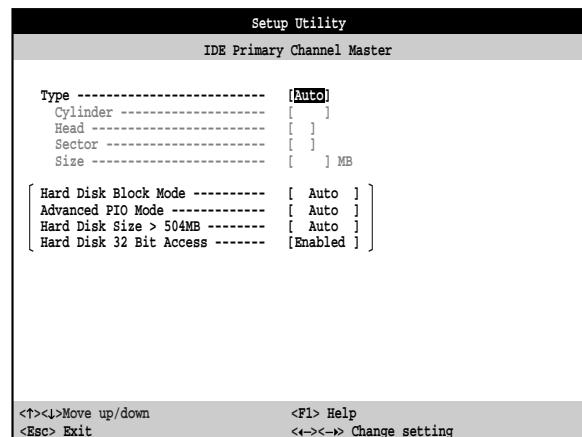
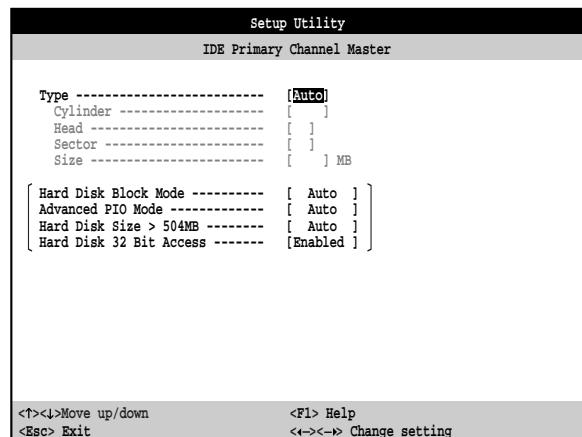
本章の各メニューの詳細の中で、()のついている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。Advanced Menu を表示するには、Main Menu 画面で [F8] を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、()つきでは表示されません。

通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。

IDE Controller

IDE Primary Channel Master/IDE Primary Channel Slave

本パソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクやCD-ROMが正常に動作するように設定されています。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。IDE Primary Channel Master、またはIDE Primary Channel Slaveにカーソルを合わせて [Enter] を押すと、サブメニューが表示されます。



[Write Protect] (初期値: Disabled)

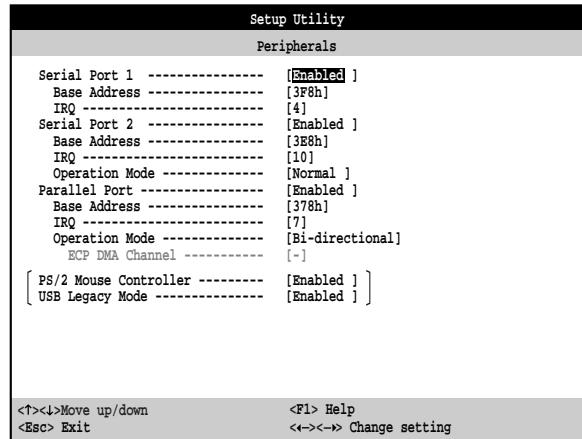
ハードディスクへの書き込みの禁止について設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Peripherals

アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、[]のついている項目はAdvanced Menuです。通常は表示されません。Advanced Menuを表示するには、Main Menu画面で [F8] を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、[]つきでは表示されません。通常はAdvanced Menuの設定を変更する必要はありません。



設定項目の詳細

Serial Port 1 (初期値 : Enabled)

本体背面のシリアルポート(シリアルコネクタ(COM1))について設定します。

- Enabled
シリアルポートを使えるようにします。
- Disabled
シリアルポートを使えないようにします。

Base Address (初期値 : 3F8h)

シリアルポートのアドレス番号を設定します。

- 3F8h/3E8h/2F8h/2E8h
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

重要

2F8hは設定しないでください

本パソコンでは2F8hのアドレス番号をFAX / ボイスモデムカードが使っています。

IRQ (初期値 : 4)

シリアルポートのIRQ(割り込み要求)を設定します。

- 4/11
シリアルポートのIRQを4または11に設定します。

Serial Port 2 (初期値 : Enabled)

本体前面の赤外線通信ポート (IrDA) およびタッチパネルについて設定します。

- Enabled
赤外線通信ポートおよびタッチパネルを使えるようにします。
- Disabled
赤外線通信ポートおよびタッチパネルを使えないようにします。

Base Address (初期値 : 3E8h)

赤外線通信ポートおよびタッチパネルのアドレス番号を設定します。

- 3F8h/3E8h/2F8h/2E8h
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

IRQ (初期値 : 10)

赤外線通信ポートおよびタッチパネルのIRQ (割り込み要求) を設定します。

- 3/10
赤外線通信ポートおよびタッチパネルのIRQを3または10に設定します。

重要

2F8h と IRQ3 は設定しないでください

本パソコンでは2F8hのアドレス番号およびIRQ3の割り込み要求をFAX / ボイスモデムカードが使っています。

Operation Mode (初期値 : Normal)

赤外線通信ポートおよびタッチパネルの使用を切り替えます。

- Normal
タッチパネルを使えるようにします。
- IrDA
赤外線通信ポートを使えるようにします。

Parallel Port (初期値 : Enabled)

本体背面のパラレルポート (パラレルコネクタ) について設定します。

- Enabled
パラレルポートを使えるようにします。
- Disabled
パラレルポートを使えないようにします。

Base Address (初期値 : 378h)

パラレルポートのアドレス番号を設定します。

- 378h/278h/3BCh
アドレス番号をそれぞれの番号に設定します。

IRQ (初期値 : 7)

パラレルポートのIRQ (割り込み要求) を設定します。

- 7/5
パラレルポートのIRQを7または5に設定します。

アドバイス

3BCh に設定したときは

Operation Mode を EPP モードに設定して使うことはできません。

Operation Mode (初期値 : Bi-directional)

パラレルポートに接続する周辺装置の種類を設定します。

- Standard

出力専用モードを使う周辺装置を接続するときに選びます。

- Bi-directional

双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選びます。

- EPP

EPP 規格の周辺装置を接続するときに選びます。

- ECP

ECP 規格の周辺装置を接続するときに選びます。

ECP DMA Channel (初期値 : -)

Operation Mode で、ECP を選んだときのみ設定できます。ECP 規格の機器を接続するときに、どの DMA チャネルを使うかを選びます。

-

DMA チャネルを使いません。

- 1 / 3

DMA チャネル 1 または 3 を使います。

[PS/2 Mouse Controller] (初期値 : Enabled)

本パソコンのマウスコネクタに接続したマウスを使えるように設定します。この設定は変更しないでください。

- Enabled

マウスを使えるようにします。

- Disabled

マウスを使えないようにします。

[USB Legacy Mode] (初期値 : Enabled)

USB をサポートしていない環境で、USB キーボードを使えるように設定します。この設定は変更しないでください。

- Enabled

USB キーボードを使えるようにします。

- Disabled

USB キーボードを使えないようにします。

Video

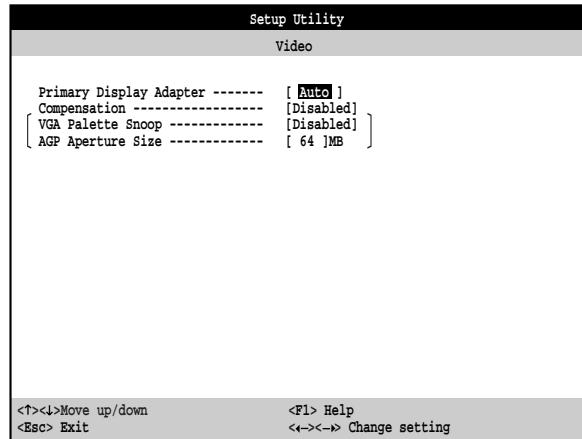
アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、〔〕のついている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。Advanced Menuを表示するには、Main Menu 画面で [F8] を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、〔〕つきでは表示されません。

通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。

本パソコンの画面表示に関する設定を行います。



設定項目の詳細

Primary Display Adapter (初期値: Auto)

通常は Auto のままお使いください。

Compensation (初期値: Disabled)

本パソコンの液晶ディスプレイで、ご購入時の状態よりも解像度を小さく設定した場合の画面補正について設定します。

- Enabled

補正を行って、画面全体で表示します。

- Disabled

補正を行わずに、画面の中央に表示します。

[VGA Palette Snoop] (初期値: Disabled)

通常は Disabled のままお使いください。

[Graphics Aperture Size] (初期値: 64)

マザーボード上の VGA コントローラが画像表示に使う、本パソコンの AGP メモリの上限を設定します。

- 64/128/256

マザーボード上の VGA コントローラが画像表示に使う、本パソコンの AGP メモリの上限をそれぞれの値に設定します。

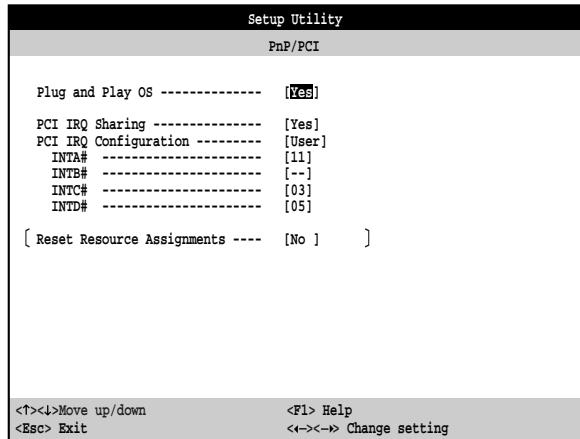
PnP/PCI

アドバイス

Advanced Menuについて

本章の各メニューの詳細の中で、[]のついている項目は Advanced Menu です。通常は表示されません。Advanced Menuを表示するには、Main Menu 画面で [F8] を押してから各メニューを表示してください。実際の画面は、[]つきでは表示されません。

通常は Advanced Menu の設定を変更する必要はありません。



設定項目の詳細

Plug and Play OS (初期値 : Yes)

Windows 98 など、プラグアンドプレイに対応した OS を使うかを設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

PCI IRQ Sharing (初期値 : Yes)

複数の PCI 規格の拡張カードでの IRQ(割り込み要求) の共有について設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

PCI IRQ Configuration (初期値 : User)

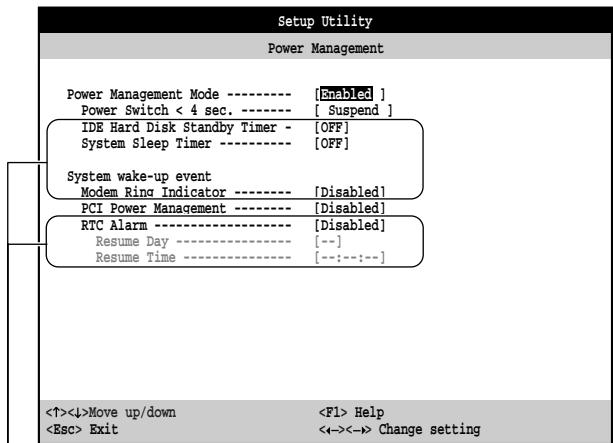
本パソコンに取り付けられている PCI 規格の拡張カード、または PCI デバイスが使う IRQ(割り込み要求) を設定します。この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

[Reset Resource Assignments] (初期値 : No)

この設定は変更しないでください。設定を変更すると、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。

Power Management

本パソコンの省電力に関する設定を行います。



Windows 98 では設定しないでください。

重要

項目によっては設定しないでください

Power Management メニューの設定項目のうち、上の画面で示している項目は設定しないでください。

設定項目の詳細

Power Management Mode (初期値 : Enabled)

本パソコンは、省電力モードを備えています。省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使わなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

- Enabled
省電力モードに移行するようにします。
- Disabled
省電力モードに移行しないようにします。省電力モードに関する設定項目は、灰色の文字で表示され、設定できなくなります。また、Power Switch<4 sec. が自動的に Power Off になります。



アドバイス

Power Management Mode を Disabled に設定すると

Disabled に設定すると、Windows 98 終了時の自動電源オフはできなくなります。

本パソコンの電源を切るときは、「今日はおしまい。電源を切るには？」(☞P.13)をご覧になり、手順4までを行います。画面に「コンピュータの電源を切る準備ができました」と表示されたら電源スイッチを押してください。本パソコンの電源が切れます。その後に、本パソコンに接続されている機器の電源も切ってください。

省電力モードにしないでください

- 省電力対応以外のディスプレイを使うときは、Power Management Mode を Disabled に設定するか、もしくは Power Management Mode を Enabled のまま System Sleep Timer を OFF のままで使いください。
- 省電力モードが設定されていると、モデムや LAN などを使う通信環境によっては、通信できなくなる場合があります。その場合は、Power Management Mode を Disabled に設定してください。

Power Switch<4 sec. (初期値 : Suspend)

電源スイッチを押した場合に、スタンバイ(☞P.15)に移行するか、電源が切れるようにするかを設定します。

- Suspend

電源スイッチを押すとスタンバイになります。スタンバイの状態で電源スイッチを4秒以上押し続けると、電源が切れます。

- Power Off

電源スイッチを押すと電源が切れます。

IDE Hard Disk Standby Timer (初期値 : OFF)

内蔵ハードディスクを、スタンバイ(一部の回路を停止させた状態)に移行させるまでの時間を設定します。ハードディスクにアクセスすると、スタンバイから通常の状態に数秒で戻ります。

- 1 ~ 60

1分から60分の間で規定の時間を設定します。その時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクがスタンバイになります。

- OFF

スタンバイになりません。

スタンバイモードをサポートしていないときは

System Sleep Timer (初期値 : OFF)

システム全体をスタンバイに移行させるまでの時間を設定します。キーボードの任意のキーを押すか、マウスを動かすと、スタンバイから通常の状態に数秒で戻ります。

- 2 ~ 120

2分から120分の間で規定の時間を設定します。その時間パソコンを使わなかった場合に、スタンバイになります。

- OFF

スタンバイになりません。

System wake-up event

電話がかかってきたり、モデムカードから復帰信号が送られたりしたときに、本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

Modem Ring Indicator (初期値 : Disabled)

本パソコンのモデムカードと電話回線を接続している状態で、電話がかかってきたときに本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

- Enabled

スタンバイから復帰させます。

- Disabled

スタンバイから復帰しません。

PCI Power Management (初期値 : Disabled)

モデムカードから復帰信号が送られてきたときに、本パソコンをスタンバイから復帰させるように設定します。

- Enabled

スタンバイから復帰させます。

- Disabled

スタンバイから復帰しません。

RTC Alarm (初期値 : Disabled)

あらかじめ設定した時間に、本パソコンをスタンバイから復帰させたり、または自動的に電源を入れたりするように設定します。

- Time

スタンバイから復帰させる、または電源を入れる時刻を設定します。

- Date/Time

スタンバイから復帰させる、または電源を入れる日と時刻を設定します。

- Disabled

スタンバイから復帰しません。または電源を入れません。

Resume Day (初期値 : --)

スタンバイから復帰する、または電源を入れる日を設定します。

Resume Day は 1 度設定すると、解除するまでその設定が有効になります。

Resume Time (初期値 : --:--:--)

スタンバイから復帰する、または電源を入れる時刻を設定します。

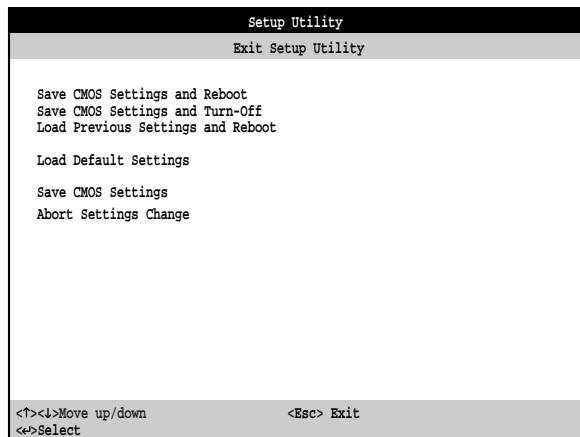
「時間:分:秒」の順に設定します。

Resume Time は 1 度設定すると、解除するまでその設定が有効になります。

Exit Setup Utility

BIOS セットアップを終了します。また、設定をご購入時の状態（初期値）に戻すこともできます。

BIOS セットアップの終了のしかたについて詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」（☞P.88）を、設定をご購入時の状態に戻す方法について詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」（☞P.90）をご覧ください。



設定項目の詳細

Save CMOS Settings and Reboot

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。

この項目にカーソルを合わせて [Enter] を押すと、「Do you want to save CMOS settings and Reboot?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、[Enter] を押します。変更した設定が保存され、Windows 98 が起動します。

Save CMOS Settings and Turn-Off

変更した設定を保存して、BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源を切れます。

この項目にカーソルを合わせて [Enter] を押すと、「Do you want to save CMOS settings and Turn-Off?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、[Enter] を押します。変更した設定が保存され、本パソコンの電源が切れます。

Load Previous Settings and Reboot

変更した設定を保存しないで、BIOS セットアップを終了します。

この項目にカーソルを合わせて [Enter] を押すと、「Do you want to load previous settings and Reboot?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、[Enter] を押します。設定が前回保存した値に戻り、Windows 98 が起動します。

Load Default Settings

BIOSセットアップの設定をご購入時の状態（初期値）に戻します。BIOSセットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、「Do you want to load default settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、[Enter]を押します。設定がご購入時の状態（初期値）に戻ります。

Save CMOS Settings

変更した設定を保存します。BIOSセットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、「Do you want to save CMOS settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、[Enter]を押します。変更した設定が保存されます。

Abort Settings Change

変更した設定を保存しないで元に戻します。BIOSセットアップは終了しません。

この項目にカーソルを合わせて[Enter]を押すと、「Do you want to load previous settings?」というメッセージが表示されます。

「Yes」を選び、[Enter]を押します。設定が前回保存した値に戻ります。

上記のどの項目も、「No」を選ぶと、Exit Setup Utilityメニューの画面に戻ります。

BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するメッセージ（BIOS メッセージ）について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する

指示に従って BIOS セットアップを起動して、設定をご購入時の状態（初期値）に戻してください。詳しくは、「ご購入時の設定に戻す」（☞P.90）をご覧ください。

- オプション機器の取り付けを確認する

オプション機器の拡張カードやメモリなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているかを確認してください。また、IRQ（割り込み要求）（☞P.117）が正しく設定されているかも確認してください。このとき、オプション機器のマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもメッセージが表示される場合、または次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

メッセージ一覧

1. CMOS Battery Bad

バッテリの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

2. CMOS Checksum Error

〔F2〕を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」（☞P.90）の操作を行ってください。

3. CPU Clock Mismatch

〔F2〕を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」（☞P.90）の操作を行ってください。

4. Diskette Drive Controller Error or Not Installed

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

5. Diskette Drive A Error

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

6. Equipment Configuration Error

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

7. IDE Drive Controller Error

弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

8. IDE Drive 0 Error または IDE Drive 1 Error
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
9. Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、[Enter]を押してください。
10. Keyboard Error or No Keyboard Connected
本パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているか確認してください。
11. Keyboard Interface Error
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
12. Memory Error at: MMMM:SSSS:OOOO (W:XXXX, R:YYYY) where:
M:MB, S: Segment, O:Offset, X/Y:write/read pattern
メモリが正しく取り付けられているか確認してください。正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
13. Non-System disk or disk error Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、[Enter]を押してください。
14. Onboard Serial Port [1 / 2] Conflict (s)
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
15. Onboard Parallel Port Conflict (s)
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
16. Onboard Pointing Device IRQ Conflict (s)
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
17. Pointing Device Error
本パソコンの電源を切り、マウスが正しく接続されているか確認してください。
18. Pointing Device Interface Error
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
19. Press F2 key to enter SETUP or F1 key to Continue....
弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。
20. Real Time Clock Error
[F2] を押して、BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」(← P.90) の操作を行ってください。
それでもエラーメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエーコーセンター、またはご購入元にご相談ください。

第5章

技術情報

本パソコンの仕様や、ドライバのインストール、注意事項などについて説明しています。

1. 仕様一覧	114
2. コアの取り付け	124
3. ドライバのインストール	125
4. その他の注意事項	138



仕様一覧

パソコン本体

製品名称	FMV-DESKPOWER Pliché model 40X	FMV-DESKPOWER Pliché model 40
CPU	Celeron™ プロセッサ - 400 MHz	
キャッシュメモリ	L1 32KB + L2 128KB	
BIOS ROM	256KB (フラッシュ ROM)	
システム RAM	標準 64MB (SDRAM) パリティなし 最大 192MB	
システムバスクロック	66MHz	
フロッピーディスク	3.5 インチ × 1 (3 モード対応)	
ハードディスク	8.4GB (C ドライブ 3.5GB 、 D ドライブ 4.9GB)	
CD-ROM	最大 24 倍速	
グラフィック	ATI 社製 3D RAGE™ LT PRO (SGRAM : 4MB)	
ディスプレイ	13.3 インチ TFT	12.1 インチ TFT
オーディオ機能	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)	
I/F	ディスプレイ	VGA/SVGA D-SUB 15pin
	キーボード	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin
	マウス	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin
	ペン入力	シリアル接続 × 1 (赤外線通信ポートと切替で使用)
	シリアルポート	非同期 RS-232C × 1 D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin
	USB	USB コネクタ 4pin × 2 (前面 × 1 、背面 × 1)
	サウンド	マイク入力 (コンデンサマイク用) × 1 、 LINE 入力 × 1 、ヘッドホン端子 × 1 、 LINE 出力 × 1 、 MIDI/JOYSTICK 端子 × 1
FAX/ ポイス モデム	モジュラージャック × 2 (LINE × 1 、 PHONE × 1) DATA 56Kbps (受信) 33.6Kbps (送信) / FAX 14.4Kbps	
拡張スロット数	PCI × 2 (ハーフ 、うち 1 つに FAX/ ポイスモデムカードを標準搭載)	
赤外線通信ポート	IrDA 1.0 準拠 (最大 115Kbps)	
電源 / 周波数	AC100V 50/60Hz	
消費電力	最大 100W	
重量	約 9.5Kg	約 9Kg
外形寸法	326mm × 215mm × 384mm (W × D × H)	316mm × 214mm × 360mm (W × D × H)
使用環境	温度 10 ~ 35	湿度 20 ~ 80 % (RH)
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	約 25W	
対応 OS	Windows 98	

176.41mm まで使用可能

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

液晶ディスプレイ

製品名称	FMV-DESKPOWER Plché model 40X	FMV-DESKPOWER Plché model 40
表示方式	TFT	TFT
サイズ	13.3 インチ	12.1 インチ
最大解像度	1024 × 768 ドット	800 × 600 ドット
最大発色数	6 万 5 千色	26 万色

タッチパネル

方式	アナログ抵抗膜方式タッチパネル（シリアル接続）
IRQ	3,<10>
I/O ポートアドレス	2E8-2EEh,2F8-2FFh,<3E8-3EFh>
ペンと画面の位置精度	± 2 mm (垂直・水平とも)

本パソコンのご購入時のIRQ、I/Oポートアドレスの設定は、上表の < > で囲まれた値になっています。

サウンド機能

チップセット	Crystal 社製 CS4614 + CS4297 (AC97)
録音再生機能	サンプリング周波数 5kHz ~ 48kHz 16bit Stereo 最大 96 個同時再生可能 同時録音再生動作可能
MIDI 機能	Wavetable Synthesizer (最大 64 音) GM 音源
その他	サウンドアクセラレーション機能
ゲームポート	MPU-401 互換 MIDI I/F Game Port I/F
リソース	PCI オーディオ アクセラレータ IRQ : 1つ使用 仮想 MPU-401 I/O ポートアドレス : 0300-0301h ~ 03FE-03FFh ジョイスティック I/O ポートアドレス : 0200-0207h, 0208-020Fh

スピーカー

方式	密閉型ボックススピーカー
スピーカーユニット	口径 : 70 × 40 (mm) インピーダンス : 8
定格 (最大) 入力	1W
音圧レベル	78dB/W (m)
再生周波数	170Hz ~ 20kHz

FAX / ボイスモデムカード

品名	FAX / ボイスモデムカード-56000 (全二重)
型名	FMV-FX53Z6
通信方式	2線式 全二重 (FAX モードでは2線式 半二重)
通信規格	K56flex™.ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32 /V.22bis/V.22/V.21/Bell212A,103 (データモード) ITU-T V.17/V.29/V.27ter (FAX モード)
通信速度	<p>データモード : 56000, 54667, 54000, 53333, 52000, 50667, 50000, 49333, 48000, 46667, 46000, 45333, 44000, 42667, 42000, 41333, 40000, 38667, 38000, 37333, 36000, 34667, 34000, 33333, 32000, 30667, 29333, 28000 33600, 31200, 28800, 26400, 24000, 21600, 19200, 16800, 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400, 1200bps</p> <p>FAX モード : 14400, 12000, 9600, 7200, 4800, 2400bps</p> <p>は、受信側のみ</p>
同期方式	調歩同期
データ転送プロトコル	MNP class 4/5 ITU-T V.42/V.42bis
FAXインターフェース	TIA/EIA578 (class1)
バスインターフェース	PCI
音声蓄積機能	ADPCM
寸法	長さ 165 mm × 幅 120 mm × 高さ 22 mm
使用環境条件	温度 : 10 ~ 35 (結露がないこと) 湿度 : 20% ~ 80%
直流抵抗値	256
その他	<ul style="list-style-type: none"> 自動速度検出 発信音、呼び出し音、話し中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状況を示す応答音の検出

- 本モデムはWindows98以外のOSでの動作はサポートしていません。
- K56flexはRockwell International社、Lucent Technologies社が提唱している通信規格です。
- V.90およびK56flexでの接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- 56000bpsはV.90およびK56flexの理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90による33600bps (K56flexは31200bps)を超える通信速度は受信時のみで、V.90送信時は33600bps (K56flexは31200bps)が最高速度になります。
- 日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- MS-DOSモードおよびWindows98のMS-DOSプロンプトではお使いになれません。
- 本モデムはヘッドセットをサポートしていません。
- 300bpsでの通信は行えません。

IRQ (割り込み要求) 一覧

ご購入時の本パソコンの IRQ (割り込み要求) は、次のように設定されています。

アドバイス

IRQ の値は変更されることがあります

ここに記載している IRQ の値は、ご購入時のものです。拡張カードなどのオプション機器を増設すると、値が変更されることがあります。

現在の IRQ を確認するには

拡張カードなどのオプション機器を増設すると、IRQ の値が変更されることがあります。現在の IRQ は、以下の手順で確認できます。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスボインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
 - 2  (システム) をクリックします。
 - 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
 - 4 「コンピュータ」が反転表示されていることを確認し、「プロパティ」をクリックします。
 - 5 「リソースの表示」タブで、「割り込み要求 (IRQ)」をクリックします。
- IRQ の値の一覧が表示されます。

IRQ (割り込み要求)	使っているハードウェア
0 0	システムタイマ
0 1	キーボード
0 2	割り込みコントローラ
0 3	内蔵 FAX / ボイスモデム (COM2)
0 4	通信ポート (COM1)
0 5	サウンド / USB
0 6	フロッピーディスクドライブ
0 7	プリンタポート (LPT1)
0 8	リアルタイムクロック
0 9	空き
1 0	ビルトイン赤外線ポートまたはタッチパネル
1 1	空きまたは Card Bus コントローラ (PC カードスロット増設時)
1 2	マウス
1 3	数値データプロセッサ
1 4	ハードディスク
1 5	空き



IRQ (割り込み要求 : Interrupt Request) とは

コラム

周辺装置が要求する処理はすべて CPU が行いますが、CPU はどの装置からいつ「こういう処理を行ってほしい」という要求が来るかを予想できません。CPU が常にすべての装置を監視していると、処理を行っている時間よりも、監視している時間のほうが長くなってしまい、非効率的です。そこで、各周辺装置や拡張カードのほうで、CPU に実行してほしいことが発生したときに、IRQ の番号を使って現在 CPU が行っている処理に「割り込み」「自分のほうを優先してほしい」と要求します。

CPU は、どの装置から要求が来たのかを IRQ から判断して、処理を行います。それが終われば、CPU はふたたび元の処理に戻ります。

IRQ を解放する

アドバイス

PCI 拡張カードの IRQ を解放するには

お客様が取り付けた PCI 拡張カードが使っている IRQ を解放したいときは、PCI 拡張カードを取り外してください。そのあと、本パソコンの電源を入れると、IRQ が自動的に解放されます。

用語

デバイス

パソコン本体内部の装置（メモリ、拡張カードなど）や、パソコンに接続する機器（マウス、キーボードなど）のことをデバイスと呼びます。

アドバイス

IRQ を解放すると

それまでその IRQ を割り当てられていたデバイスは使えなくなります。

IRQ4 を解放すると、パソコン本体背面のシリアルコネクタ（COM1）（☞P.5）が使えなくなります。

IRQ7 を解放すると、パラレルコネクタ（☞P.5）が使えなくなります。

これらのコネクタにオプション機器を接続している場合は、そのオプション機器も使えなくなります。

オプション機器をお使いになる場合には、オプション機器を取り付ける前に以下の設定が必要になることがあります。

取り付けるオプション機器が必要とする IRQ が本パソコンすでに使われているときは、そのままではそのオプション機器を使えません。オプション機器を取り付ける前に、オプション機器が必要とする IRQ を本パソコンで空ける必要があります。この作業を「IRQ の解放」といいます。

本パソコンの IRQ の使用状況について詳しくは、「IRQ（割り込み要求）一覧」（☞P.117）をご覧ください。

ここでは、シリアルポートまたはパラレルポートの IRQ を解放する手順を例に、IRQ を解放する方法を説明します。

重要

IRQ を解放したデバイスは使えません

IRQ を解放すると、それまでその IRQ を割り当てられていたデバイスは、使えなくなりますのでご注意ください。

再びお使いになるときは、IRQ を再設定してください。

IRQ は不用意に解放しないでください

IRQ は、不用意に解放すると、本パソコンが動作しなくなることがあります。「IRQ（割り込み要求）一覧」（☞P.117）でよくご確認のうえ、IRQ を解放してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

2  (システム) をクリックします。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
本パソコンのハードウェアの一覧が表示されます。

4 解放したい IRQ を使っているデバイスをクリックして選びます。

IRQ4 を解放するには「ポート (COM/LPT)」内の「通信ポート (COM1)」を選びます。

IRQ7 を解放するには「ポート (COM/LPT)」内の「プリンタポート (LPT1)」を選びます。

5 「プロパティ」をクリックします。

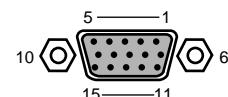
デバイスのプロパティの「情報」が表示されます。

- 6** 「デバイスの使用」の「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のをクリックしてにし、「OK」をクリックします。
「デバイスマネージャ」タブに戻ります。
IRQ を解放したデバイスに×印が付きます。
- 7** 「閉じる」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが閉じます。
デバイスによっては、「閉じる」をクリックしたあとに、再起動するメッセージが表示されるものがあります。この場合は「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。再起動したら、操作は終了です。
- 8** 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
- 9** 「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

コネクタのピン配列と信号名

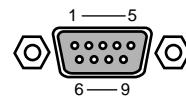
各コネクタのピンの配列および信号名は次のとおりです。

ディスプレイコネクタ



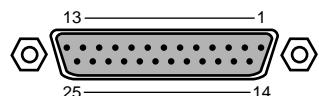
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+ 5V	-	電源
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

シリアルコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

パラレルコネクタ



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	-	グランド

マウスコネクタ



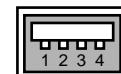
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

キーボードコネクタ



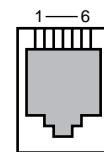
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

USB コネクタ



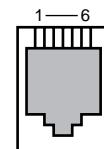
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

LINE 端子 (モデム)



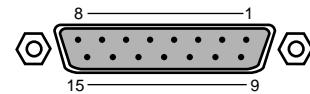
ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	PHONE端子の5ピンと接続
3	LINE	入出力	公衆回線に接続
4	LINE	入出力	公衆回線に接続
5	-	-	PHONE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

PHONE 端子 (モデム)



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	NC	-	未接続
2	-	-	LINE端子の5ピンと接続
3	TEL	入出力	電話機に接続
4	TEL	入出力	電話機に接続
5	-	-	LINE端子の2ピンと接続
6	NC	-	未接続

MIDI/JOYSTICK 端子



ピンNo.	信号名	方向	内容
1	+ 5V	-	電源
2	JOYFO	入力	ジョイスティックAボタン1
3	JRC0	入力	ジョイスティックA X座標
4	GND	-	グランド
5	GND	-	グランド
6	JRC1	入力	ジョイスティックA Y座標
7	JOYF1	入力	ジョイスティックAボタン2
8	+ 5V	-	電源
9	+ 5V	-	電源
10	JOYF2	入力	ジョイスティックBボタン1
11	JRC2	入力	ジョイスティックB X座標
12	MIDIOUT	出力	MIDI出力
13	JRC3	入力	ジョイスティックB Y座標
14	JOYF3	入力	ジョイスティックBボタン2
15	MIDIIN	入力	MIDI入力

本体のコネクタ / ジャックで使用できるケーブル

パラレルコネクタ	D-SUB25 ピンコネクタ付きケーブル
シリアルコネクタ	D-SUB9 ピンコネクタ付きケーブル
USB コネクタ	USB ケーブル
MIDI/JOYSTICK 端子	D-SUB15 ピンコネクタ付きケーブル
LINE/PHONE 端子	モジュラーケーブル
SPK OUT/LINE OUT/LINE IN 端子	ミニプラグ（ステレオ）ケーブル
MIC IN 端子	ミニプラグ（モノラル）ケーブル
ヘッドホン端子	ミニプラグ（ステレオ）ケーブル



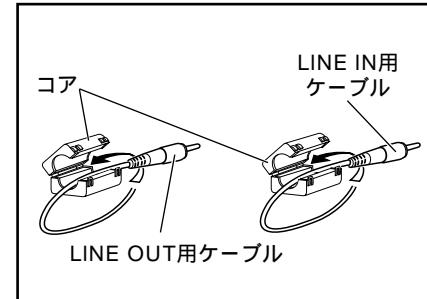
2

コアの取り付け

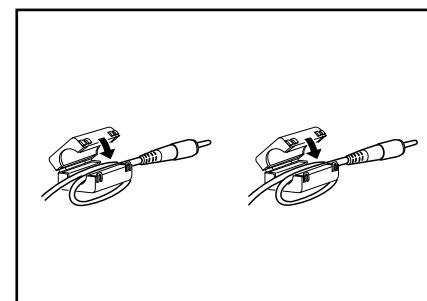
本パソコンは、LINE IN 端子とLINE OUT 端子を備えています。これらの端子に市販のオーディオ用ケーブルなどを接続するときは、不要電波の放射を軽減するために、添付のコアを取り付けてください。

コアの取り付けかたは、次のとおりです。パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた状態で作業してください。

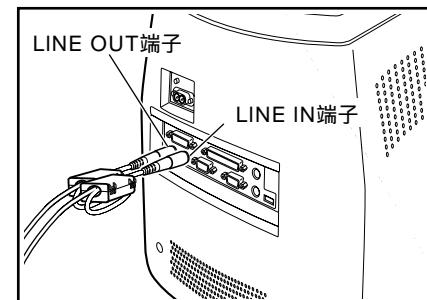
- 1** ケーブルのコネクタのすぐうしろで、コアにケーブルを1回巻き付けます。



- 2** コアを閉じます。



- 3** ケーブルを端子に取り付けます。



重要

コアでケーブルをはさまないようにしてください

コアを閉じるときに、コアでケーブルをはさまないように、注意してください。



ドライバのインストール

パソコンの調子が悪いとき、その原因がドライバにある場合があります。ゲームなどをインストールして、パソコンに合わないドライバに更新されてしまうと、パソコンは正しく動作しません。パソコンの状態に合わせて、ドライバを再インストールしてください。

画面が正しく表示されない場合はディスプレイドライバをインストールします。

音が正しく出ない場合はサウンドドライバをインストールします。

ペン入力の調子が悪い場合はタッチパネルドライバをインストールします。

インストールのときに気をつけること

正常にインストールを行うために、注意していただくことがあります。

5

マウスをお使いください

正常にインストールを行うために、マウスで操作してください。

ペンを使ったタッチ操作はインストール終了後にお使いください。

技術情報（ドライバのインストール）

アドバイス

アクトイブデスクトップを解除する別
の方法

デスクトップの何もないところで右クリックし、「アクトイブデスクトップ」にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックしても、アクトイブデスクトップを解除できます。

アクトイブデスクトップの解除

アクトイブデスクトップに設定されたままインストールを行うと、正常にインストールを終了できない場合があります。インストールの前に、次の手順に従ってアクトイブデスクトップの設定を解除します。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「アクトイブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを外します。

Windows98 の標準画面に切り替わります。

インストール終了後、改めてアクトイブデスクトップに設定してください。

アプリケーションやスクリーンセーバーの終了

開いているウィンドウや、起動しているアプリケーションをすべて終了させてください。「VirusScan」や「FM 便利ツール」など、タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションや、スクリーンセーバーも終了させてください。

また、操作中、何度もパソコンが再起動されるので、「らんらんチャチャチャ」などスタートアップに登録されているアプリケーションは、そのつど終了させる必要があります。

「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合

インストール中に、「バージョンの競合」ウィンドウが表示されることがあります。手順内で指示のない場合は、表示されたメッセージの内容をよくお読みになり、必ず⑩「アプリケーションCD」に入っているファイルがインストールされるように、「はい」または「いいえ」を選んでください。

① ディスプレイドライバをインストールする場合

☞ 次の「ディスプレイドライバをインストールする」をご覧ください。

② サウンドドライバをインストールする場合

☞ 「サウンドドライバをインストールする」(P.131)をご覧ください。

③ タッチパネルドライバをインストールする場合

☞ 「タッチパネルドライバをインストールする」(P.136)をご覧ください。

ディスプレイドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず前ページの「インストールのときに気をつけること」をご覧ください。

ディスプレイドライバのインストールは⑩「アプリケーションCD」から行います。

1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

3 (アプリケーションの追加と削除) をクリックします。

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 一覧の中の「ATI ディスプレイドライバ」をクリックします。

5 「追加と削除」をクリックします。

「ATI アンインストール」ウィンドウが表示されます。

6 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

7 ⑩「アプリケーションCD」をCD-ROM ドライブにセットします。

8 「コントロールパネル」ウィンドウの (画面) をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 9** 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
- 10** 「アダプタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 11** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 12** 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」のをクリックし、にします。
- 13** 「次へ」をクリックします。
「モデル」の一覧が表示されます。
- 14** 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 15** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:\atilt\driver
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
「デバイスの選択」ウィンドウの一覧が表示されます。
- 16** 「モデル」一覧の中の「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese)」をクリックします。
- 17** 「OK」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。:RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese)」というメッセージが表示されます。
- 18** 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーが始まります。
「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合には、「いいえ」をクリックしてください。

- 19** 「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese) ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。
「RAGE LT PRO AGP 2X (Japanese) のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
「再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「OK」または「はい」をクリックしてください。
- 20**  「アプリケーションCD」をCD-ROM ドライブから取り出します。
- 21** 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 22** 「閉じる」をクリックします。
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 23** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 24** 「コントロールパネル」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが閉じます。
- 25** 「ATIデスクトップのヘルプ」ウィンドウの右上の  (閉じるボタン) をクリックします。
次回からこのウィンドウを表示させないようにするために、「次回に Windows を起動したときにこの画面を表示する」の をクリックし、 にしてからウィンドウを閉じてください。

続いて、モニタの設定を行います。

モニタを設定する

1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

2  (画面) をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。

4 「モニタ」タブをクリックし、「変更」をクリックします。

「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

5 「次へ」をクリックします。

「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。」というメッセージが表示されます。

7 「すべてのハードウェアを表示」のをクリックしてにします。

8  **model 40X をお使いの方は**

➡ 「製造元」に「(標準のモニタ)」を、「モデル」に「Super VGA 1024 × 768」を選び、「次へ」をクリックします。

 **model 40 をお使いの方は**

➡ 「製造元」に「(標準のモニタ)」を、「モデル」に「Super VGA 800 × 600」を選び、「次へ」をクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。

9 「次へ」をクリックします。

ディスプレイのドライバがインストールされます。

10 「ハードウェア デバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されたことを確認し、「完了」をクリックします。

アドバイス

CRTディスプレイをお使いの場合は

CRTディスプレイのマニュアルをご覧になり設定してください。

アドバイス

CRTディスプレイをお使いの場合は

「アダプタ」タブで、「リフレッシュレート」を「最適」にしてください。

11 「閉じる」をクリックします。



アドバイス

メッセージが表示されたら

リフレッシュレートの調整を確認するメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。さらに、リフレッシュレートの設定の保存を確認するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

12 「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが閉じます。

13 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。

14 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動します。



アドバイス

画面の設定を変更するには

解像度や発色数などの画面の設定を変更するには、「画面の解像度や発色数を変える」(☞P.35)をご覧ください。

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

サウンドドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」（☞P.125）をご覧ください。

サウンドドライバのインストールは、「アプリケーションCD」から行います。

- 1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。**
必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2 「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。**
- 3 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。**
- 4 （アプリケーションの追加と削除）をクリックします。**
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 5 「インストール」をクリックします。**
「フロッピーディスクまたはCD-ROMからのインストール」ウィンドウが表示されます。
- 6 「次へ」をクリックします。**
しばらくすると、「インストールプログラムの実行」ウィンドウが表示されます。
- 7 「インストールプログラムのコマンドライン」に次のファイル名を入力し、「完了」をクリックします。**

```
e:¥cs4614¥setup.exe
```

- eには、お客様がお使いのCD-ROMドライブ名を入力してください。
「Crystal ドライバインストール / 削除」ウィンドウが表示されます。
- 8 「インストール」をクリックします。**
しばらくすると、「インストレーション終了」というメッセージが表示されます。
- 9 「再起動」をクリックします。**
本パソコンが再起動されます。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示され、「次の新しいドライバを検索しています。: PCI Multimedia Audio Device」というメッセージが表示されます。

- 10** 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。
- 11** 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」がになっていることを確認し、「次へ」をクリックします。
- 12** 「検索場所の指定」のをクリックしてにし、次のフォルダ名を入力します。
e:¥cs4614
- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 13** 「フロッピーディスクドライブ」と「CD-ROM ドライブ」がになっていることを確認します。
になっている場合は、をクリックしにしてください。
- 14** 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。 : Crystal SoundFusion(tm) PCI オーディオアクセラレータ」というメッセージが表示されます。
- 15** 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされ、「Crystal SoundFusion (tm) PCI オーディオアクセラレータ 新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました。」というメッセージが表示されます。
- 16** 「完了」をクリックします。
しばらくすると「Crystal SoundFusion (tm) ジョイスティック」および「Crystal SoundFusion (tm) 仮想 MPU-401」がインストールされます。



アドバイス

Windows 98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に c:¥windows¥options¥cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。

「再起動しますか？」と表示された場合は、「はい」をクリックし、本パソコンを再起動してください。

Crystal SoundFusion(tm) ディスクを要求するメッセージが表示されたときは

「OK」をクリックします。

表示されたウィンドウの「ファイルのコピー元」に次のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

e:¥crystal¥win9x

- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

「ファイルが見つかりません。」というメッセージが表示された場合は、次のいずれかのフォルダ名を入力し、「OK」をクリックしてください。

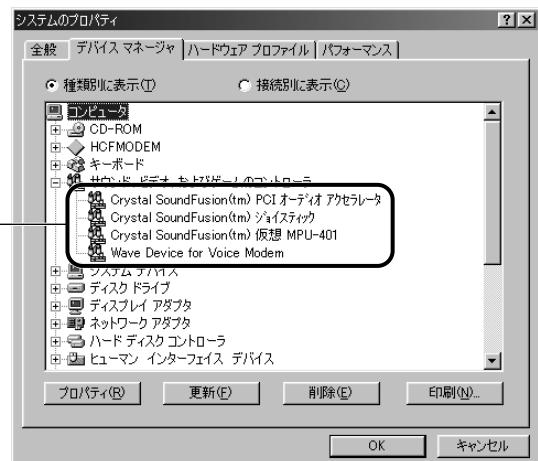
c:¥windows¥options¥cabs または c:¥windows¥system

アドバイス

「！」や「×」が表示されていたり、画面例のように表示されていない場合

「！」や「×」が表示されたり、画面例のように表示されていない場合は、手順4（☞P.131）からやり直してください。それでも「！」や「×」が表示されている場合は、弊社パーソナルエーセンターにご相談ください。

このように表示されることを確認します。



20 「OK」をクリックします。

次に、MIDIの設定を行います。

21 「コントロールパネル」ウィンドウの「マルチメディア」をクリックします。

「マルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示され、「オーディオ」タブが前面に表示されます。

22

「再生」、「録音」の「優先するデバイス」が「Crystal SoundFusion (tm)」になっていることを確認します。

なっていない場合は、右側の▼をクリックし、「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



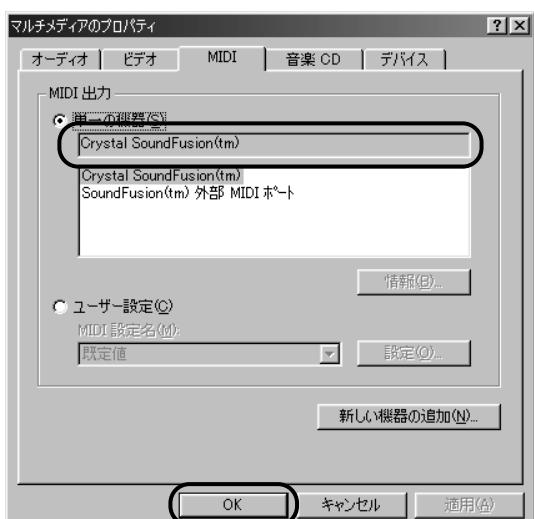
23

「MIDI」タブをクリックします。

24

「単一の機器」が「Crystal SoundFusion (tm)」になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

なっていない場合は、一覧から「Crystal SoundFusion (tm)」をクリックします。



25

「コントロールパネル」ウィンドウの  (SoundFusion(tm)) をクリックします。

「Crystal SoundFusion(tm)」のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 26 「3Dステレオ・エンハンスメント」の「使用する」が□になっていることを確認します。
☑になっている場合は、☑をクリックし□してください。
- 27 「SoundFusion(tm)DSound」の「DSoundアクセラレーションを使用する。」の☑をクリックし、□にします。
- 28 「タスクバー」の「SoundFusion(tm)コントロールをタスクバーに表示する。」が□になっていることを確認します。
☑になっている場合は、☑をクリックし□してください。
- 29 「OK」をクリックします。
- 30 「コントロールパネル」ウィンドウの右上にある×(閉じるボタン)をクリックします。
- 31 ☰「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブから取り出します。
- 32 「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。
- 33 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

 **アドバイス**

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。

タッチパネルドライバをインストールする

インストールを始める前に、必ず「インストールのときに気をつけること」(☞P.125)をご覧ください。

タッチパネルドライバのインストールは、⑩「アプリケーションCD」から行います。必ずマウスで操作してください。

1 それまで本パソコンで行っていた作業を終了します。

必要に応じて作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

3 (システム)をクリックします。

4 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

5 「マウス」内の「FT Touch Panel Driver」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

6 「ドライバ」タブをクリックします。

7 「ドライバの更新」をクリックします。

「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

8 「次へ」をクリックします。

「検索方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。

9 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

10 「ディスク使用」をクリックします。

「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。

11 ⑩「アプリケーションCD」をCD-ROMドライブにセットします。

12 「配布先ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥tpanel

- e には、お客様がお使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。

アドバイス

「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示されたら

「はい」をクリックしてください。

13 「次へ」をクリックします。

「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というメッセージが表示されます。

14 「次へ」をクリックします。

「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」というメッセージが表示されます。

15 「完了」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

16 ⑩「アプリケーションCD」をCD-ROM ドライブから取り出します。

17 「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

アドバイス

アクティブデスクトップに設定してください

ご購入時の状態に戻すには、このあと、次の手順に従ってアクティブデスクトップに設定してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Web ページで表示」をクリックし、チェックマークを付けます。
アクティブデスクトップに切り替わります。



4 その他の注意事項

液晶ディスプレイの特性

TFT 液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に 235 万個以上（解像度 1024 × 768 の場合）または 144 万個以上（解像度 800 × 600 の場合）の画素（ドット）より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、予めご了承ください。

液晶ディスプレイの廃棄

タッチパネル内の蛍光管の中には水銀が含まれています。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

赤外線通信ポートをお使いになるときの注意

本パソコンの赤外線通信ポート（☞P.2）を使って、パソコン間でデータのやり取りをすることができます。これを赤外線通信といいます。

赤外線通信ポートはタッチパネル機能と同時に使いになれません。そのため BIOS セットアップの設定を変更する必要があります。赤外線通信ポートをお使いになるときは、以下の手順に従って設定してください。



重要

ご購入時の状態では、赤外線通信ポートはお使いになれません

必ず、以下の手順に従って赤外線通信ポートが使えるように設定してください。

再びタッチパネル機能をお使いになるときは、設定を元に戻してください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」（☞P.85）をご覧ください。
- 2 を押して、Peripherals にカーソルを合わせ、 を押します。
- 3 を押して、Serial Port 2 の Operation Mode にカーソルを合わせます。
- 4 を押して、設定を「Normal」から「IrDA」に変更します。
- 5 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」（☞P.88）をご覧ください。

アドバイス

赤外線通信を行うときの注意

- 互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能な状態にし、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は、20~50cmの範囲内での使用をお勧めします。
- データの転送中にお互いのパソコンを動かすと、データの転送が失敗することがあります。
- 特に通信相手のパソコンがバッテリ運用時は、互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。

次のようなときは、うまく通信できない場合があります

- 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物があるとき
- テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作しているとき
- 直射日光や蛍光燈・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートにあたっているとき

モデムについて

内蔵モデムに電話回線を接続するときの注意



近くで雷が起きたときは、パソコン本体の電源プラグをコンセントから、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。



モジュラージャックやモジュラーコネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。

・モデムが使用可能な回線

本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。

・ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません

本モデムが接続できる回線は、一般的NTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカー・保守業者にお問い合わせください。

・デジタル回線に接続する場合

本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。モデムカードが故障する恐れがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。

・PBXに接続する場合

PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカー・保守業者にお問い合わせください。

ただし、"0"発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できことがあります。

・キャッチホン1契約をしている場合

キャッチホン1契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キャッチホン2に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。

・FAX受信時の注意

自分側からダイヤルした場合、またはハンドセットで通話している間は、相手側からのFAXを受信できません。

・通信アプリケーションご使用時の注意

通信アプリケーションでデータのアップロード/ダウンロードを行う際には、パソコンがスタンバイ状態にならないように設定してください。アップロード/ダウンロードの途中でスタンバイ状態になると、データ転送が中断することがあります。

・電源ケーブル等は離してご使用ください

電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してご使用ください。

・他のモデムを接続しないでください

他の外付けモデム、または電話機付きのモデムなどが、本モデムの「TEL」端子に接続されている場合は取り外してください。

・分岐アダプタを使用してインターネットやパソコン通信をしているときの注意

通信中は電話機の受話器を外さないようにしてください。受話器が外れると、通信の妨害となり、通信が中断されることがあります。

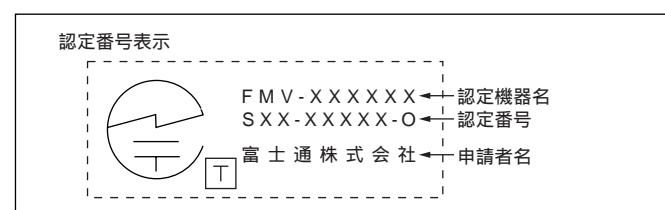
分岐アダプタを使用する場合は、なるべく2分岐以内にしてご使用ください。

・モジュラーケーブルの長さが足りないとき

添付のモジュラーケーブルで長さが足りないときは、十分な長さの市販品をお買い求めください。

認定番号の表示

本モデムの技術基準適合認定番号は、モジュラージャック差込み口の横に表記されています。



かんたんメールボタンについて

かんたんメールボタン (☞P.2) を押すと以下の状態になります。

- ・本パソコンの電源が入ることがあります。
- ・スタンバイから復帰します。

スタンバイ時の注意

- ・電源スイッチなどで本パソコンをスタンバイにしても、まれに、すぐに復帰する場合があります。その場合には、一度マウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- ・WAVE/MIDI/AVI/MPEG/DATなどのマルチメディア関連のファイルおよびCDを再生する場合、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウ (☞P.16) で「システムスタンバイ」を「なし」に設定してください。

画面表示について

- ・次の場合に画面がちらついたり、ノイズが表示されたりすることがあります。
 - 解像度が切り替わる瞬間（起動中や、MS-DOS プロンプトの全画面モードへの切り替わり時など）
 - 再起動したとき
 - 電源を入れたとき、切ったとき
 - スタンバイになるとき、スタンバイから復帰するとき
 - 「画面のプロパティ」ウィンドウで「詳細」をクリックしたとき
 - ・「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細」をクリックしたときの注意
 - 「ここをクリックするとテストパターンを行います」と表示されている部分をクリックしないでください。ここをクリックしてから「キャンセル」をクリックし、再び「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細」をクリックすると正しく表示されない場合があります。その場合は、「キャンセル」をクリックしてから再び操作してください。
 - 「調整」タブの「LCD パネルオプション」の「イメージをパネルサイズに」のチェックボックスの設定は「キャンセル」をクリックしてもキャンセルできません。チェックボックスを直接クリックして設定してください。

カラーイメージスキャナ (RapidScan) RS-100 についての注意

カラーイメージスキャナ (RapidScan) RS-100 をお使いになる場合は、BIOS セットアップの設定を変更する必要があります。Peripherals メニュー (☞P.100) で、Parallel Port の Operation Mode を「ECP」に設定してください。その他のモードでは、正常に動作しません。キーボードやマウスの操作ができない場合があります。

外部 MIDI 使用時の注意

本パソコンの外部 MIDI 出力は、16 パート 32 音までのデータしか転送できません。従って、16 パート 32 音以上のデータは、正常に再生されないことがあります。

電源の切断について

システムが停止した状態で電源を切る際、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切れた状態で、電源スイッチから指を離したときに、電源が再投入される場合があります。この場合は、再起動時に画面の左下に「Enter Setup,Press F2 key」と表示されているのを確認し、もう一度電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ってください。

ACPI について

本パソコンでは、省電力機能として、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 機能と APM (Advanced Power Management) 機能のどちらかを選んでお使いになります。ただし、ACPI 機能に設定した場合には、下記のような注意事項があります。ご購入時の設定は APM 機能となっており、そのままお使いいただくことを強くお勧めします。

ACPI 機能をお使いになる場合は、下記の注意事項を十分ご確認ください。ACPI 機能へ設定を変更する場合は、設定を正しく行わないと Windows 98 が起動しなくなる場合があります。十分ご注意ください。

重要

ハードディスクをご購入時の状態に戻してください

Windows 98 の ACPI 機能に設定を変更するには、パソコンをご購入時の状態に戻す必要があります。ハードディスク (C ドライブ) 内のファイルはすべて消えることになるため、お客様が作成したデータなどの大切なファイルは、事前にフロッピーディスクなどにコピーして保存してください。

また、ご購入後にインストールされたアプリケーションは、もう一度インストールし直す必要があります。

APM 機能に戻すときには

ハードディスク内の Windows 98 を残したまま、APM 機能へ設定を戻すことはできません。再度ハードディスクをご購入時の状態に戻す必要があります。

APM 機能へ設定を戻すには、『『トラブル解決 Q&A』』をご覧になり、ご購入時の状態に戻してから設定を変更してください。

■ 重要

拡張カードなどのオプション機器はACPIに対応している必要があります

ACPI機能はWindows98がパソコン全体の電力を管理する機能であるため、パソコンに接続されているすべての拡張カードなどのオプション機器は、ACPI機能に対応している必要があります。ACPI機能に対応していないオプション機器を接続して使用する場合には、APM機能のままお使いください。ACPI機能に設定して、ACPI機能に対応していない拡張カードなどのオプション機器を接続すると、接続したオプション機器が使用できない、省電力モードから復帰しない、などの不具合が発生する場合があります。

なお、お使いになるオプション機器によっては、デバイスドライバでACPI機能に対応できるものもあります。

詳しくは、オプション機器のマニュアルをご覧ください。

ACPIに切り替えた直後は電源スイッチを押すと電源が切れます

電源スイッチでスタンバイへの切り替えを行う場合は、以下の手順で設定を変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (電源の管理)をクリックし「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を「スタンバイ」にします。

かんたんメールボタンは、スタンバイから復帰できません

スタンバイの状態で、かんたんメールボタンを押してもスタンバイから復帰できません。電源スイッチを押してスタンバイから復帰させてから、かんたんメールボタンをお使いください。

赤外線通信ポートはお使いになれません

ACPI機能の設定では、赤外線通信ポートはお使いになれません。赤外線通信ポートをお使いになりたい方は、ご購入時の設定のまま本パソコンをお使いください。

IRQの値が変わることがあります

ACPI機能の設定では、スタンバイから復帰した場合にタッチパネルが使用しているIRQ(割り込み要求)(☞P.117)が通常のIRQ10からIRQ11などに変化する場合がありますが、動作には問題ありません。

IRQ9はACPI機能で使われます

システムリソースの「IRQ9」を「ACPIバスで使用されているSCI IRQ」が使用しますので、拡張カードなどをお使いの場合は、IRQ(割り込み要求)(☞P.117)の重複にご注意ください。

最新情報を入手するには

ACPI機能に関する最新の注意事項については、富士通インターネット情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp>)に掲載していますので、あわせてご確認ください。

Windows98 の ACPI 機能を設定する

必要なものを用意する

ACPI の設定には、以下のものが必要です。

- 『トラブル解決 Q&A』
- 『取扱説明書』
- 『リカバリ CD-ROM 起動ディスク』
- 『リカバリ CD-ROM』(1/2)(2/2)
- 『アプリケーション CD』

ACPI 切り替えプログラムを使う

いったん ACPI 機能に切り替えると、APM 機能に戻すには、増設したオプション機器(拡張カードやプリンタ、スキャナなど)を取り外し、作成したデータを保存して、再度ハードディスク(C ドライブ)をご購入時の状態に戻す必要があります。前述の注意事項を再度確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。

- 1** □『トラブル解決 Q&A』、□『取扱説明書』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻します。
ご購入後に増設されたオプション機器(拡張カード類やプリンタ、スキャナなど)はすべて取り外してください。これらのオプション機器は、すべての作業が終了するまで取り付けないでください。
また、ご購入後に作成したデータ、インストールしたアプリケーションなどは、すべて削除されます。必要なデータは、あらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。
- 2** BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを起動する」(☞P.85)をご覧ください。
- 3** □□を押して、Peripherals にカーソルを合わせ、[F8]を押します。
- 4** [Enter] を押します。

 **アドバイス**

PS/2 Mouse Controllerが表示されていない場合は

1 [Esc]を押します。
Main Menu画面に戻ります。

2 Peripheralsにカーソルが合っていることを確認し、[F8]を押します。

3 [Enter]を押します。
PS/2 Mouse Controllerが表示されます。

5   を押して、PS/2 Mouse Controllerにカーソルを合わせます。

6   を押して、設定を「Enabled」から「Disabled」に変更します。

7 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します。
詳しくは、「BIOS セットアップを終了する」(☞P.88)をご覧ください。

8  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。

9 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

10 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

e:¥chgacpi¥chgacpi.exe

- eには、お使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください。

「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。内容をよくお読みください。

11 「次へ」をクリックします。

12 「ACPI モードに設定する」の をクリックし、 にします。

13 「次へ」をクリックします。

14 「完了」をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

15 「次へ」をクリックします。

「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されます。

16 「次へ」をクリックします。

17 「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら「デバイスは一覧にない」の をクリックして にし、「次へ」をクリックします。

18 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検索します。」というメッセージが表示されます。

19 「次へ」をクリックします。
新しいデバイスの検索が始まります。検索には数分かかります。「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました。」というメッセージが表示されます。

20 「完了」をクリックします。

21 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、フロッピーディスクがセットされていないことを確認し、「はい」をクリックします。
Windows 98 が再起動し、新しいハードウェアの検出が実行されます。

22 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

23 本パソコンが再起動したら、CD-ROM ドライブから⑩「アプリケーション CD」を取り出します。

24 ACPI機能に設定されたことを確認するため、電源スイッチを押します。
自動的に電源切断処理が行われ、Windows 98 が終了すれば、ACPI機能が正常に働いています。

25 電源が切れたら、10秒ほど待って、もう一度本パソコンの電源を入れます。

26 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

27  (画面) をクリックします。

28 「設定」タブをクリックし、「色」を「High Color(16 ピット)」に設定します。

29 「OK」をクリックします。

アドバイス

メッセージが表示されたら

・「ドライバ更新の警告」
ウインドウが表示された場合は「はい」をクリックしてください。

・「Windows 98 の CD-ROM」を要求するメッセージが表示された場合には、
c:\windows\options\cabs

と入力し、「OK」をクリックしてください。

・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合は「OK」をクリックし、続いて表示される「画面のプロパティ」ウインドウで「キャンセル」をクリックしてください。

アドバイス

「らんらんチャチャチャ」のメッセージが表示されたら

「OK」をクリックして下さい。

30 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。

本パソコンが再起動します。

31 画面の設定をします。

ご購入時の状態に戻すには、解像度や発色数などの画面の設定を変更する必要があります。詳しくは、「画面の解像度や発色数を変える」(☞P.35)をご覧ください。

3 モードフロッピードライバを再インストールする

1 「コントロールパネル」ウィンドウの (システム)をクリックします。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「フロッピーディスクコントローラ」のをクリックします。

3 「Fujitsu3-modeFloppy(FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。

「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

4 「OK」をクリックします。

5 「閉じる」をクリックします。

6 「コントロールパネル」ウィンドウの (ハードウェアの追加)をクリックします。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。

7 「次へ」をクリックします。

8 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というメッセージが表示されたら、「次へ」をクリックします。

9 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックします。

10 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。

アドバイス

「インストールするデバイスは一覧にありますか？」というメッセージが表示されたら

「デバイスは一覧にない」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックしてください。

- 11** 「ディスク使用」をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 12**  「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブにセットします。
- 13** 「配布ファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
e:¥3 mode
- e には、お使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- 14** 「次へ」をクリックします。
- 15** 「完了」をクリックします。
ファイルのコピーが始まり、しばらくすると「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- 16** 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。
- 17** 本パソコンが再起動したら、CD-ROM ドライブから  「アプリケーション CD」を取り出します。
- タッチパネルドライバを再インストールする
- 「タッチパネルドライバをインストールする」(☞P.136)をご覧になり、タッチパネルドライバのインストールを行ってください。
- これで ACPI 機能の設定は終了です。
このあとにオプション機器の接続、アプリケーションのインストールを行ってください。

索引

記号

- 2DD
- 2HD
- 3 モードドライブ

A

- ACPI
- AdvancedMenu
- Alt キー
- Application キー
- Application ボタン
- Application ボタン1 /E-mail ボタン ...
- Application ボタン2 /Internet ボタン ..
- Application ボタン3

B

- Backspace キー
- BIOS セットアップ

 - の設定時に使う各キーの役割
 - の設定を変更する
 - の変更内容を取り消す
 - メッセージ一覧
 - メニューの詳細
 - を起動する
 - をご購入時の設定に戻す
 - を終了する

- BootOptions
- BUSY ランプ

C

- Caps Lock 英数キー
- CD
- CD-ROM

 - が取り出せないとき
 - をセットする
 - を取り出す

- CD-ROM ドライブ
- CD 操作ボタン
- CMOS RAM
- CPU
- CRT ディスプレイ

 - の解像度と発色数

- Ctrl キー

D

- 17 DateandTime
- 17 Delete キー
- 17 DIMM
- DisDrives

E

- 142 ECC
- 92 EJECT ボタン
- 6 End キー
- 8 Enter キー
- 6 Esc キー
- 8 ExitSetupUtility

F

- 58 FAX / ボイスモデムカード
- 7 - 仕様
- 116 84 F キー
- 6 86 H
- 7 87 Home キー
- 110 92 I
- 74 85 DE
- 7 90 Insert キー
- 117 88 RQ
- 117 96 - 一覧
- 118 3 - を解放する

L

- 6 LAN カード
- 20 LINEIN 端子
- 4 20 LINEOUT 端子
- 4 22 LINE 端子
- 5, 122 21

M

- 2 MB
- 17, 57 8 MIDI/JOYSTICK 端子
- 4, 123 84
- 69 57 MO ドライブ
- 8 81 Mute (消音)ボタン
- 8 82
- 6

N

Num Lock キー 7

P

Page Down キー 7

Page Up キー 7

Pause キー 7

PC/AT 互換機 44

PC 64

PC カードスロット 63

Peripherals 100

PHONE 端子 5, 122

Plug&Play 49, 65

PhP 49, 65

PhP/PCI 104

PowerManagement 105

PrintScreen キー 7

ProductInformation 94

イ

7 インジケータ 7

インレット 4

工

7 液晶ディスプレイ 115

7 - 仕様 115

44 - の特性 138

64 - の廃棄 138

63 エラーメッセージ 110

オ

お手入れ 38

42, 74

オプション機器 8

音量調節ボタン 24

音量つまみ 3

音量ボリューム 23

力

7 カーソルキー 7

35

解像度 36

36

63, 70 - を変更する 19

70 書き込み禁止タブ 19

63

58 拡張カード 63

6 - を取り付ける 66

66

58 拡張スロット 5, 64

92 各部の名称と働き 2

2

画面 35

35

かんたんメールボタン 2, 141

キ

キーボード 6

38

2 - のお手入れ 38

5, 121

54 キーボードコネクタ 14

14

ク

103 空白キー 6

11

クリック 11

T

TWAIN 50

U

USB 2

USB 機器 54

USB コネクタ 2, 5, 121

V

Video 6

W

Windows キー 6

ケ	
ケーブル	123
コ	
コア	124
コネクタのピン配列と信号名	119
サ	
再生／一時停止ボタン	8
サウンド機能仕様	115
サウンドドライバをインストールする ...	131
シ	
終端抵抗	70, 71
終了	13
仕様一覧	114
省電力	15
シリアルコネクタ	5, 120
ス	
スキャナ	50, 141
スクリーンセーバーボタン	8
スクロールボタン	9, 30
スタンバイ	15, 141
スタンバイボタン	8
スピーカー	3, 23
- から音が聞こえないとき	24
- 仕様	115
- の音量を調節する	23
スペースキー	6
スロットカバー	6, 7
セ	
赤外線通信ポート	2, 138
セットする	
- CD-ROM	21
- フロッピーディスク	19
ソ	
増設する	
- MO ドライブ	69
- 拡張カード	63
- ハードディスク	74
- メモリ	57
外付け MO ドライブ	70
- を取り付ける	71
タ	
ターミナルアダプタ	53
ターミネータ	70, 71
タッチパネル	3, 32
- 仕様	115
- のお手入れ	38
- のドライバをインストールする	136
- の補正	33
チ	
チルトフット	6
ツ	
通風孔	4, 5
テ	
停止／取り出しボタン	8
ディスプレイコネクタ	5, 119
ディスプレイドライバをインストールする	126
デジタルカメラ	52
デバイス	118
テンキー	7
電源	12
- を入れる	12
- を切る	13
電源スイッチ	3
電源ランプ	3
ト	
取っ手	4
ドライバ	44

取り出す		フロッピーディスクドライブ	2
- CD-ROM	22	- のお手入れ	40
- フロッピーディスク	19	フロッピーディスク取り出しボタン	2
取り付ける		▲	
- 拡張カード	66	ヘッドホン	25
- 外付け MO ドライブ	71	- から音が聞こえないとき	26
- 本体カバー	56	ヘッドホン端子	3
- メモリ	59	ペン	3, 32
取り外す		木	
- 本体カバー	55	ボリュームボタン (+)	8
ハ		ボリュームボタン (-)	8
ハードディスク	74	本体カバー	55
- の領域を設定する	74	- を取り付ける	56
- を増設する	78	- を取り外す	55
- をフォーマットする		マ	
ハードディスクアクセス表示ランプ	3	マイク	27
ハーフサイズ	64	マイク端子	2
パソコン本体	2	マウス	9
- 仕様	114	- のお手入れ	38
- のお手入れ	38	マウスコネクタ	5, 121
発色数	35	マウスポート	6
- を変更する	36	巻き戻しボタン	8
早送りボタン	8	ミ	
パラレルコネクタ	5, 120	右クリック	11
ヒ		右ボタン	9
光磁気ディスクドライブ	69	ミュート	24
左ボタン	9	メ	
ビデオキャプチャカード	63	メモリ	57
フ		- の組み合わせ	59
ファンクションキー	6	- の取り付け場所	58
フォトレタッチソフト	50	- の持ちかた	60
ライトネスボリューム	3	- 容量を確認する	62
プラグアンドプレイ	49, 65	- を取り付ける	59
プリンタ	46	- を増やす	57
プリンタケーブル	46	メモリスロット	58
フロッピーディスク	17		
- のデータを守る	19		
- をセットする	19		
- を取り出す	19		
フロッピーディスクアクセス表示ランプ	2		

モ

- モデムカード 63, 139
- 仕様 116

ロ

- 録音する 27

ワ

- 割り込み要求 117
ワンタッチボタン 6, 8

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、WindowsNTは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Celeronは、米国インテル社の商標です。

Outlookは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ATI、RAGEは ATI Technologies Inc の商標です。

K56flexは Lucent Technologies 社、Rockwell International 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 1999

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

使いこなす本 ハード編

B3FH-5251-01-01

発行日 1999年5月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。

落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

（ア）9907-2

OPEN



箱を開けたら...

箱の中身を確認してください。
ご購入後、できるだけ早く添付品を確認
しましょう。

はじめに読む本

まず最初に...

1 取扱説明書



パソコンが初めてなら...

2 かるがるパソコン入門



FMVを知ろう!

3 FMV総合案内



使いこなす本



インターネット編

- ・インターネットをはじめる
- ・ホームページを見る
- ・Eメールで手紙を出す



ソフト編

- ・地図で調べる
- ・電車の経路を調べる
- ・はがきを作る
- ・写真でカレンダーを作る



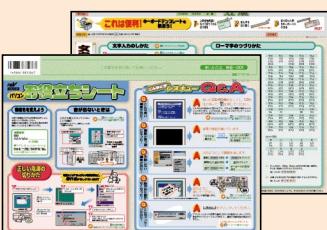
ハード編

- ・各部の名称を知る
- ・プリンタをつなぐ
- ・メモリを増やす

困ったときの本

お役立ちシート

- お手元に置いてお使いください。
 ・ありがちなトラブルの解決
 ・文字入力早わかり



トラブル解決Q & A

- ・困ったときの画面集
- ・トラブル解決の道のり
- ・サポート情報
- ・パソコンをぶりだしにもどす
- ・アプリケーションのインストール



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618873147